

# SREX-FSU1G/FSU2



## ユーザーズマニュアル

第3.0版



# 指紋認証システム導入ガイド

指紋認証システムセットを導入するには、「指紋センサドライバ」と「OmniPass(指紋認証ソフトウェア)」のインストールが必要です。

下表にしたがい、指紋センサドライバのインストールを行ってから、OmniPass のインストールを行ってください。

## ■ SREX-FSU1G をご利用の場合 ■

| OS                                  | 指紋センサドライバのインストール | OmniPass のインストール  |
|-------------------------------------|------------------|---|
| Windows 7                           | ⇒ 16 頁へ          | ⇒ 33 頁へ<br>(OmniPass のインストール後は<br>「3-2. OmniPass ユーザ登録」へ<br>進んでください。) |
| Windows Vista<br>Windows Server2008 | ⇒ 18 頁へ          |   |
| Windows XP<br>Windows Server2003    | ⇒ 21 頁へ          |   |
| Windows 2000                        | ⇒ 21 頁へ          | ⇒ 74 頁へ<br>(OmniPass のインストール後は<br>「6-2. OmniPass ユーザ登録」へ<br>進んでください。) |

## ■ SREX-FSU2 をご利用の場合 ■

| OS                                  | 指紋センサドライバのインストール | OmniPass のインストール  |
|-------------------------------------|------------------|---|
| Windows 7                           | ⇒ 23 頁へ          | ⇒ 33 頁へ<br>(OmniPass のインストール後は<br>「3-2. OmniPass ユーザ登録」へ<br>進んでください。) |
| Windows Vista<br>Windows Server2008 | ⇒ 25 頁へ          |   |
| Windows XP<br>Windows Server2003    | ⇒ 29 頁へ          |   |

# 目次

---

## 第1章 はじめに

|                  |      |
|------------------|------|
| 1-1.製品の特徴        | 5 頁  |
| 1-2.安全にお使い頂くために  | 10 頁 |
| 1-3 製品に関するお問い合わせ | 13 頁 |

## 第2章 準備

|                                   |      |
|-----------------------------------|------|
| 2-1.マニュアルの構成                      | 14 頁 |
| 2-2.SREX-FSU1G インストール             | 16 頁 |
| ■Windows 7 インストール                 |      |
| ■Windows Vista/Server2008 インストール  |      |
| ■WindowsXP/2000/Server2003 インストール |      |
| 2-3.SREX-FSU2 インストール              | 23 頁 |
| ■Windows 7 インストール                 |      |
| ■Windows Vista/Server2008 インストール  |      |
| ■WindowsXP/Server2003 インストール      |      |
| 2-4.Windows ログオンパスワード作成           | 31 頁 |

## 第3章 登録 (Windows 7/Vista/XP/Server2008/Server2003)

|                     |      |
|---------------------|------|
| 3-1.OmniPass インストール | 33 頁 |
| ■OmniPass のインストール   |      |
| ■OmniPass のアンインストール |      |
| 3-2.OmniPass ユーザ登録  | 37 頁 |
| ■OmniPass ユーザ登録     |      |
| ■OmniPass 認証ダイアログ   |      |

## 第4章 使用 (Windows 7/Vista/XP/Server2008/Server2003)

|                       |      |
|-----------------------|------|
| 4-1.アカウント情報の記憶        | 42 頁 |
| ■Web ログオンパスワードの記憶     |      |
| ■アプリケーションログオンパスワードの記憶 |      |
| ■ID の管理               |      |
| 4-2.暗号化と復号化           | 51 頁 |
| ■暗号化                  |      |
| ■復号化                  |      |
| ■暗号化ファイルの共有           |      |

## 第5章 管理と設定 (Windows 7/Vista/XP/Server2008/Server2003)

### 5-1. ユーザの追加と削除 56 頁

---

■ユーザの追加

■ユーザの削除

### 5-2. アカウント情報の管理 58 頁

---

### 5-3. プロファイルのバックアップと復元 60 頁

---

■ユーザプロファイルのバックアップ

■ユーザプロファイルの復元

### 5-4. OmniPass コントロールセンタその他の設定 64 頁

---

■ユーザのデバイス登録の変更

■認証デバイスの必須設定

■強力ログオンセキュリティを有効にする (WindowsXP のみ)

■緊急ポリシーオーバーライド機能を有効にする

■OmniPass へのログオン設定

■暗号化/復号化の設定

■サウンド設定

■タスクバーヒントの設定

■認証ウィンドウの設定

## 第6章 登録 (Windows 2000)

### 6-1. OmniPass インストール 74 頁

---

■OmniPass のインストール

■OmniPass のアンインストール

### 6-2. OmniPass ユーザ登録 78 頁

---

■OmniPass ユーザ登録

■OmniPass へのログオン

## 第7章 使用 (Windows 2000)

### 7-1. アカウント情報の記憶 84 頁

---

■Web ログオンパスワードの記憶

■アプリケーションログオンパスワードの記憶

■ID の管理

### 7-2. 暗号化と復号化 92 頁

---

■暗号化

■復号化

■暗号化ファイルの共有

## 第8章 管理と設定 (Windows 2000)

8-1. ユーザの追加と削除 97 頁

---

■ユーザの追加

■ユーザの削除

8-2. アカウント情報の管理 99 頁

---

8-3. インポートとエクスポート 101 頁

---

■ユーザのエクスポート

■ユーザのインポート

8-4. OmniPass コントロールセンタその他の設定 104 頁

---

■認証デバイスの登録

■認証デバイスの必須設定

■暗号化/復号化

■サウンド設定

■タスクバーヒントの設定

## 第9章 付録

9-1. アプリケーション API 109 頁

---

■OmniPass 認証サンプルプログラム概要

■API 呼び出し方法

■API インターフェイス仕様

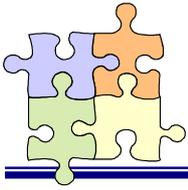
9-2. トラブルシューティング 116 頁

---

■OmniPass ログオン画面が表示されない

■OmniPass ユーザの追加ができない

■ブランクパスワードのユーザを OmniPass に追加できない



## 第1章 はじめに

### 1-1. 製品の特徴

本章では SREX-FSU1G および SREX-FSU2 指紋センサおよび付属ソフトウェアの製品の特徴と使用上の注意点について説明しています。

#### SREX-FSU1G について

※ 本製品[SREX-FSU1G]は、前製品である[SREX-FSU1]の後継製品です。  
双方は、指紋センサ内部の仕様が同一であり、同じドライバソフトウェアおよび、アプリケーションソフトウェアがご使用いただけます。そのため、本ユーザーズマニュアル本分で引用しておりますインストール画面などで[SREX-FSU1]と表記されている箇所がありますが、ご使用上問題ありません。

#### ■使いやすく軽量コンパクト

指紋センサに富士通製静電容量式半導体センサ 256×300 ピクセルを搭載。小型でありながらセンサ面が大きく、自然に指を置くことができ、使いやすいデザインになっています。

また、接続ケーブルは指紋センサ本体から取り外せるセパレート式で、ケーブルの取りまわしが良く、持ち運びもコンパクトに扱えます。

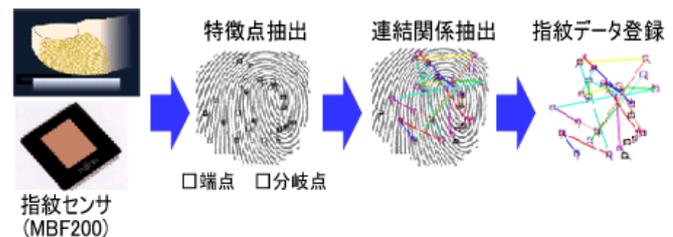


#### ■確実な個人認証が可能

指紋認証エンジンに最新のバイオメトリクス技術「特徴点相関方式」を採用。さらに、認証しづらい指紋に対して形状特徴を追加して照合を行う(適応型形状相関法)ことにより、本人受理率 99.96% 以上、他人受理率 0.0002% 以下の高性能な指紋識別能力を実現しました。また、指紋データは暗号化された非可逆性データで実際の指紋画像には戻せませんので、プライバシー保護も万全です。

##### 「特徴点相関方式」の概念

隆線は指紋の模様を形成する皮膚の盛り上がった部分になり、特徴点には隆線が止まっている部分(端点)と隆線が分岐している部分(分岐点)があります。特徴点相関方式では端点と分岐点のデータのみを使用しますので、指紋データが記録されることはありません。



## SREX-FSU2 について

### ■使いやすく軽量コンパクト

本製品は Validity 社の LiveFlex テクノロジ(高パフォーマンス・耐久性を持つセンサを開発する基盤技術)を採用し、高い信頼性・耐久性を実現したスワイプタイプの指紋センサです。

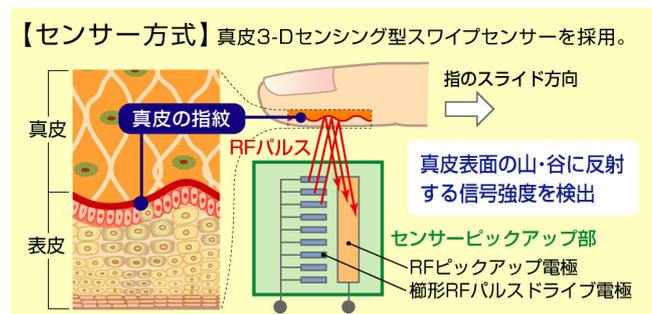
46.0(W)×64.5(L)×13.0(H)mm/約 40g と小型・軽量で、指をスライドさせるのに最適なサイズとなっています。

また、接続ケーブルは指紋センサ本体から取り外せるセパレート式で、ケーブルの取りまわしが良く、持ち運びもコンパクトに扱えます。



### ■真皮指紋認証

SREX-FSU2 は高周波 RF センシング機構により、表皮より約 0.5mm 下の真皮指紋を立体的に読み取ることで、「乾燥指」「しめった指」「荒れた指」「傷のある指」など、指表面の状態にほとんど左右されず、高い読み取り精度を実現します。



### ■耐久性

指が直接センサ面に触れないプラスチックフィルムセンサを採用している為、指の接触・衝撃・静電気に高い耐久性を発揮します。

## 認証ソフトウェアのデファクトスタンダード OmniPass7.0 採用

SREX-FSU1G および SREX-FSU2 指紋センサと OmniPass を統合することにより、コンピュータ、アプリケーション、Web サイト、その他のパスワードで保護されたリソースへのアクセスを制限する強固なセキュリティ認証システムの実現が可能です。OmniPass は下記の機能を提供します。

### ●指紋認証による Windows ログオン

指紋認証により Windows にログオンします。ユーザ名とパスワードを入力する必要はありません。スタンバイからの復帰時、パスワード対応スクリーンセーバーロックの解除時も指紋認証によるログオンが可能です。

### ●ファイルの暗号化と共有

ファイルもしくはフォルダを選ぶだけで指紋認証を使ったファイルの暗号化と復号化を行うことができます。個人情報、機密情報のセキュリティ保護を行うことができます。

暗号化したファイルを他のユーザと共有する機能も提供しています。

### ●アカウント情報の管理

アカウント情報を要求する Web サイトやアプリケーションのアカウント情報（ユーザ名やパスワード）を無制限に記憶させることができます。一度 OmniPass にアカウント情報を記憶させることにより、以後指紋認証を利用してログオンすることが可能になります。複数のアカウント情報を覚えておくことができ、毎回入力する必要はありません。

### ●一台のパソコンを複数のユーザで利用することが可能

複数ユーザの指紋を登録し利用することができます。暗号化ファイルの共有設定も可能です。

### ●ユーザ作成アプリケーションから認証呼び出し

ユーザが作成したアプリケーションプログラムに OmniPass 指紋認証ダイアログを呼び出すための API を公開しています。簡単に指紋認証を組み込むことができます。

### ●SREX-FSU1G と SREX-FSU2 の共存

SREX-FSU1G 指紋センサと SREX-FSU2 指紋センサの共存が可能で、両センサが接続されている場合、どちらでも認証することが可能です。

（ただし、それぞれのセンサで登録したデータに互換性はありませんので、登録した指紋センサで認証してください。）

## ■パッケージの内容

本製品のパッケージには、次のものが同梱されています。不足の場合は、お手数ですが販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。

- SREX-FSU1G もしくは SREX-FSU2 指紋認証装置
- USB ケーブル (約 1m)
- セットアップディスク (CD-ROM)
- インストールガイド
- 保証書

## ■ OmniPass7.0/3.0 製品仕様

|        |  |
|--------|--|
| 対応 OS  | Windows 7/Windows Vista/Windows XP<br>Windows Server2008/Windows Server2003<br>Windows 2000 (OmniPass3.0) [※ SREX-FSU1G のみ対応]<br><br> 64 ビット OS には対応していません。 |
| 対応ブラウザ | Internet Explorer 6.0 以上 / Firefox 3.0 以上<br>[OmniPass3.0 では Internet Explorer5.0/6.0 のみに対応。]  |

## ■SREX-FSU1G 製品仕様

|           |   |
|-----------|---|
| 製品名       | USB 指紋認証装置 (USB Fingerprint Sensor)   |
| 型番        | SREX-FSU1G  |
| 指紋センサ     | 静電容量式半導体センサ<br>センサエリア：12.8mm×15mm<br>解像度：500dpi   |
| インターフェイス  | USB1.1  |
| 電源仕様      | USB バスパワーデバイス   |
| 消費電流      | 動作時：20mA(typ.) 非動作時：10mA(typ.)<br>サスペンド時：300uA  |
| 保証動作環境    | 温度：5～35℃ 湿度：20～80%  |
| 外形寸法・重量   | 40mm×68mm×25mm 約 50g(USB ケーブル含まず)   |
| USB ケーブル長 | 約 1m (着脱可能)   |
| 対応 OS     | Windows 7/Windows Vista/Windows XP/Windows 2000<br>Windows Server2008/Windows Server2003<br><br> 64 ビット OS には対応していません。 |

## ■SREX-FSU2 製品仕様

|           |  |
|-----------|--|
| 製品名       | USB 指紋認証装置 (USB Fingerprint Sensor)  |
| 型番        | SREX-FSU2  |
| 指紋センサ     | RF 方式 真皮 3-D センシング型スワイプセンサ (Validity 社 VFS201)<br>センサエリア：約 14mm×3mm<br>解像度：508dpi<br>256 レベルグレイスケール 8Bit/pixel   |
| インターフェイス  | USB2.0 Full Speed Compliant  |
| 電源仕様      | USB バスパワーデバイス  |
| 消費電流      | 動作時：60mA(typ.) 非動作時：20mA(typ.)<br>サスペンド時：300uA   |
| ESD 耐圧    | ±15kV (IEC610004-2 Level4)   |
| 保証動作環境    | 温度：0~70℃ 湿度：20~80%   |
| 外形寸法・重量   | 46.0(W)×64.5(L)×13.0(H)mm 約 40g (USB ケーブル含まず)  |
| USB ケーブル長 | 約 1m (着脱可能)  |
| 対応 OS     | Windows 7/Windows Vista/Windows XP<br>Windows Server2008/Windows Server2003<br><br> 64 ビット OS には対応していません。 |



## 第1章 はじめに

### 1-2. 安全にお使い頂くために

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本マニュアルでは、いろいろな表示をしています。これは、本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するために目安となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。

|   |   |
|---|---|
|  | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、データを失ったり、機密を要するデータが公開されたり、システムへのアクセスを拒否される等の危険があります。   |
|  | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、本製品の機能が損なわれ、本マニュアルに記載された手順通りの動作ができなくなる可能性があることを示しています。 |

### ご使用上の注意事項

#### ■接続時のご注意

- ①1台のパソコンに同一の指紋センサを複数接続しないでください。
- ②USBハブに接続して使用する場合は、セルフパワー電源タイプ（ACアダプタなどで電源が供給されるタイプ）のハブに接続し、直列接続は2段以内にしてください。
- ③他社製の指紋センサがインストールされている場合は、そのソフトウェアをアンインストールしてから本指紋センサを接続してください。
- ④指紋認証中に本指紋センサの取り外しを行わないでください。

### SREX-FSU1G 使用時のご注意

#### ■SREX-FSU1G 指紋登録時・照合時のご注意

- ①指の状態が以下のような場合には指紋の登録や照合が困難になったり、照合率が低下したりすることがあります。
  - ・汗や脂が多い
  - ・手が荒れている、または極端に乾燥している
  - ・指に傷がある、または摩耗して指紋が薄い
  - ・急に太ったり、やせたりして指紋が変化した手を洗う、手を拭く、登録する指を変えるなどお客様の指の状態に合わせて対処することで、状況が改善されることがあります。
- ②指紋の登録や照合を行うときは、センサに正しく指を置いてください。

## ■SREX-FSU1G 指の置き方について

本指紋センサの認識率や照合率の精度を保つために、下図①を参考に指を置いてください。指の腹（指紋の中心部）をセンサの中央に置きます。下図②は指の置き方の悪い例になります。指を斜めに置いたり、指の一部しかセンサに触れていなかったりすると正確に指紋が読み取れません。



図①.指の腹の中央をセンサに密着させる



図②.指の一部しかセンサに触れていない

### 指紋サンプル例

#### ●正しく読み取られた指紋



#### ●読み取り時に問題のある指紋



(A) 指を奥に置きすぎている

(B) 指を手前に置きすぎている

(C) 指がセンサの右側にずれている

(D) 指の押しかたが弱い

(E) 指が立っている

#### ●読み取れない指紋



(A) 指が乾きすぎている

(B) 汗が多すぎる

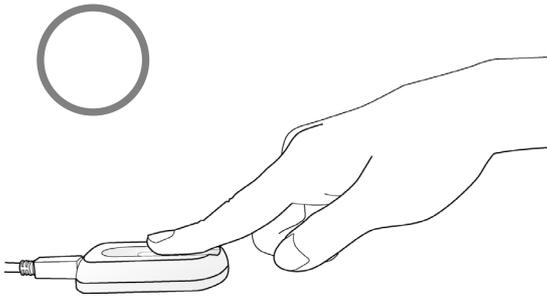
(C) 指が摩耗している

## SREX-FSU2 使用時のご注意

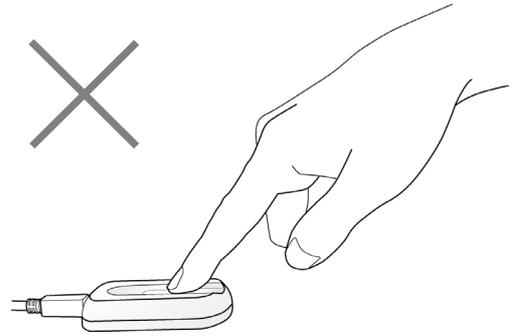
### ■SREX-FSU2 指のスライド方法について

本指紋センサの認識率や照合率の精度を保つために、下図①を参考に指を置いてください。指の第1関節部あたりからスライドさせます。

下図②は指の置き方の悪い例になります。指を斜めに置いたり、指の一部しかセンサに触れていなかったりすると正確に指紋が読み取れません。



図①.指の第1関節部あたりからスライド



図②.指の一部しかセンサに触れていない

### その他のご注意



①指紋認証技術は完全な本人認証・照合を保証するものではありません。当社では本製品を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。



②本製品はパソコン用周辺機器として設計されております。人命に関わる用途、または高度な信頼性、安全性を要する用途での使用は考慮されておりません。このような用途で使用される設備、機器、システム等への組み込みは避けてください。



③本書の内容に関しましては、将来予告なしに変更することがあります。また、本書の内容につきましては万全を期して作成しましたが、万一不審な点や誤りなどお気づきになりましたらご連絡願います。



④本製品は日本国内仕様となっており、海外での保守およびサポートは行っておりません。



⑤本製品は電子機器ですので、静電気を与えないでください。



⑥ラジオやテレビ、オーディオ機器の近く、モータなどノイズを発生する機器の近くでは誤動作することがあります。必ず離してご使用ください。



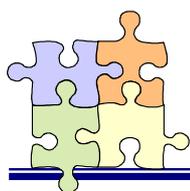
⑦高温多湿の場所、温度差の激しい場所、チリやほこりの多い場所、振動や衝撃の加わる場所、スピーカ等の磁気を帯びたものの近くでの保管は避けてください。



⑧製品の分解や改造等は、絶対に行わないでください。



⑨無理に曲げる、落とす、傷つける、上に重いものを載せることは行わないでください。



## 第1章 はじめに

### 1-3. 製品に関するお問い合わせ

---

本製品に関するご質問がございましたら、下記までお問い合わせください。お問い合わせの際には、巻末の「質問用紙」に必要事項をご記入の上、下記 FAX 番号までお送りください。折り返し弊社より電話または FAX、電子メールにて回答いたします。

ご質問に対する回答は、下記営業時間内となりますのでご了承ください。また、ご質問の内容によりましてはテスト・チェック等の関係上、時間がかかる場合もございますので予めご了承ください。

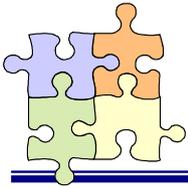
ラトックシステム株式会社 サポートセンター  
〒556-0012 大阪市浪速区敷津東 1-6-14 朝日なんばビル  
TEL 06-6633-6741  
月～金 10:00～13:00、14:00～17:00  
土曜、日曜および祝日を除く

FAX 06-6633-8285  
電子メール：<https://ssl.ratocsystems.com/mail/support.html>

ホームページで最新の情報をお届けしております。  
<http://www.ratocsystems.com>

#### 個人情報取り扱いについて

ご連絡いただいた氏名、住所、電話番号、メールアドレス、その他の個人情報は、お客様への回答など本件に関する業務のみに利用し、他の目的では利用致しません。



## 第2章 準備

### 2-1. マニュアルの構成

本マニュアルの第2章「準備」からは、SREX-FSU1G/FSU2 指紋センサとセキュリティ認証ソフトウェア OmniPass を組み合わせて使用して頂く上で最初に行う必要がある準備事項について説明を行っています。

第4章「使用」(Windows2000 の場合は第7章)では、実際に OmniPass を使って頂くための操作方法について説明を行っています。

第5章「管理と設定」(Windows2000 の場合は第8章)では、OmniPass の各種設定項目の解説および運用管理の方法に関する説明を行っています。

本製品をご利用される前に、第2章/第3章(Windows2000 の場合は第6章)で説明されている準備作業を必ず行ってください。

第4章/第7章「使用」および第5章/第8章「管理と設定」で説明されている項目に関しては、ご使用の目的に合わせて必要となる内容をご参照願います。

本マニュアルは下表のように構成されています。

#### ●第2章 「準備」(Windows 7/Vista/XP/2000/Server2008/Server2003)

|                         |                             |
|-------------------------|-----------------------------|
| 2-2.SREX-FSU1G インストール   | 指紋センサドライバのインストール手順を説明します。   |
| 2-3.SREX-FSU2 インストール    | 指紋センサドライバのインストール手順を説明します。   |
| 2-4.Windows ログオンパスワード作成 | Windows ユーザアカウント登録手順を説明します。 |

#### ●第3章 「登録」(Windows 7/Vista/XP/Server2008/Server2003)

|                      |                             |
|----------------------|-----------------------------|
| 3-1.OmniPass をインストール | インストール、アンインストール手順を説明します。    |
| 3-2.OmniPass ユーザ登録   | OmniPass にユーザを登録する方法を説明します。 |

#### ●第4章 「使用」(Windows 7/Vista/XP/Server2008/Server2003)

|                |                                 |
|----------------|---------------------------------|
| 4-1.アカウント情報の記憶 | ID とパスワードの自動入力機能の使用方法を説明します。    |
| 4-2.暗号化と復号化    | ファイルとフォルダの暗号化/復号化機能の使用方法を説明します。 |

#### ●第5章 「管理と設定」(Windows 7/Vista/XP/Server2008/Server2003)

|                              |                                |
|------------------------------|--------------------------------|
| 5-1.ユーザの追加と削除                | OmniPass にユーザを追加/削除する方法を説明します。 |
| 5-2.アカウント情報の管理               | 4-1 で記憶したアカウント情報の管理方法を説明します。   |
| 5-3.プロファイルのバックアップと復元         | エクスポート/インポート機能の使用方法を説明します。     |
| 5-4.OmniPass コントロールセンタその他の設定 | その他の OmniPass 機能を説明します。        |

#### ●第6章 「登録」(Windows 2000)

|                      |                             |
|----------------------|-----------------------------|
| 6-1.OmniPass をインストール | インストール、アンインストール手順を説明します。    |
| 6-2.OmniPass ユーザ登録   | OmniPass にユーザを登録する方法を説明します。 |

●第7章 「使用」(Windows 2000)

|                |                                 |
|----------------|---------------------------------|
| 7-1.アカウント情報の記憶 | IDとパスワードの自動入力機能の使用方法を説明します。     |
| 7-2.暗号化と復号化    | ファイルとフォルダの暗号化/復号化機能の使用方法を説明します。 |

●第8章 「管理と設定」(Windows 2000)

|                             |                               |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 8-1.ユーザの追加と削除               | OmniPassにユーザを追加/削除する方法を説明します。 |
| 8-2.アカウント情報の管理              | 7-1で記憶したアカウント情報の管理方法を説明します。   |
| 8-3.インポートとエクスポート            | エクスポート/インポート機能の使用方法を説明します。    |
| 8-4.OmniPassコントロールセンタその他の設定 | その他のOmniPass機能を説明します。         |

●第9章 「付録」

|                 |                       |
|-----------------|-----------------------|
| 9-1.アプリケーションAPI | OmniPass認証用APIを説明します。 |
| 9-2.トラブルシューティング | トラブルシューティングについて説明します。 |



## 第2章 準備

### 2-2. SREX-FSU1G インストール

OmniPass 指紋認証登録を行う前に、必ず SREX-FSU1G のインストールを行ってください。



下記は Windows7 でのインストール手順になります。

Windows Vista/Server2008 でのインストールは、18 頁以降の手順を、

Windows XP/2000/Server2003 でのインストールは、21 頁以降の手順に従ってください。

#### ■Windows 7 インストール

- 1 指紋センサを PC に接続する前に、製品添付 CD-ROM を CD ドライブへ挿入し、[CD-ROM¥Win7]フォルダ内の FSUxSetup.exe を実行します。  
ユーザーアカウント制御のメッセージが表示される場合は、「はい(Y)」をクリックします。



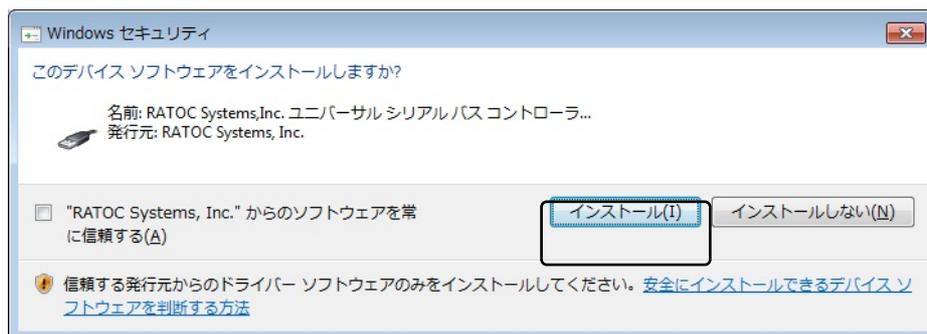
- 2 「SREXFSUx Installer セットアップへようこそ」で「次へ(N)」をクリックします。



- 3 「機能の選択」でインストールするセンサの画像をクリックします。

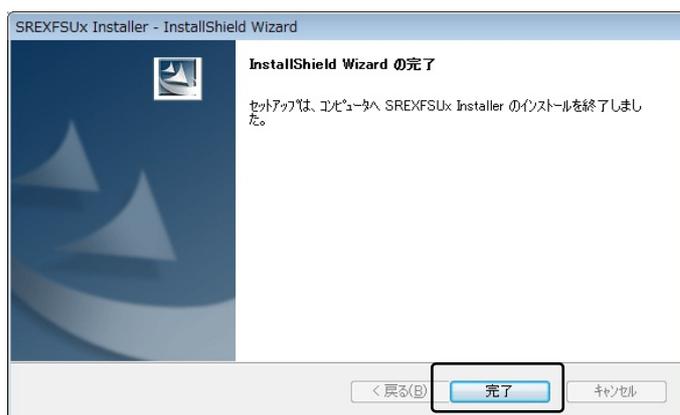


- 4 「このデバイスソフトウェアをインストールしますか？」で「インストール(I)」をクリックします。



- 5 以上でドライバのセットアップは完了です。

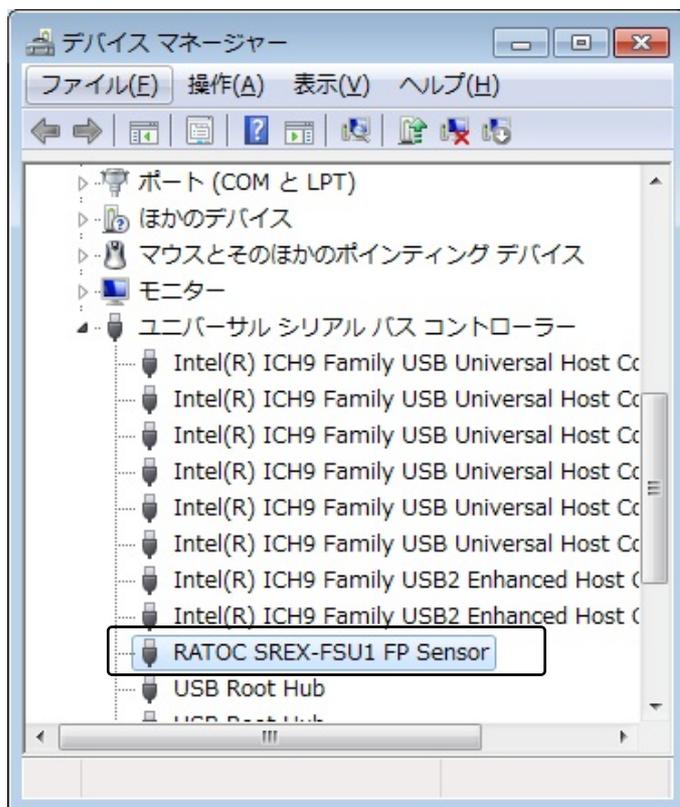
指紋センサを接続すると自動的にドライバがインストールされます。



- 6 インストールが正常に行われているか確認する場合は、「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネルの表示方法を「大きいアイコン」または「小さいアイコン」に切り替えます。

「デバイスマネージャー」をクリックします。

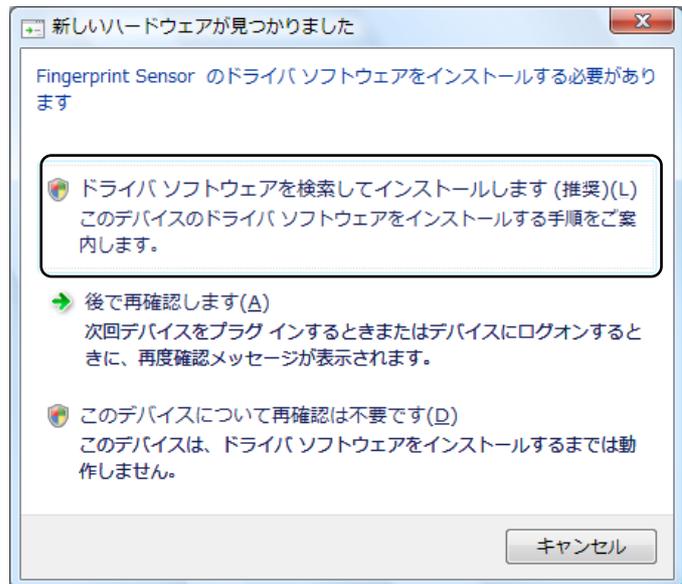
「ユニバーサルシリアルバスコントローラー」の下に、「RATOC SREX-FSU1 FPSensor」が登録されていればインストールは正常に行われています。



## ■Windows Vista/Server2008 インストール

1 SREX-FSU1G をパソコンの USB ポートに接続すると、「新しいハードウェアが見つかりました」のダイアログが表示されます。

「ドライバソフトウェアを検索してインストールします (推奨) (L)」の領域をクリックします。



2 ユーザーアカウント制御の警告メッセージが表示される場合は、「続行(C)」をクリックします。



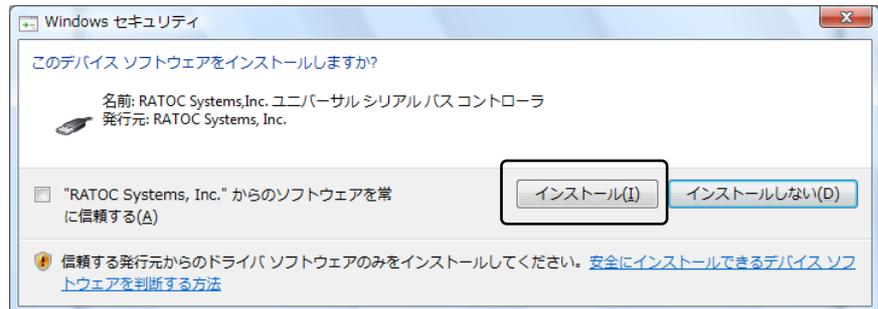
3 製品添付のドライバ CD-ROM を CD ドライブにセットしてください。



4

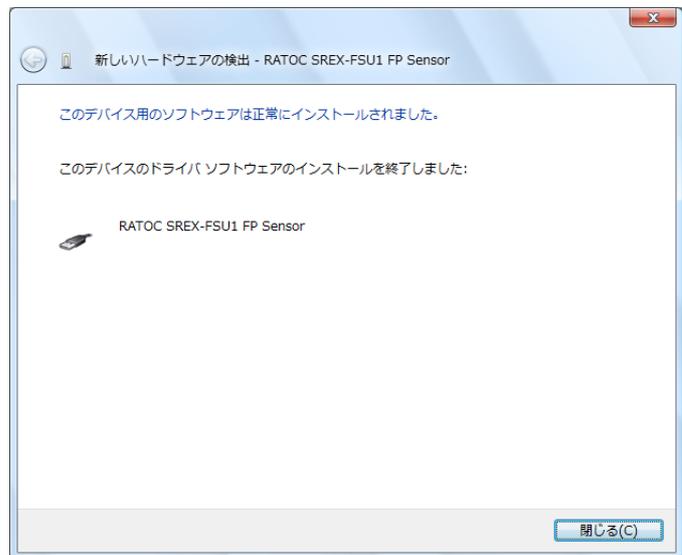
ドライバソフトウェアが見つかったら、下記のような「このデバイスソフトウェアをインストールしますか?」というダイアログが表示されます。

「インストール(I)」をクリックします。



5

「このデバイス用のソフトウェアは正常にインストールされました」のメッセージを確認し、「閉じる(C)」ボタンをクリックします。

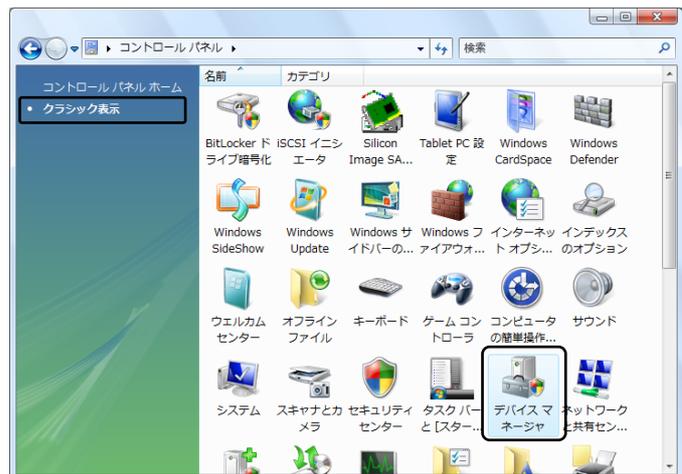


6

インストールが正常に行われているか確認する場合は、下記の手順で行います。

「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネルの表示をクラシックに切り替えます。

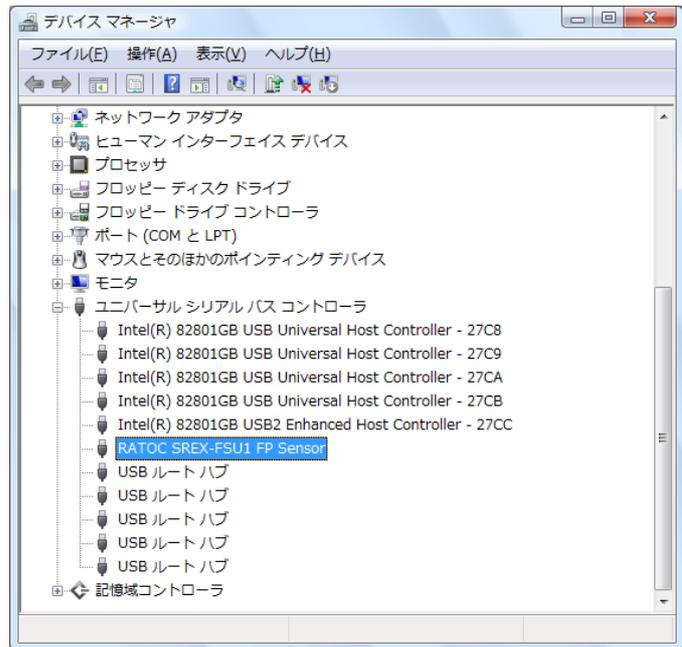
「デバイスマネージャ」をクリックします。



7

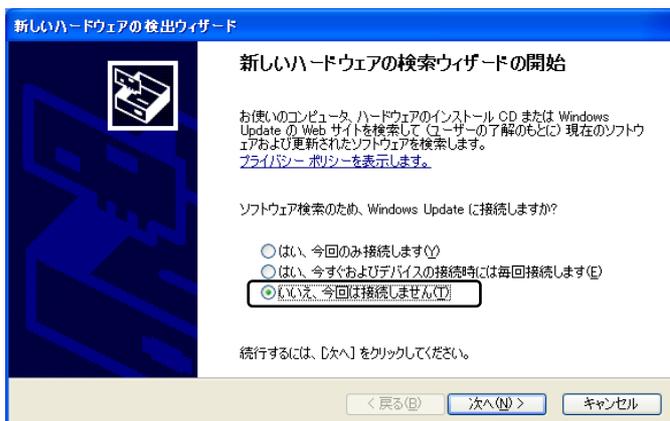
「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」の下に、

「RATOC SREX-FSU1 FPSensor」が登録されていればインストールは正常に行われています。

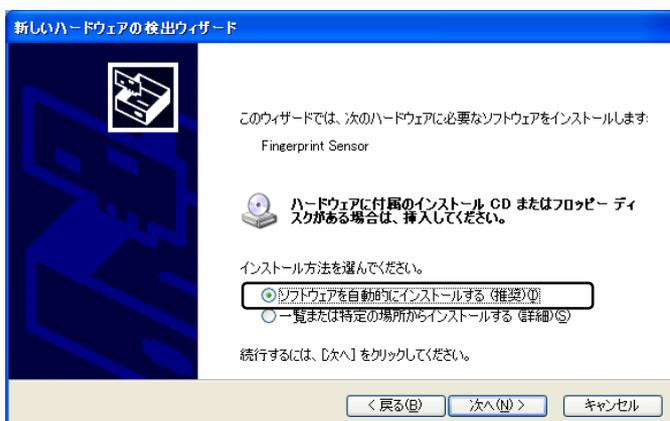


## ■WindowsXP/2000/Server2003 インストール

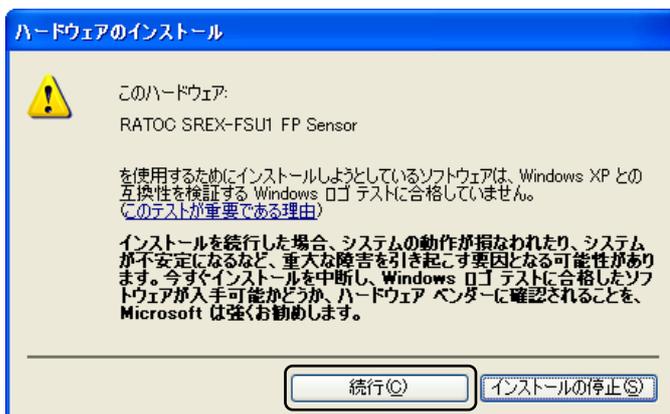
- 1 SREX-FSU1G をパソコンの USB ポートに接続すると、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が起動します。
- Windows XP の SP2 以降では、最初に「Windows Update サイト検索」が表示されますが、「いいえ、今回は接続しません(T)」にチェックを入れて、「次へ(N)」をクリックします。



- 2 製品添付のドライバ CD-ROM を CD ドライブにセットしてください。
- 「ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)(I)」にチェックを入れて、「次へ(N)」をクリックします。



- 3 ドライバソフトウェアが正しく検出されると、ハードウェア名「RATOC SREX-FSU1 FP Sensor」が表示されます。ここでは、「続行(C)」をクリックします。



4 ドライバソフトウェアのコピーが開始します。コピーは自動的に終了しますので、特に何もする必要はありません。



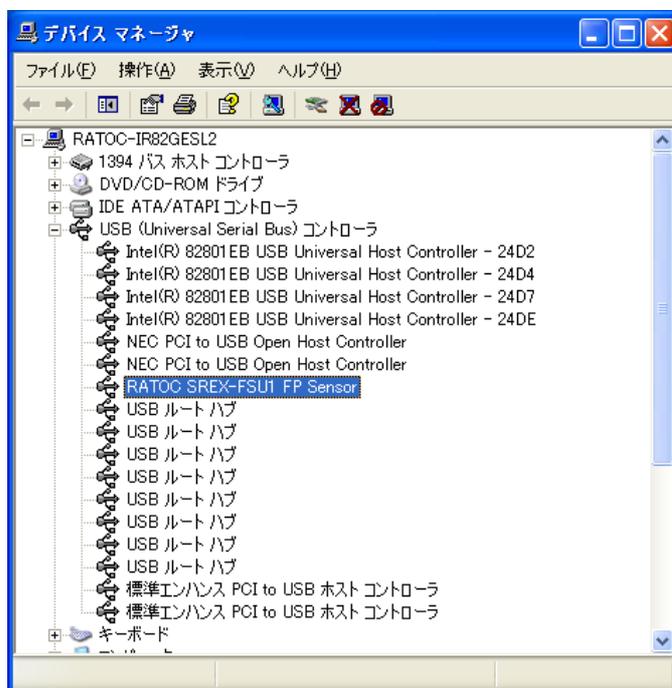
5 最後に「完了」ボタンをクリックします。

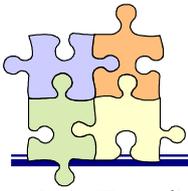


6 インストールが正常に行われているか確認する場合は、下記の手順で行います。

「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネルの表示をクラシックに切り替えます。「システム」をクリックし、「ハードウェア」のタブを選択し、「デバイスマネージャ」をクリックします。

USB コントローラの下に、「RATOC SREX-FSU1 FP Sensor」が登録されていればインストールは正常に行われています。





## 第2章 準備

### 2-3. SREX-FSU2 インストール

OmniPass 指紋認証登録を行う前に、必ず SREX-FSU2 のインストールを行ってください。



下記は Windows 7 でのインストール手順になります。

Windows Vista/Server2008 でのインストールは、25 頁以降の手順を、

Windows XP/Server2003 でのインストールは、29 頁以降の手順に従ってください。

※ SREX-FSU2 は Windows2000 には対応していません。

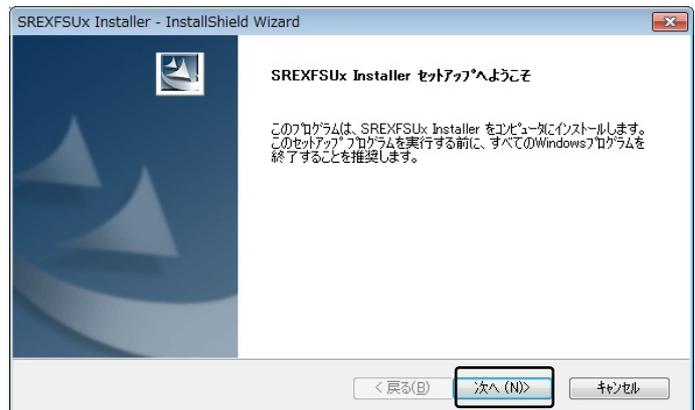
#### ■Windows 7 インストール

- 1 指紋センサを PC に接続する前に、製品添付 CD-ROM を CD-ROM ドライブへ挿入し、[CD-ROM≠Win7]フォルダ内の FSUxSetup.exe を実行します。

ユーザーアカウント制御のメッセージが表示される場合は、「はい(Y)」をクリックします。



- 2 「SREXFSUx Installer セットアップへようこそ」で「次へ(N)」をクリックします。

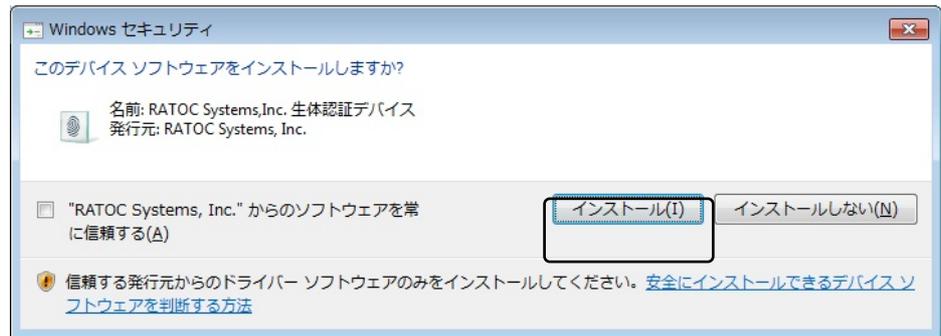


- 3 「機能の選択」でインストールするセンサの画像をクリックします。



4

「このデバイスソフトウェアをインストールしますか？」で「インストール(I)」をクリックします。



5

以上でドライバのセットアップは完了です。

指紋センサを接続すると自動的にドライバがインストールされます。

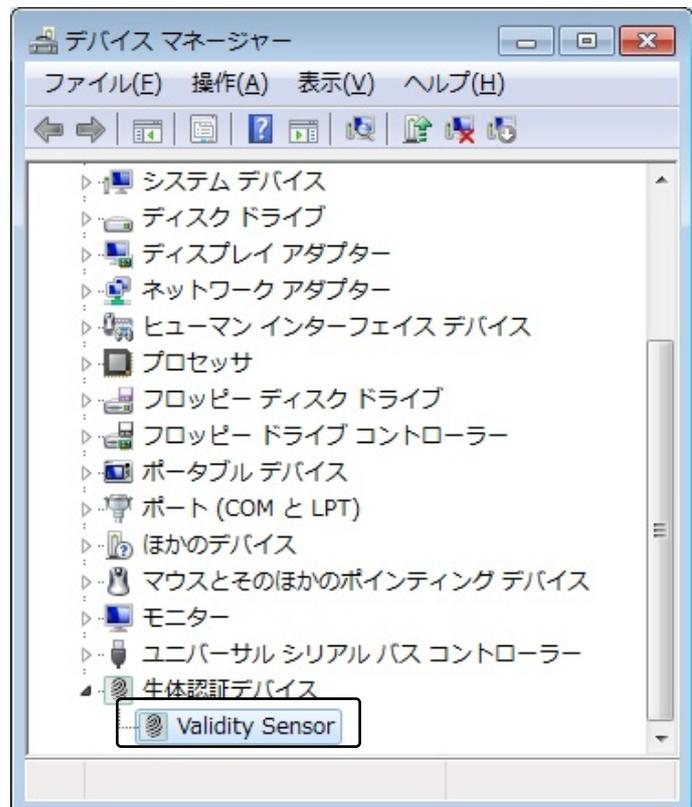


6

インストールが正常に行われているか確認する場合は、「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネルの表示方法を「大きいアイコン」または「小さいアイコン」に切り替えます。

「デバイスマネージャー」をクリックします。

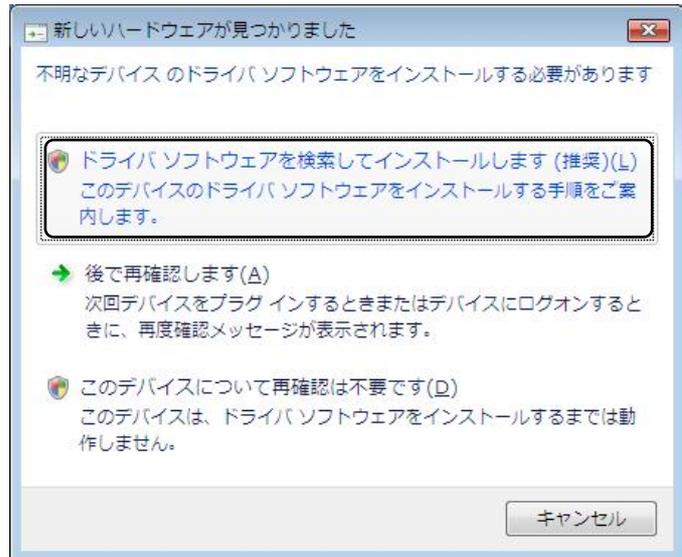
「生体認証デバイス」の下に、「Validity Sensor」が登録されていればインストールは正常に行われています。



## ■Windows Vista/Server2008 インストール

1 SREX-FSU2 をパソコンのUSBポートに接続すると、「新しいハードウェアが見つかりました」のダイアログが表示されます。

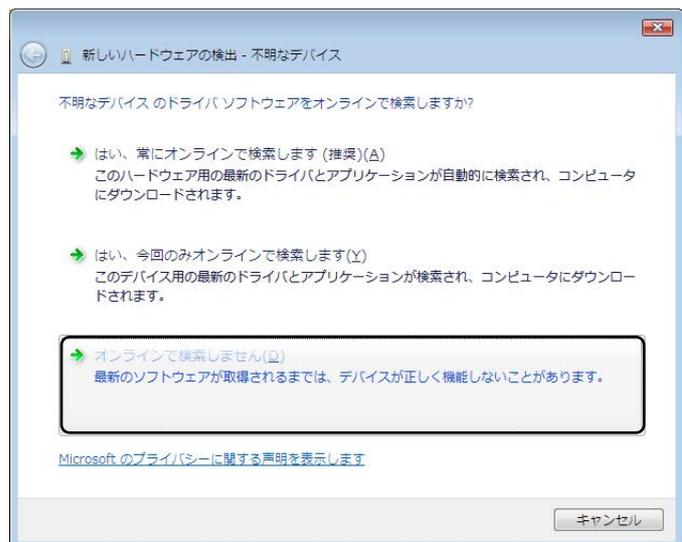
「ドライバソフトウェアを検索してインストールします(推奨)(L)」をクリックします。



2 デバイスのドライバソフトウェアをオンラインで検索しますか？

の画面では、

「オンラインで検索しません(D)」をクリックします。

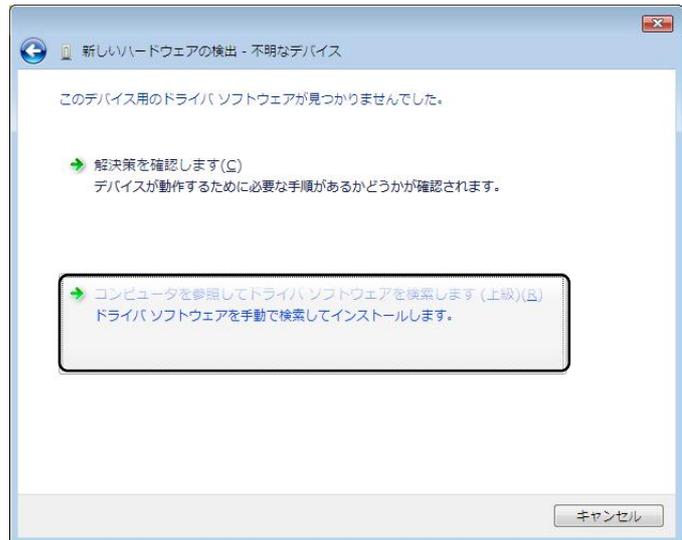


3

このデバイス用のドライバソフトウェアが見つかりませんでした。

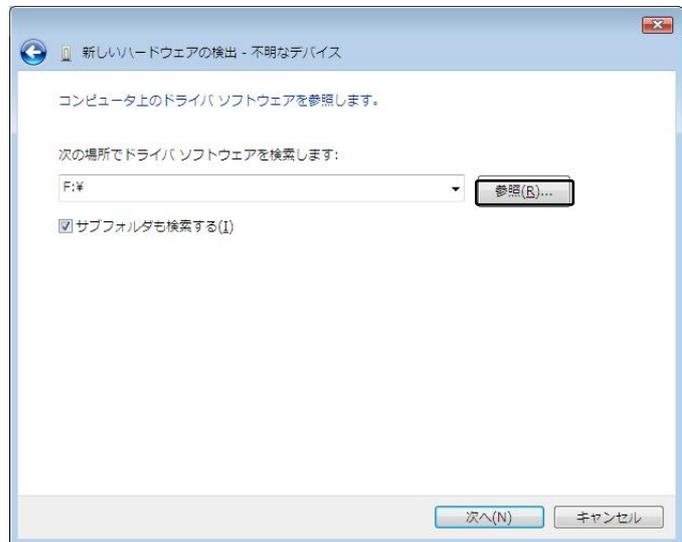
の画面では、

「コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します(上級)(R)」をクリックします。



4

製品添付のドライバ CD-ROM を CD ドライブにセットし、「参照(R)...」をクリックしてください。

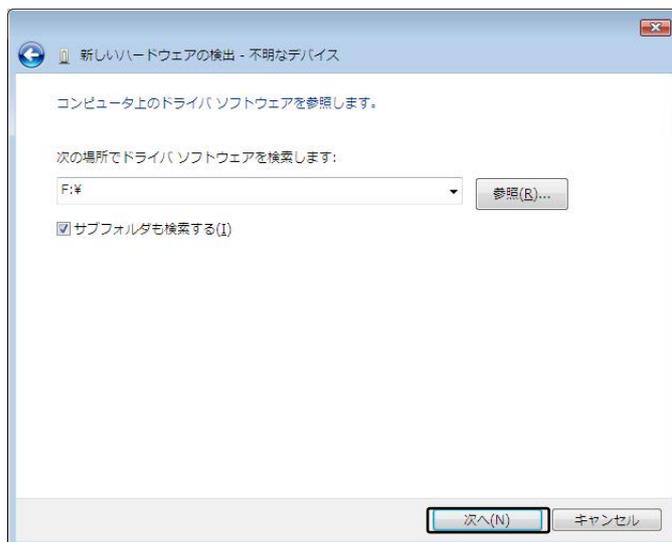


5

フォルダの参照画面が表示されますので、CD-ROM ドライブを選択し、「OK」ボタンをクリックします。



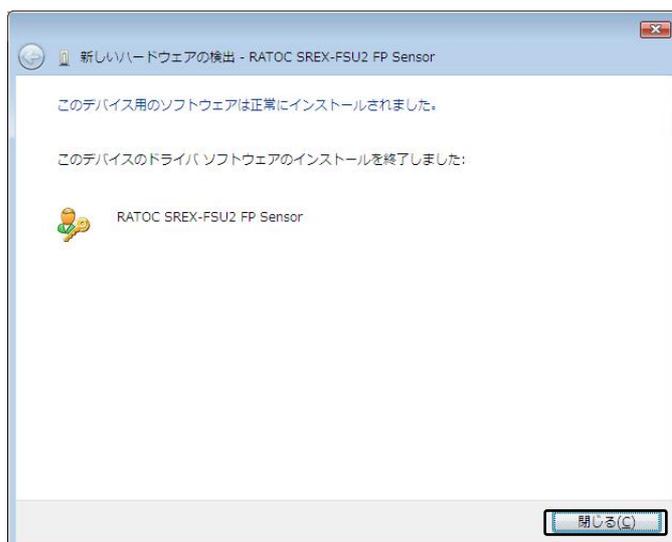
- 6 手順4の画面が表示されますので、「次へ(N)」をクリックします。



- 7 ドライバソフトウェアが見つかったら、「このデバイスソフトウェアをインストールしますか?」というダイアログが表示されます。「インストール(I)」をクリックします。



- 8 「このデバイス用のソフトウェアは正常にインストールされました。」のメッセージを確認し、「閉じる(C)」ボタンをクリックします。

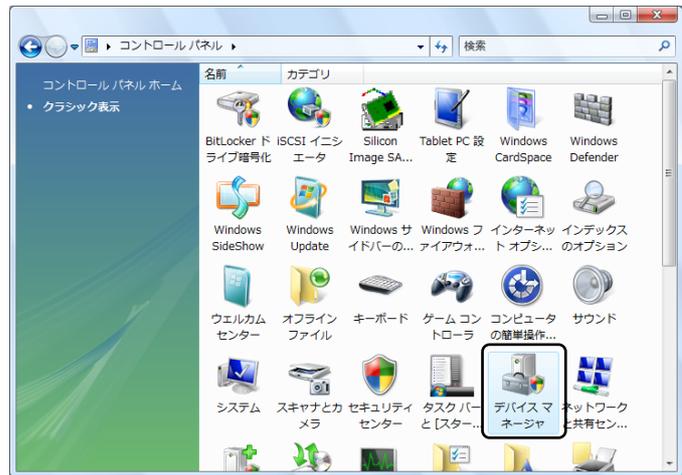


9

インストールが正常に行われているか確認する場合は、下記の手順で行います。

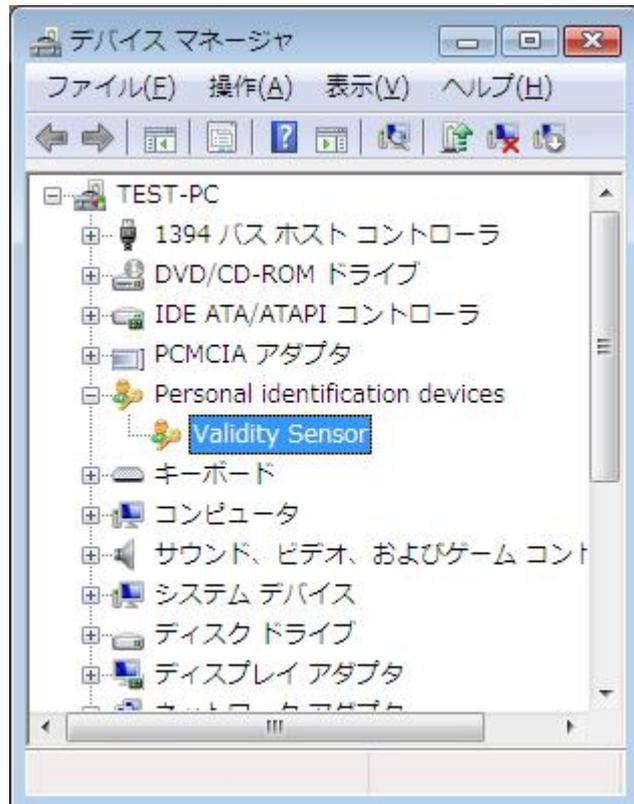
「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネルの表示をクラシックに切り替えます。

「デバイスマネージャ」をクリックします。



10

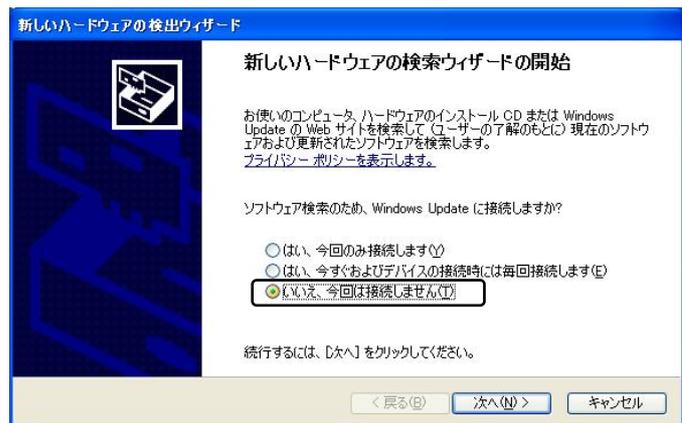
[Personal identification devices]の下に、  
[Validity Sensor]が登録されていればインストールは正常に行われています。



## ■WindowsXP/Server2003 インストール

1 SREX-FSU2 をパソコンのUSBポートに接続すると、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が起動します。

Windows XP の SP2 以降では、最初に「Windows Update サイト検索」が表示されますが、「いいえ、今回は接続しません(T)」にチェックを入れて、「次へ」をクリックします。



2 製品添付のドライバ CD-ROM を CD ドライブにセットしてください。

「ソフトウェアを自動的にインストールする(I)」にチェックを入れて、「次へ」をクリックします。



3 最後に「完了」ボタンをクリックします。



# 4

インストールが正常に行われているか確認する場合は、下記の手順で行います。

「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネルの表示をクラシックに切り替えます。「システム」をクリックし、「ハードウェア」のタブを選択し、「デバイスマネージャ」をクリックします。

[Personal identification devices]の下に、  
[Validity Sensor]が登録されていればインストールは正常に行われています。





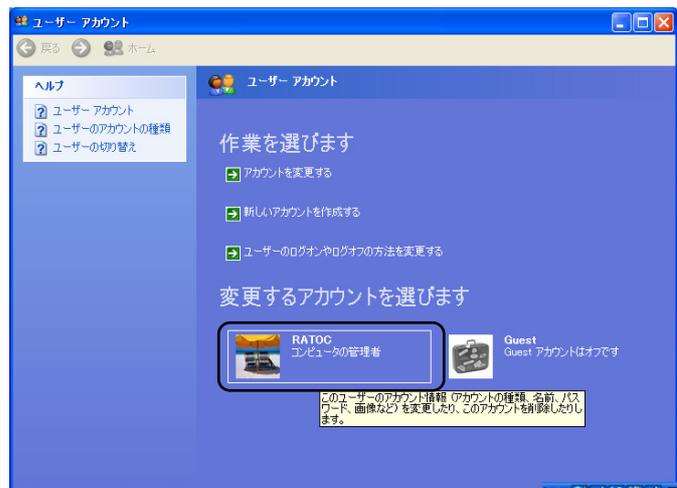
## 第2章 準備

### 2-4. Windows ログオンパスワード作成

OmniPass ユーザ登録では Windows ログオン時のユーザ名とパスワードが必要になります。OmniPass ユーザ登録を行う前に、必ず Windows のログオンパスワードを作成してください。(下記は WindowsXP での説明画面となります)

1 「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、「ユーザアカウント」をクリックします。

2 「変更するアカウントを選びます」から、Windows にログオンするときと同じユーザ名をクリックします。



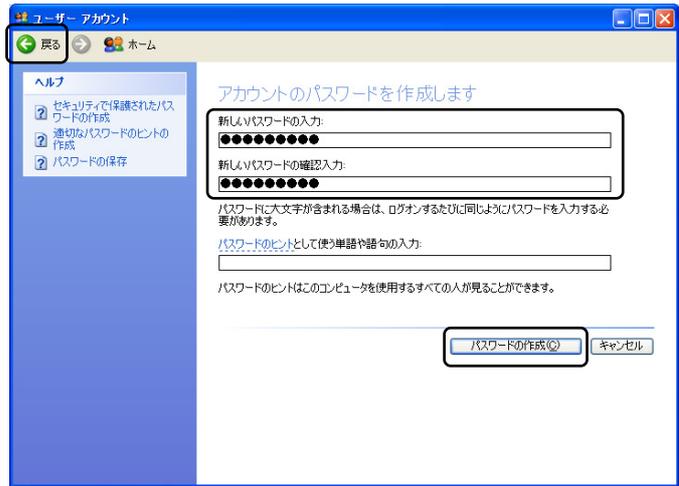
3 「パスワードを作成する」をクリックします。



4

「新しいパスワードの入力」と「新しいパスワードの確認入力」にパスワードを入力し、「パスワードの作成(C)」をクリックします。

作業終了後、メニューバーの「戻る」をクリックします。



5

「ユーザのログオンやログオフの方法を変更する」をクリックします。

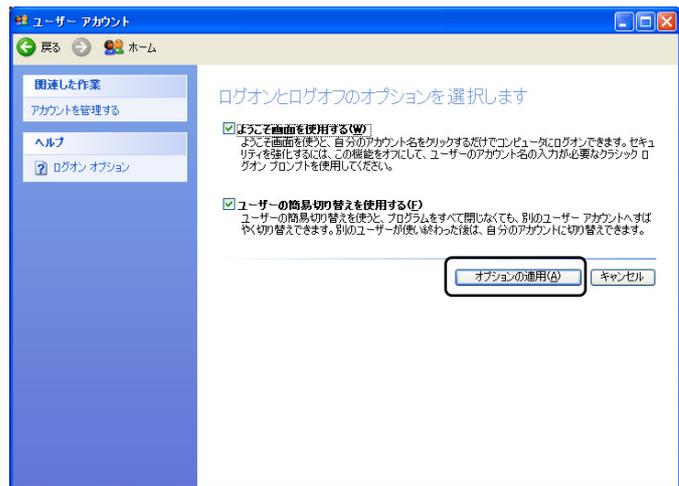


Windows7/Vista/2000/Server2008/Server2003 ではユーザのログオン・ログオフ方法を変更する機能はありません。



6

「ようこそ画面を使用する」と「ユーザの簡易切り替えを使用する」のチェックボックスにチェックを入れて、「オプションの適用(A)」をクリックします。



7

ウィンドウの右上にある  ボタンをクリックしてユーザアカウントの設定を終了します。この後、Windows を再起動します。



## 第3章 登録 (Windows 7/Vista/XP/Server2008/Server2003)

### 3-1. OmniPass インストール

※ Windows2000(SREX-FSU1Gのみ対応)でご利用のお客様は(6-1.OmniPass インストール)をご参照ください。

OmniPass のインストール・アンインストールについて説明します。

#### ■OmniPass のインストール

- 1 製品付属 CD-ROM の OmniPass¥Win7\_Vista\_XP フォルダに格納されたセットアッププログラム「SETUP.EXE」を起動します。右のユーザアカウント制御の確認を行い、「続行(C)」ボタンをクリックします。



OmniPass をインストールするユーザはシステムに対して管理者権限を持っている必要があります。



※ Windows 7/Vista でユーザアカウント制御 (UAC) が有効になっている場合は、この画面が出力されます。

- 2 「OmniPas セットアップへようこそ」の画面で「次へ(N)」をクリックします。



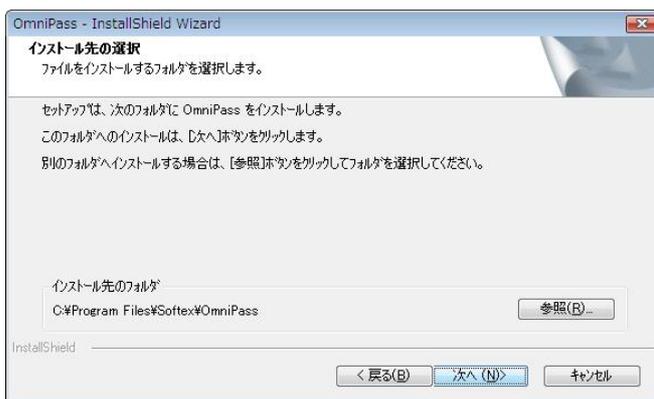
- 3 使用許諾書の内容をご確認頂き、同意をいただいた上で「はい(Y)」をクリックします。



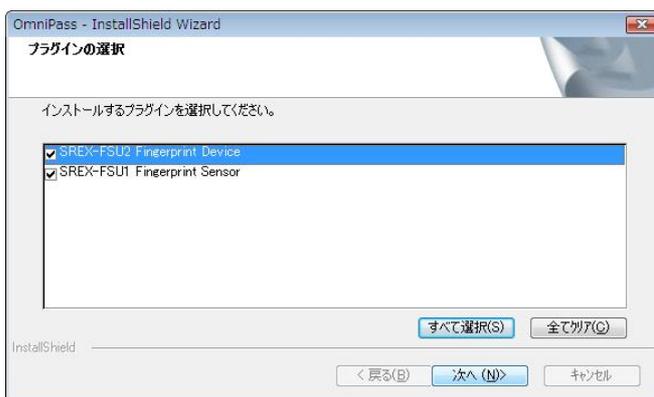
4 インストール先の選択を行います。「次へ(N)」をクリックします。



ルートディレクトリ（例えば、C:\）にインストールしないでください。OmniPass をインストールしたディレクトリの下層でファイルやフォルダの暗号化はできません。



5 プラグインの選択を行います。使用する指紋センサに該当する箇所にチェックを入れ、「次へ(N)」をクリックします。



6 OmniPass のインストール実行画面が表示されます。インストールは自動終了します。ここでは、何も操作する必要はありません。



7 「コンピュータの再起動」を選択し、「完了」をクリックします。



8 再起動後、タスクバーに鍵マークの OmniPass コントロールセンタのアイコンが表示されます。



## ■OmniPass のアンインストール



OmniPass のアンインストールを行うと、OmniPass で暗号化されたファイルは復号化することができなくなります。また、保存されたパスワードと情報は全て失われます。アンインストールを行う前に、以下の操作を行うことを推奨します。

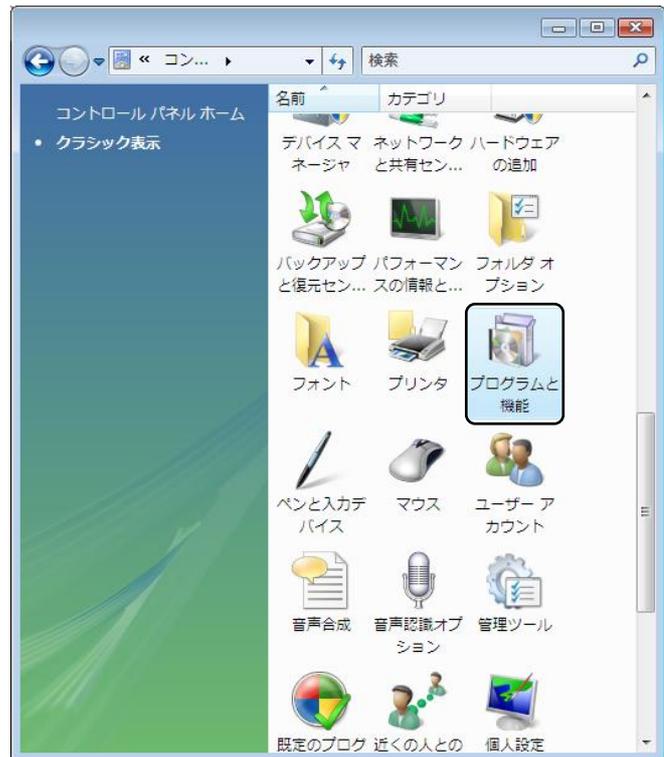
- (1) 全ての OmniPass 暗号化ファイルを復号化する。
- (2) OmniPass ユーザプロファイルをバックアップする。

1

「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、「プログラムと機能」をクリックします。

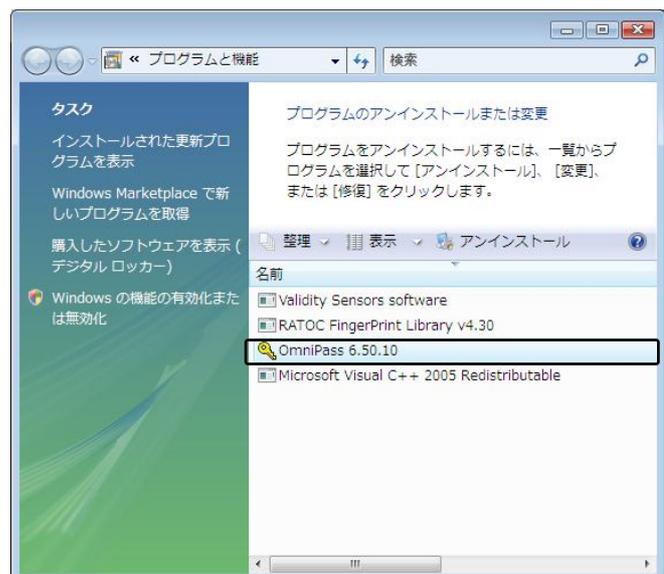


WindowsXP では「プログラムの追加と削除」を選択してください。

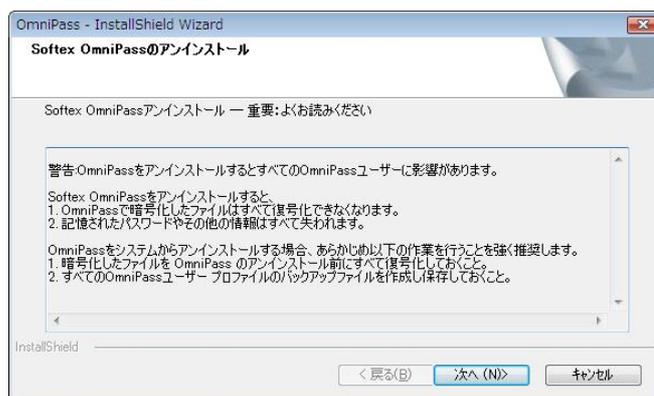


2

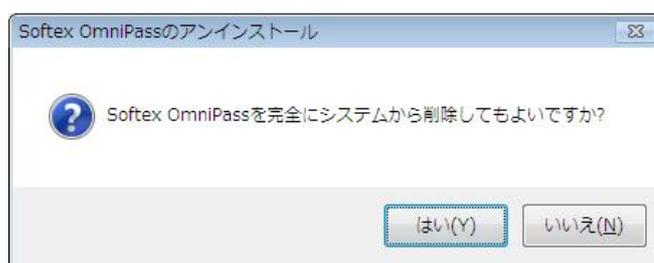
インストールされたプログラムの一覧より「OmniPass 7.xx.xx」を選択し、「アンインストール」をクリックします。



- 3 アンインストール時の警告内容をご確認頂き、アンインストールする場合は「次へ(N)」をクリックします。



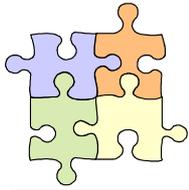
- 4 アンインストールの最後の確認です。実行する場合は「はい(Y)」をクリックします。



- 5 アンインストール完了です。「再起動」を選択して、「完了」をクリックします。



以上の操作でアンインストール作業は完了です。



## 第3章 登録 (Windows 7/Vista/XP/Server2008/Server2003)

### 3-2. OmniPass ユーザ登録

※ Windows2000(SREX-FSU1Gのみ対応)でご利用のお客様は(6-2.OmniPass ユーザ登録)をご参照ください。

OmniPass ユーザ登録では Windows ログオン時のユーザー名とパスワードが必要になります。登録を行う前に、必ず Windows のログオンパスワードを作成してください。

#### ■OmniPass ユーザ登録

- 1 OmniPass 登録ウィザードから、「開始」ボタンをクリックします。



- 2 ユーザー名、ドメイン、パスワードを入力して、「次へ」をクリックします。



Windows にログオンするときと同じユーザー名とパスワードを入力します。ドメインは通常「コンピュータ名」になります。

企業環境、または企業リソースにアクセスする場合は、ドメイン名は、Windows のコンピュータ名ではありません。システム管理者にお問い合わせください。



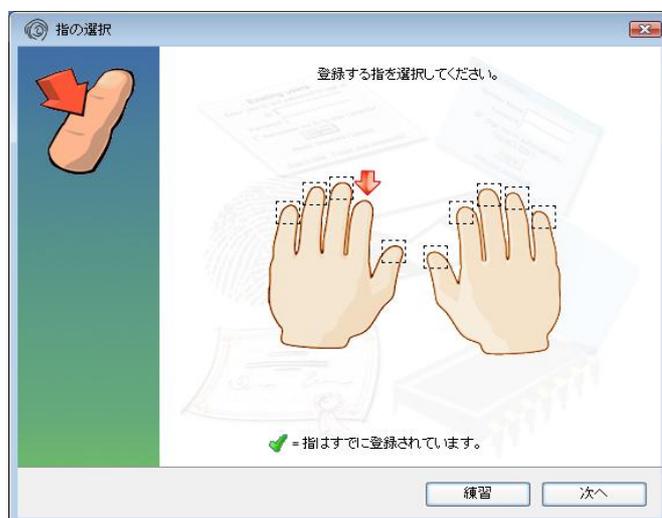
- 3 使用する指紋センサを選択して、「次へ」をクリックします。



- 4 認証で使用する指をイラスト上で選択し、「次へ」をクリックします。



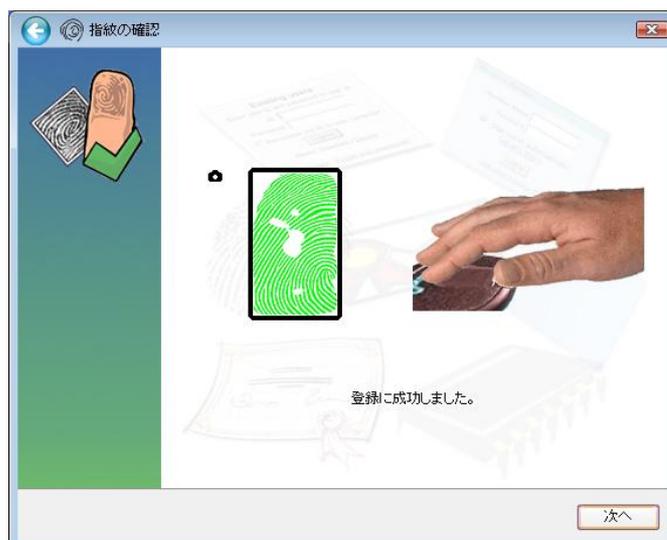
指の選択画面には「練習」ボタンがあります。クリックすると、指紋のキャプチャを練習できます。



- 5 指紋の読み取りを開始します。画面の表示に従って指紋の読み取りを行います。指紋の読み取りは3回行う必要があります。

読み取りが正常に行われた場合は、指紋画像が緑色で表示され、失敗した場合は、指紋画像が赤色で表示されます。

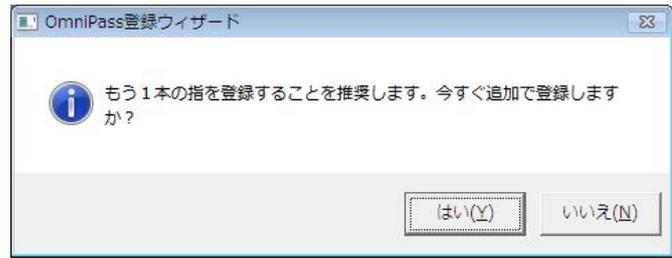
読み取った指紋との確認を行いますので、もう一度、同じ指の指紋の読み取りを行います。「認証に成功しました。」と表示されたら、「次へ」をクリックします。「認証に失敗しました。」と表示されたら、画面左上の「←(戻る)」をクリックし、再登録を行います。



6

「もう 1 本の指を登録することを推奨します。今すぐ追加で登録しますか?」というメッセージが表示されますので、他の指も登録する場合は「はい(Y)」をクリックします。

手順4の操作に戻り、異なる指で登録操作を繰り返します。



7

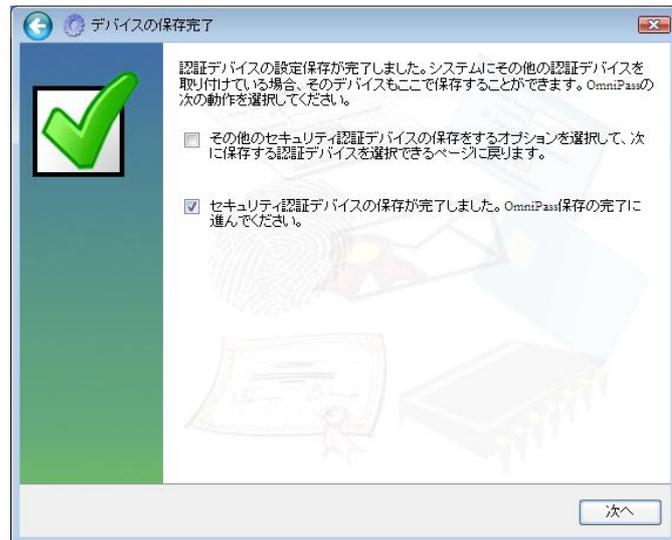
手順3の操作に戻り再登録する場合は、「その他のセキュリティ認証デバイスの保存をするオプションを選択して、次に保存する認証デバイスを選択できるページに戻ります。」

にチェックを入れ、「次へ」ボタンをクリックします。

次へ進む場合は、

「セキュリティ認証デバイスの保存が完了しました。OmniPass 保存の完了に進んでください。」

にチェックを入れ、「次へ」ボタンをクリックします。

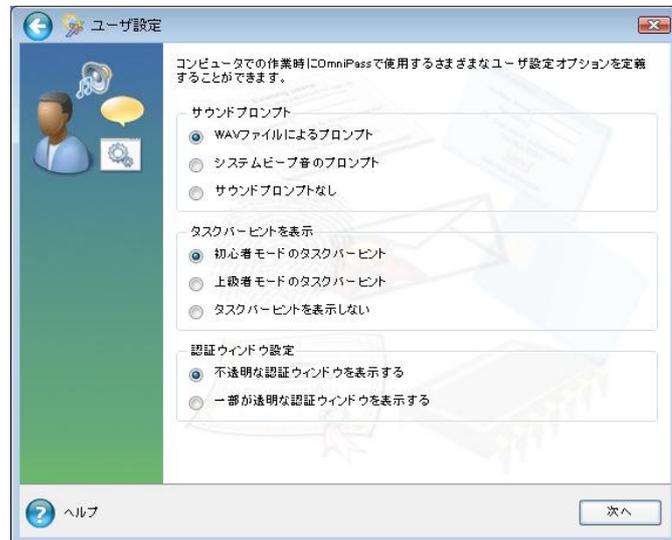


8

サウンドプロンプトの設定、タスクバーヒントの設定および認証ウィンドウの設定を行います。設定内容を確認して、「次へ」をクリックします。

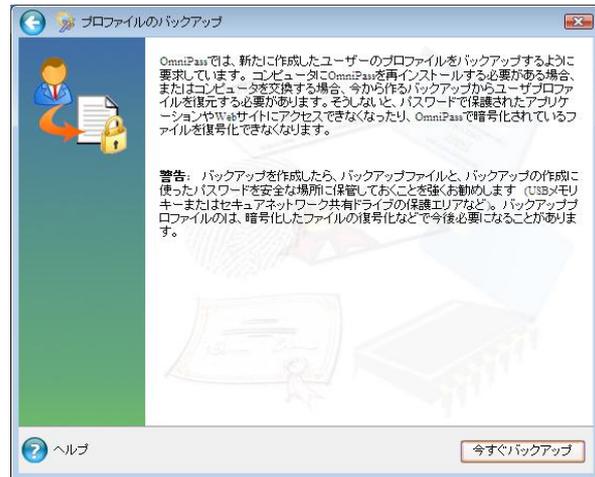


OmniPassが各種のOmniPass イベントをユーザに通知する方法を選択できます。OmniPass の操作方法来に慣れるまで、初心者モードのタスクバーヒントおよびサウンドプロンプトをオンにすることをお勧めします。

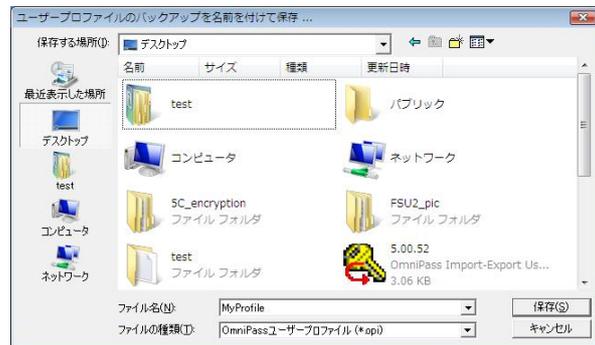


9

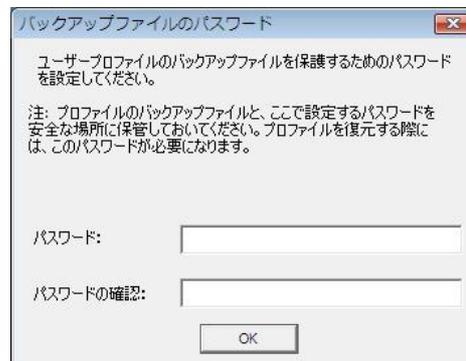
作成したユーザプロファイルのバックアップファイルを保存します。「今すぐバックアップ」をクリックします。



バックアップファイルを保存する場所とファイル名を入力し、「保存(S)」ボタンをクリックします。

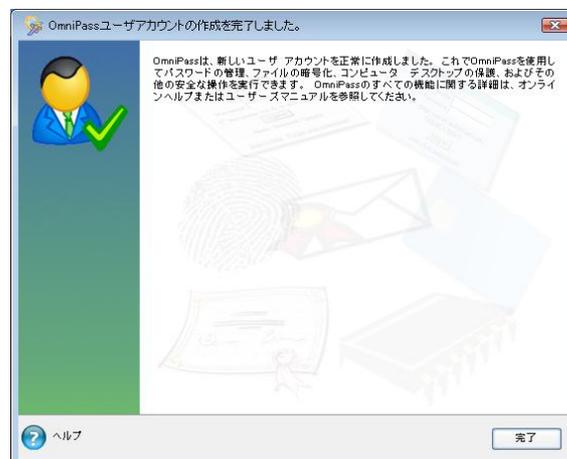


バックアップファイルのパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。



10

以上でユーザ登録作業は終了です。「完了」ボタンをクリックします。



## ■OmniPass 認証ダイアログ

Windows を再起動すると、従来の Windows のログオンでは表示されなかった OmniPass 認証ダイアログが表示されます。これは、OmniPass 認証システムが呼び出されると常に表示されます。

OmniPass 認証システムは、以下の場合に呼び出されます。

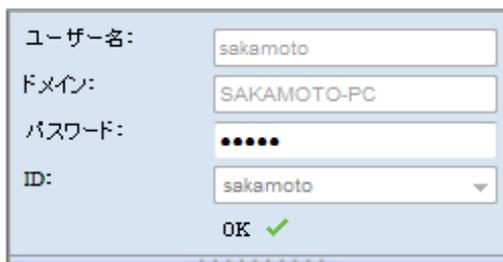
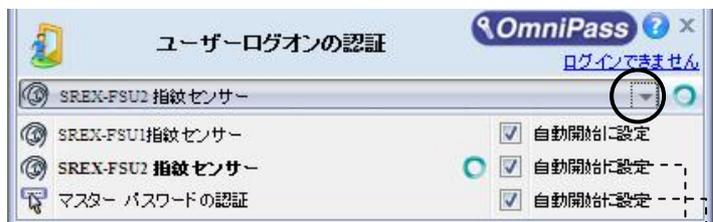
- (1) Windows のログオン時
- (2) OmniPass のログオン時
- (3) ワークステーションのロック解除時
- (4) スリープ/スタンバイまたは休止状態からの復帰時 (OmniPass とは別に設定が必要です)
- (5) パスワード対応のスクリーンセーバーのロック解除時
- (6) パスワード等を OmniPass に記憶したサイトを開いた時
- (7) ファイルまたはフォルダの暗号化・復号化実行時



OmniPass ログオンダイアログが表示されない場合は、「9-2.トラブルシューティング」の「OmniPass ログオン画面が表示されない」の内容に従って問題を回避してください。

OmniPass 認証ダイアログの プルダウンボタンをクリックすると、各指紋センサーと「マスターパスワードの認証」の選択バーが表示されます。

右図で各認証方法をクリックすると、選択した認証画面が表示されます。





## 4-1. アカウント情報の記憶

※ Windows2000(SREX-FSU1Gのみ対応)でご利用のお客様は(7-1.アカウント情報の記憶)をご参照ください。

OmniPass アカウント情報の記憶を行うことにより、アカウント入力 (ユーザ ID、パスワード) が必要な Web サイトに指紋認証により自動的にログオンすることができます。何種類ものパスワードを覚えておく必要はありません。

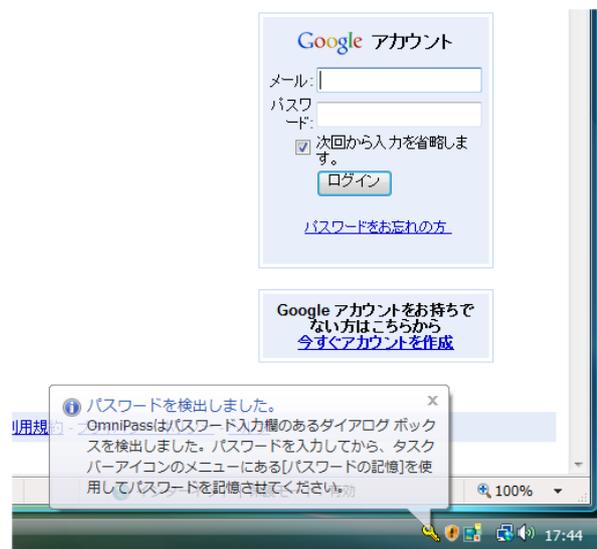


OmniPass7.0 が対応しているブラウザは Microsoft Internet Explorer 6.0 以上 / Firefox3.0 以上です。その他のブラウザでの動作は保証されていません。

### ■Web ログオンパスワードの記憶

1

アカウント入力を要求する Web サイトが開かれると、OmniPass はアカウント入力が要求されたことを自動検出し、「パスワードを検出しました」というメッセージを表示します。



2

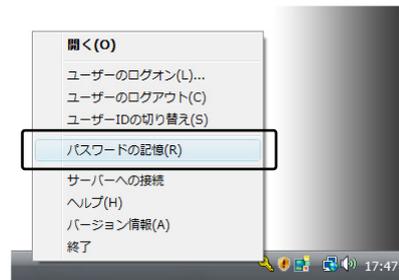
アカウント情報 (右の Web サイトでは、ユーザのメールアドレスとパスワード) を入力した状態にします。



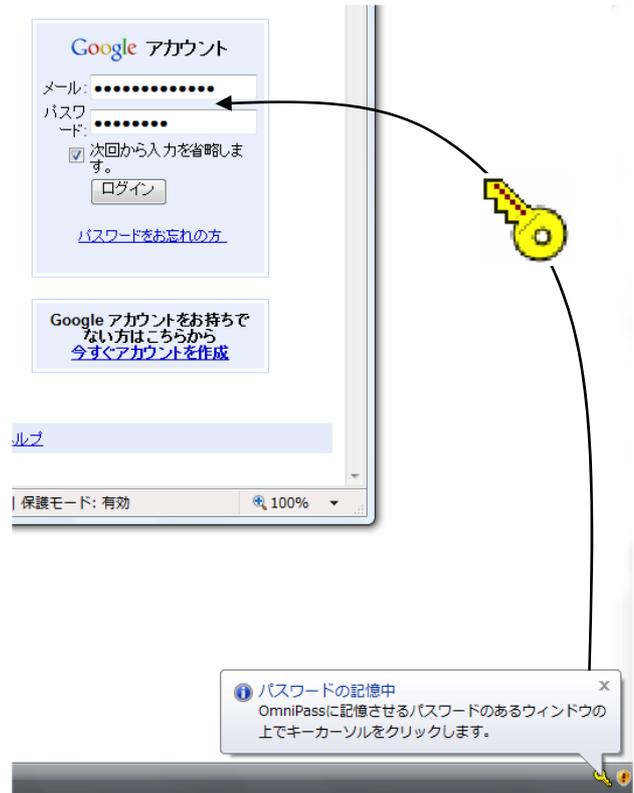
アカウント情報 (ユーザ ID、メールアドレス、パスワード等) になな漢字コードを使用できない場合があります。



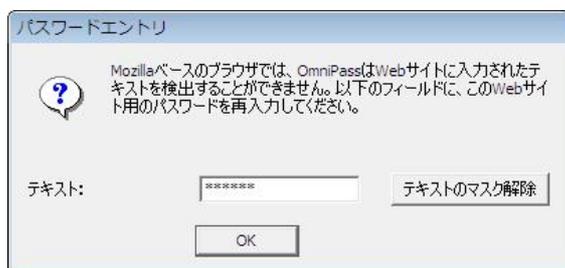
3 タスクバーの OmniPass コントロールセンタを右クリックし、右クリックメニューより「パスワードの記憶(R)」を選択します。



4 「パスワードの記憶中」が表示された状態で、OmniPass キー（右図の鍵マーク）をログオンプロンプト（アカウント入力ダイアログ）の近くにドラッグします。



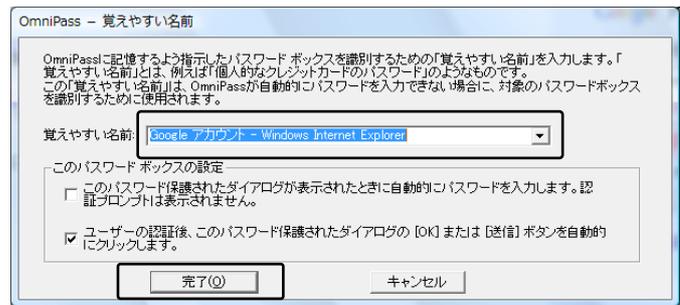
※ ブラウザが Firefox の場合、パスワードの記憶時に次の「パスワードエントリ」ダイアログが出力されますので、こちらでパスワードの登録が必要となります。



# 5

OmniPass がアカウント情報を記憶すると、「覚えやすい名前」のダイアログが表示されます。「覚えやすい名前」を編集入力し、「完了(O)」ボタンをクリックします。

OmniPass に記憶させたアカウント情報は「パスワードの管理」に保管されています。



すでに OmniPass に記憶させた Web サイトに対して「パスワードの記憶」を再実行すると、OmniPass は現在記憶している Web サイトのアカウント情報（ユーザ ID やパスワード）を上書き更新します。

例えば、アカウントページのパスワードを **XXXXXX** で、すでに OmniPass に記憶させていたとします。ところが、ある日、新しいパスワード：YYYYYY への更新案内が送られてきて、今後は新しいパスワード：YYYYYY でログオンしなければいけなくなったと仮定します。その場合、アカウントページにアクセスして、OmniPass にログオンさせる代わりに新しいパスワード：YYYYYY を入力します。その後「ログオン」をクリックしないで、パスワードの記憶を使用してカーソルを OmniPass キーに変え、ログオンプロンプトの近傍をクリックします。OmniPass は確認を要求し、続いてアカウント情報を上書きします。上記の操作により、OmniPass に記憶させたユーザ ID は同じですが、パスワードは **XXXXXX** から **YYYYYY** へ更新されます。

## ■アプリケーションログオンパスワードの記憶

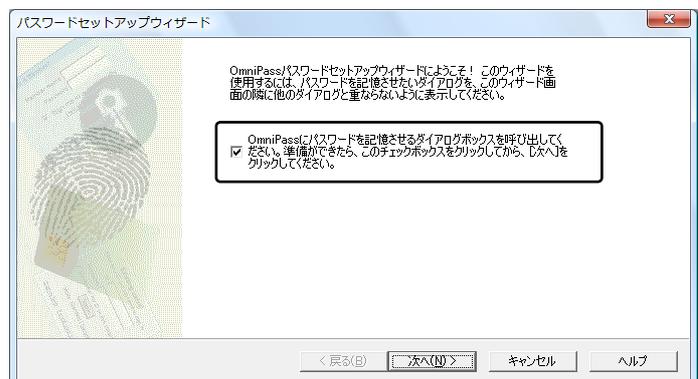
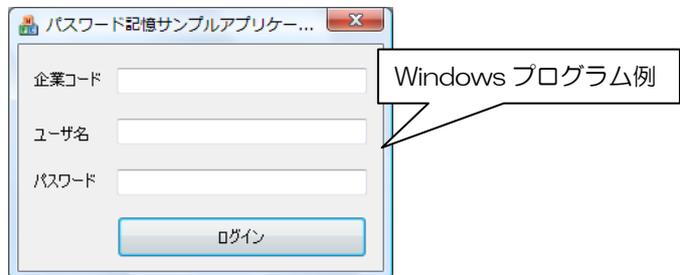
OmniPass はアカウント入力を必要とするホームページ以外に、「パスワードセットアップウィザード」の機能を使って、アカウント入力を必要とする Windows プログラムのアカウント情報も記憶することができます。

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「アカウントの管理」を選択します。「アカウント設定」メニューより、「パスワードウィザード」を選択します。



- 2 Windows プログラムのアカウント情報入力画面を「パスワードセットアップウィザード」の近くに表示させます。

作業が終了したら、「OmniPass にパスワードを記憶させるダイアログボックスを呼び出してください。・・・」をチェックし、「次へ(N)」をクリックします。

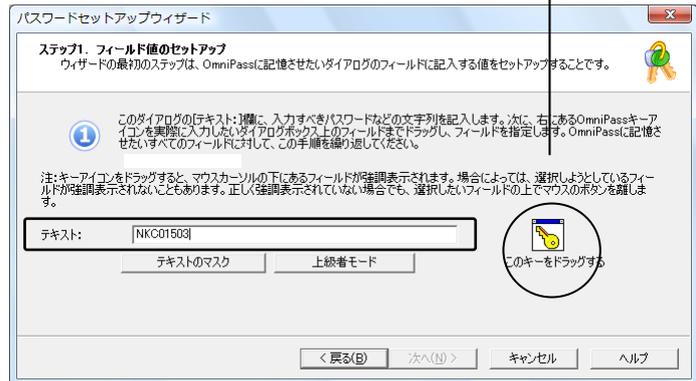
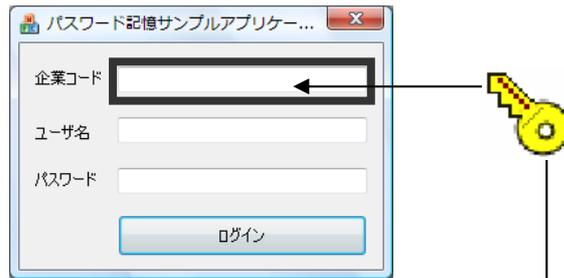


### 3

パスワードセットアップウィザードの「テキスト」欄に適切なアカウントデータを入力し、「このキーをドラッグ」をドラッグし、Windows プログラムの該当入力欄の上へドロップします。右 Windows プログラムの例では、最初に企業コードのフィールド設定を行っています。

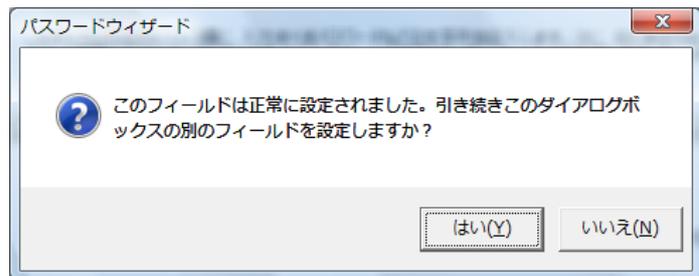


Windows プログラムの入力欄へ直接入力しないでください。



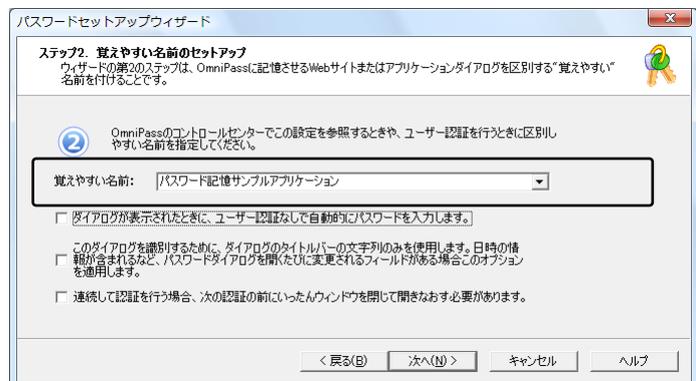
### 4

一つのフィールドの設定が終了すると右確認メッセージが表示されます。引き続きフィールド入力を行う場合は「はい (Y)」をクリックします。右の例では、企業コードの次に「ユーザ名」と「パスワード」の設定が必要です。全ての入力が完了したら、「いいえ (N)」をクリックします。



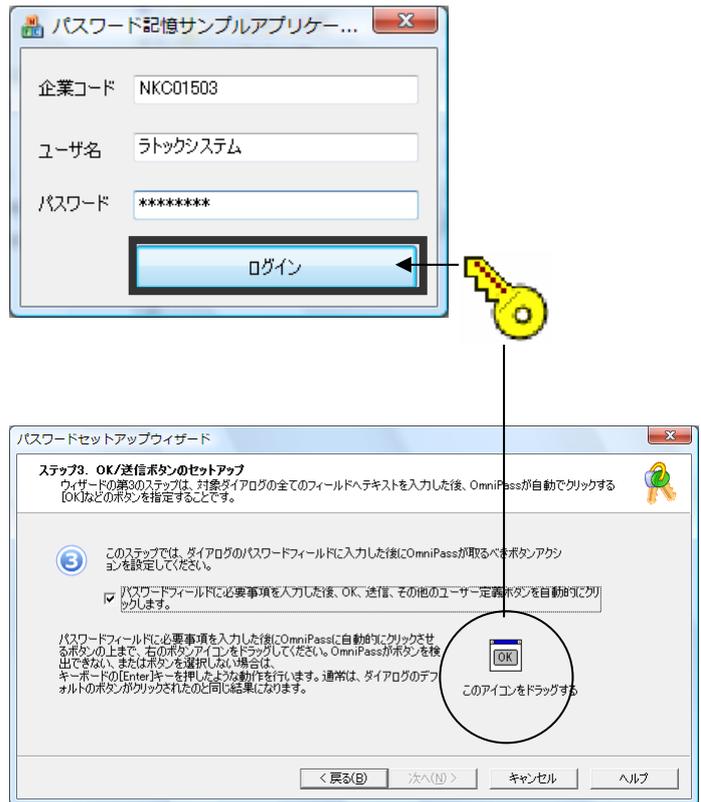
### 5

Windows プログラムの名前を「覚えやすい名前」に入力し、「次へ (N)」をクリックします。



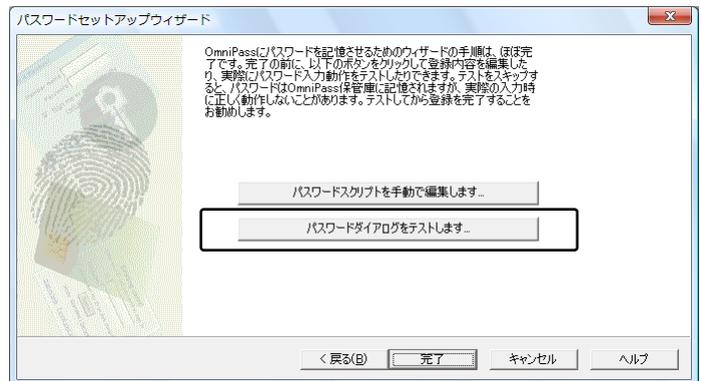
6

Windows プログラムで最後に操作するボタンを指定します。「このアイコンをドラッグ」をドラッグし、操作するボタンの上へドロップします。OmniPass への記憶操作は以上で終了です。「次へ(N)」をクリックします。



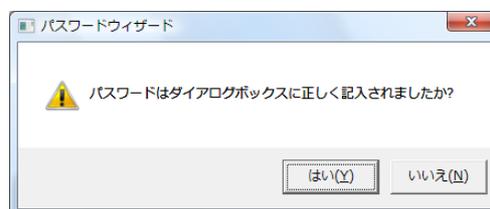
7

「パスワードダイアログをテストします」をクリックします。

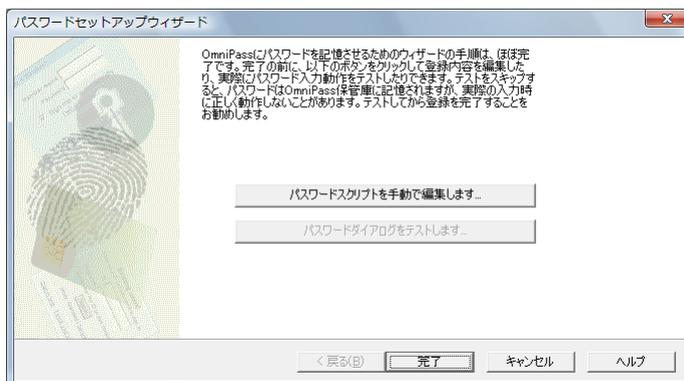


8

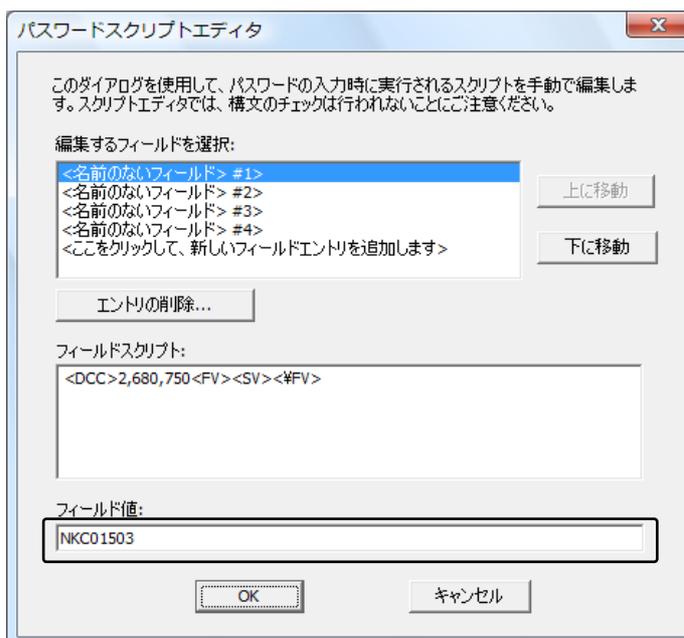
テスト結果に問題がなければ、「はい(Y)」をクリックします。



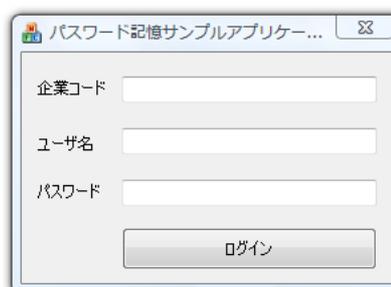
9 最後に「完了」をクリックします。



10 手順 7 で「パスワードスクリプトを手動で編集します」をクリックすると、右スクリプト編集画面が表示されます。編集が必要な場合は、ここで編集することができます。



次回より、Windows プログラムのアカウント入力が表示されると、OmniPass 指紋認証ダイアログが表示されます。アカウント情報を入力する代わりに、OmniPass の指紋認証だけでログオンすることができます。



## ■ID の管理

一人の人が同一の Web サイトで複数のアカウントを取得している場合についても、OmniPass にアカウント情報を記憶させて OmniPass 指紋認証機能を使用することができます。複数のアカウントを管理する場合は、一人のユーザに対して複数の ID を作成し、それぞれの ID に一つのアカウント情報を設定します。

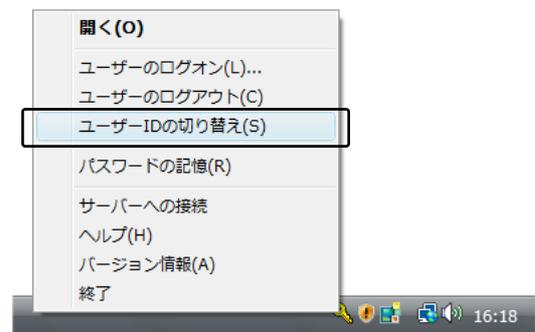
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「パスワードの管理」を選択します。新しい ID を追加する場合は、「新規 ID」をクリックします。



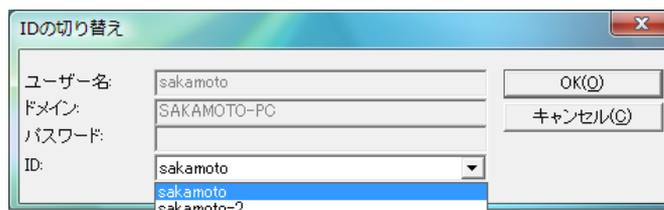
- 2 「ユーザ名に対する新規 ID」を入力し、「OK(O)」をクリックします。OmniPass コントロールセンタの設定は以上です。



- 3 同一の Web サイトで複数のアカウント情報を記憶させる場合は、「ログオンパスワードの記憶」を行う前に「ユーザ ID の切り替え(S)」を行い、ユーザ ID ごとに一つのアカウントを記憶させます。ユーザ ID の変更は、タスクバーの「OmniPass コントロールセンタ」を右クリックし、「ユーザ ID の切り替え(S)」を選択します。



- 4 「ID の切り替え」ダイアログより、変更したい ID を選択します。ID 変更後、ログオンパスワードの記憶を実行します。



- 5 各ユーザ ID の「パスワード管理」は、OmniPass コントロールセンタの「アカウントの管理」のページの「パスワード管理」より行うことができます。右の「ID」を選択することにより、ID ごとに記憶されたパスワード情報等が表示されます。





## 4-2. 暗号化と復号化

※ Windows2000(SREX-FSU1Gのみ対応)でご利用のお客様は(7-2.暗号化と復号化)をご参照ください。

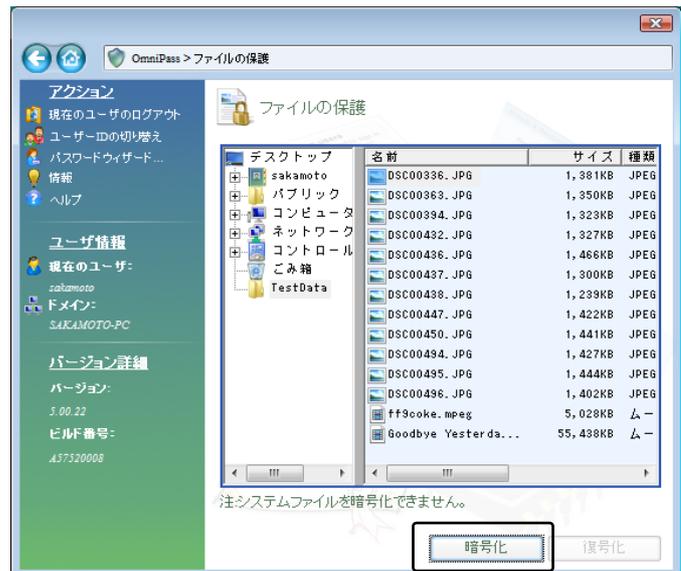
OmniPass はフォルダ単位・ファイル単位での暗号化と復号化を行うことができます。また、OmniPass 暗号化ファイルは複数の OmniPass 登録ユーザと共有することができます。

### ■暗号化

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「ファイルの保護」を選択します。暗号化を行うフォルダもしくはファイルを選択し、「暗号化」をクリックします。



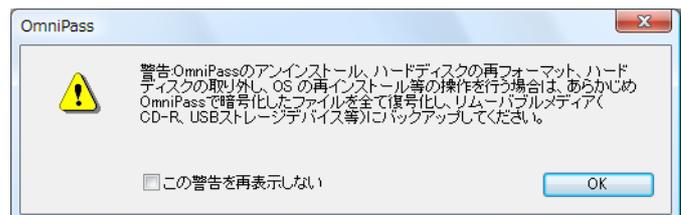
“C:¥Windows” に格納された Windows のシステムファイル、“C:¥Program Files” にインストールされたプログラム、OmniPass がインストールされているフォルダは、暗号化することができません。



- 2 暗号化のための認証を行います。

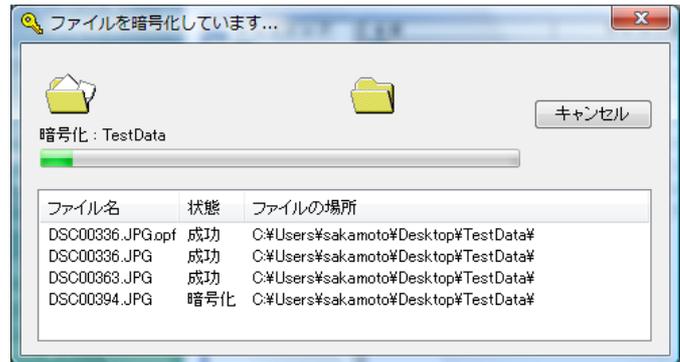


- 3 暗号化を行うための認証が完了すると警告メッセージが表示されます。内容を確認して「OK」をクリックします。



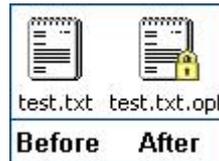
4

暗号化が行われます。



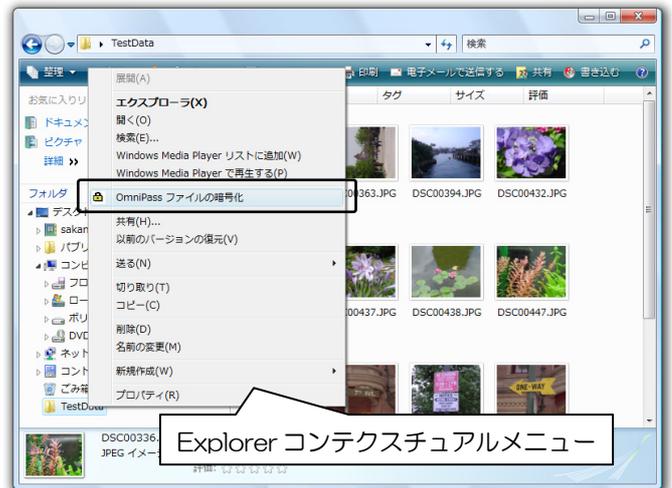
5

暗号化を行ったフォルダもしくはファイルは鍵の付いた新しいアイコンで表示されます。ファイルの拡張子は「.opf」、フォルダの拡張子は「.opof」に変換されます。



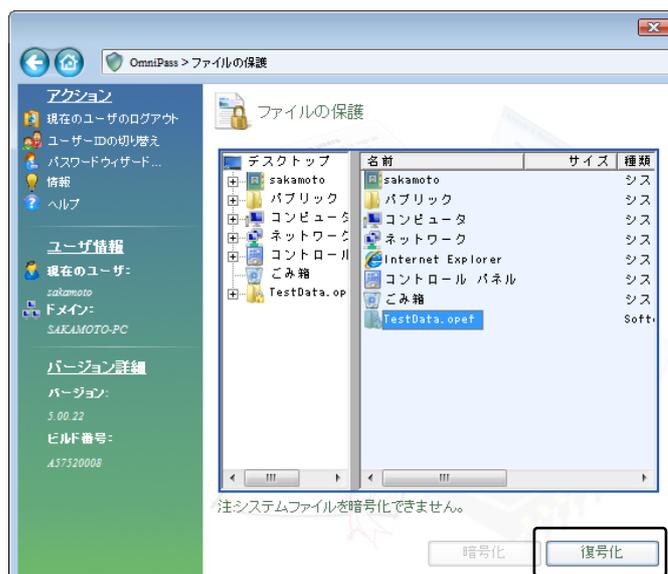
6

暗号化の操作は Windows Explorer から行うこともできます。マウスの右クリックでコンテキストメニューを表示し、「OmniPass ファイルの暗号化」を選択すると上記と同じ暗号化の操作を行うことができます。



## ■復号化

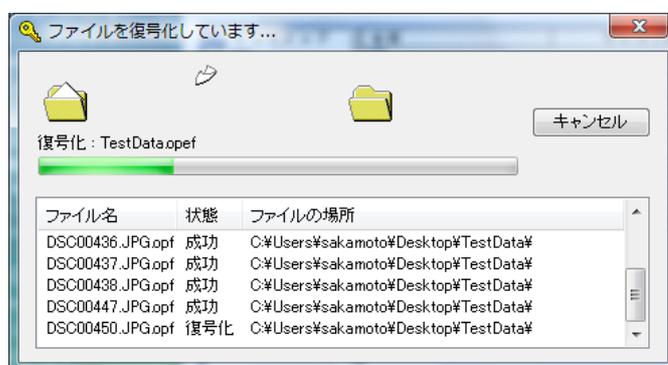
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「ファイルの保護」のページを選択します。  
復号化を行いたいフォルダもしくはファイルを選択し、「復号化」をクリックします。  
マウスの右クリックでコンテキストメニューを表示し、「OmniPass ファイルの復号化」を選択して、復号化の操作を行うこともできます。



- 2 復号化のための認証を行います。



- 3 認証に成功すると自動的に復号化が行われます。



- ⚠ 復号化を行う方法として、Explorer に表示された暗号化ファイル・暗号化フォルダをマウスから直接ダブルクリックする方法があります。  
フォルダをダブルクリックすると暗号化フォルダは一旦復号化されますが、フォルダ内の暗号化ファイルを編集し、フォルダを閉じると暗号化された状態になります。  
暗号化ファイルの場合、ダブルクリックで開くと復号化されます。

## ■暗号化ファイルの共有

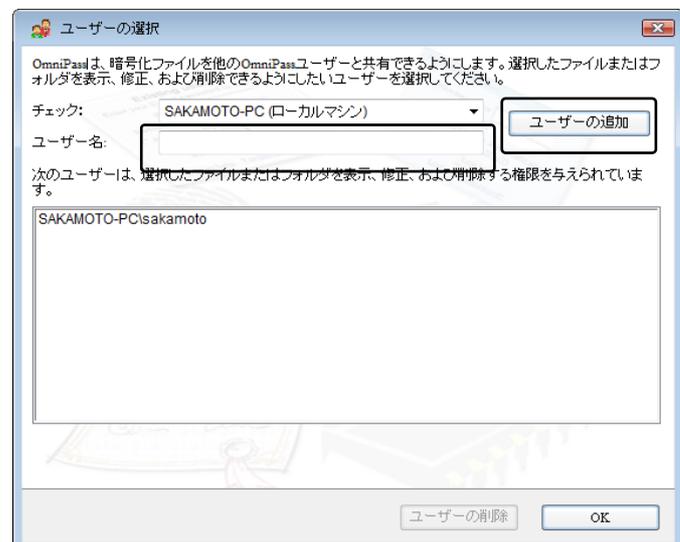
- 1 Windows Explorer からマウスの右クリックでメニューを表示し、「OmniPass 暗号化ファイルの共有」を選択します。



- 2 暗号化ファイル共有のための認証を行います。

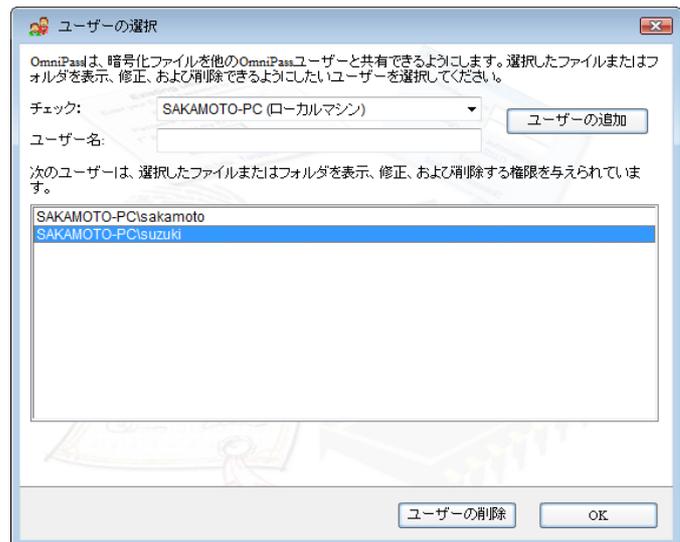


- 3 暗号化ファイルの共有を行いたい OmniPass に登録されたユーザ名を入力し、「ユーザの追加」のボタンをクリックします。



# 4

下部の一覧に共有化を許可するユーザが追加されます。



OmniPass 暗号化ファイルやフォルダを共有すると、共有するユーザとの間で共有されたリソースを効果的に制御することができます。一旦共有の許可を行うと、許可されたユーザはすべてのファイルのコピー・編集を行うことができ、更には OmniPass ユーザのリストから全てのユーザを排除することができます。許可を与えたユーザが暗号化されたリソースの制御をできないようにすることも可能となりますので、注意してください。



ファイルの共有を許可されたユーザが復号化の操作を行う場合は、ユーザは OmniPass にログオンする必要があります。OmniPass にログオンしていない状態で、ファイルの復号化を行うことはできません。



※ Windows2000(SREX-FSU1Gのみ対応)でご利用のお客様は(8-1.ユーザの追加と削除)をご参照ください。

OmniPass ユーザの追加ではユーザ名とパスワードが必要になります。ユーザの追加を行う場合は、先に追加するユーザ Windows のログオンパスワードを作成してください。

#### ■ユーザの追加

1 タスクバーに格納された鍵マーク (OmniPass コントロールセンタ) をダブルクリックします。



OmniPass コントロールセンタ

2 「登録ウィザードの実行」を選択します。



3 次に「新規ユーザを OmniPass に追加」を選択します。

以降の操作は、3-2.OmniPass ユーザ登録で説明されている手順2からに従ってユーザ登録を行います。



## ■ユーザの削除



ユーザを削除すると、そのユーザに関連付けられた OmniPass データは自動的に破棄されます。また、そのユーザが暗号化したファイルは復号化できなくなります。

削除を行う前に、以下の操作を行うことを推奨します。

- (1) OmniPass ユーザプロフィールのバックアップを行う。
- (2) 全ての OmniPass 暗号化ファイル・フォルダを復号化する。
- (3) 記憶させた Web およびアプリのアカウント・パスワード情報のメモを取っておく。

1

OmniPass コントロールセンタを起動し、「登録ウィザードの実行」を選択します。

右画面より「OmniPass からユーザを削除」をクリックします。



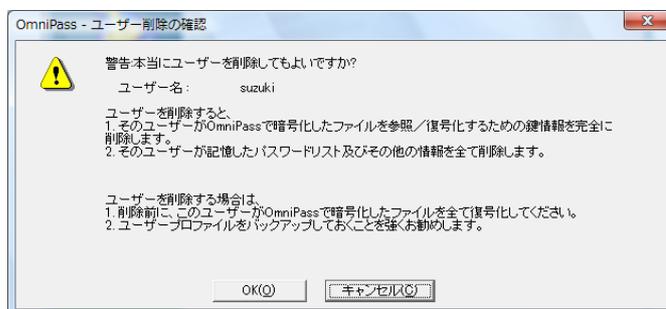
2

削除を行うユーザの指紋認証を行います。



3

削除されるユーザ名と警告の内容を確認して、事前に適切な処置を行った後、問題がなければ「OK(O)」をクリックします。



削除完了確認画面が表示されます。「OK」ボタンをクリックします。





## 5-2. アカウント情報の管理

※ Windows2000(SREX-FSU1Gのみ対応)でご利用のお客様は(8-2.アカウント情報の管理)をご参照ください。

「ログオンパスワードの記憶」で OmniPass に記憶させたパスワード情報をパスワードの管理で参照することができます。万が一、パスワードを忘れた場合にも確認できます。

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「パスワードの管理」を選択します。

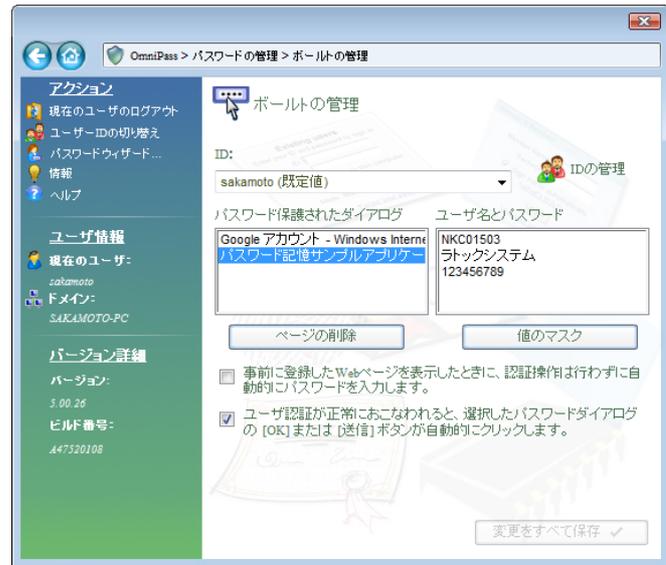


- 2 「パスワードの管理」を開くためには、右の認証作業を行います。



### 3

「ボールドの管理」頁を開きます。「パスワード保護されたダイアログ」にOmniPassが記憶したWebサイトおよびWindowsプログラムの名前が表示されます。「ユーザ名とパスワード」に各サイトのアカウント情報が表示されます。「値のマスク解除」をクリックしてパスワードの内容を確認できます。また、「ページの削除」をクリックして、記憶した情報を削除することができます。

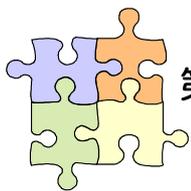


OmniPass による記憶されたサイトの処理方法には、下記の 3 つの設定があります。

- (1) 「事前に登録した Web ページを表示したときに、認証操作は行わずに自動的にパスワードを入力します。」
- (2) 「ユーザ認証が正常におこなわれると、選択したパスワードダイアログの「OK」または「送信」ボタンを自動的にクリックします。」
- (3) 上記のいずれにもチェックを入れない設定。

4-1. アカウント情報の記憶の手順 4 で設定した内容が表示されます。

- (1) の設定は、あまり安全ではありません。(1) の設定を有効にすると、このサイトに移動するたびに、OmniPass は認証を要求せずにサイトに自動的にログインします。
- (2) の設定にすると、OmniPass に記憶されたサイトを開くたびに、ユーザ認証が要求されます。認証に成功すると、このサイトに自動的にログインします。
- (3) の設定にすると、OmniPass に記憶されたサイトを開くたびに、ユーザ認証を要求します。認証に成功すると、サイトの入力位置へアカウント情報 (ユーザ ID やパスワード) は自動的に記入されますが、サイトにログインするためには、Web サイトの OK、送信、またはログインボタンをクリックする必要があります。



### 5-3. プロファイルのバックアップと復元

※ Windows2000(SREX-FSU1Gのみ対応)でご利用のお客様は(8-3.インポートとエクスポート)をご参照ください。

ユーザプロファイルのバックアップにより、OmniPass に記憶させたサイトのアカウント情報、登録した指紋データをバックアップすることができます。OmniPass のアンインストールを行う前に、必ずユーザプロファイルのバックアップを行ってください。

職場のパソコンで暗号化したファイルを自宅のパソコンに持ち帰って復号化したいというような場合、暗号化を行ったパソコンでバックアップしたユーザプロファイルを復号化したいパソコンに復元します。

#### ■ユーザプロファイルのバックアップ

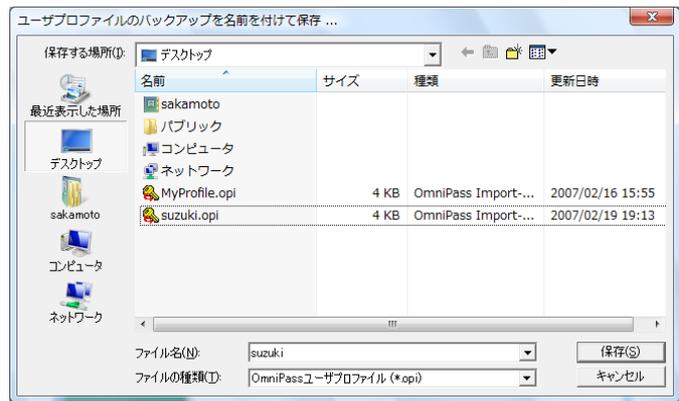
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「登録ウィザードの実行」を選択します。  
右画面より「ユーザの OmniPass プロファイルのバックアップ」をクリックします。



- 2 バックアップのための認証を行います。



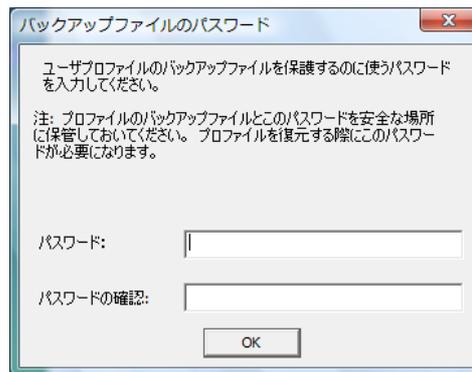
3 バックアップファイルの保存先とファイル名を設定し、「保存(S)」をクリックします。



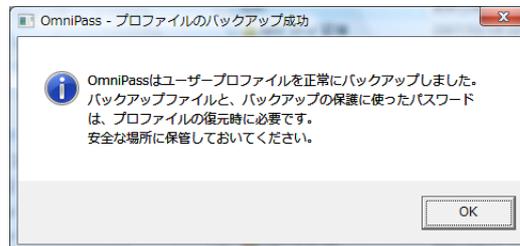
4 バックアップファイルのパスワードを入力し、「OK」をクリックします。



このパスワードは復元の際に使用しますので、必ず他の場所に記録しておくようにします。



5 「プロファイルのバックアップ成功」のメッセージが表示されます。「OK」をクリックします。  
保存した場所に「xxx.opi」ファイルが作成されます。



## ■ユーザプロファイルの復元

1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「登録ウィザードの実行」を選択します。

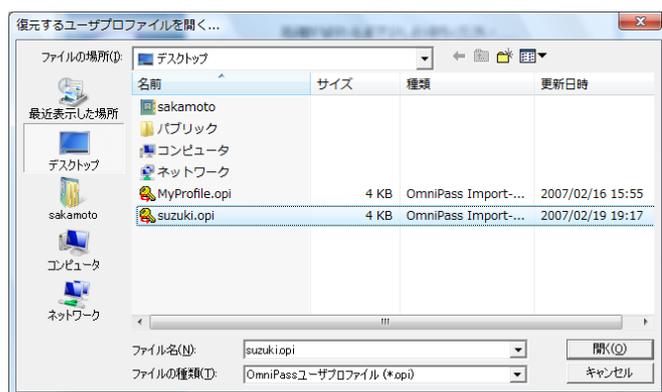
右画面より「ユーザの OmniPass プロファイルの復元」をクリックします。



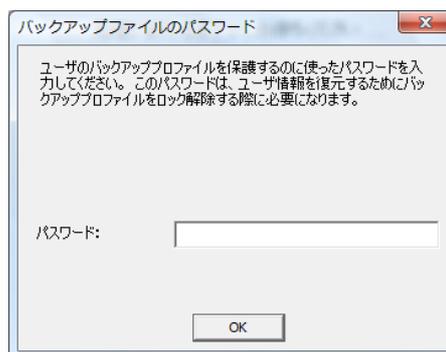
同じ名前のユーザが既に登録されている場合、プロファイルを復元することはできません。



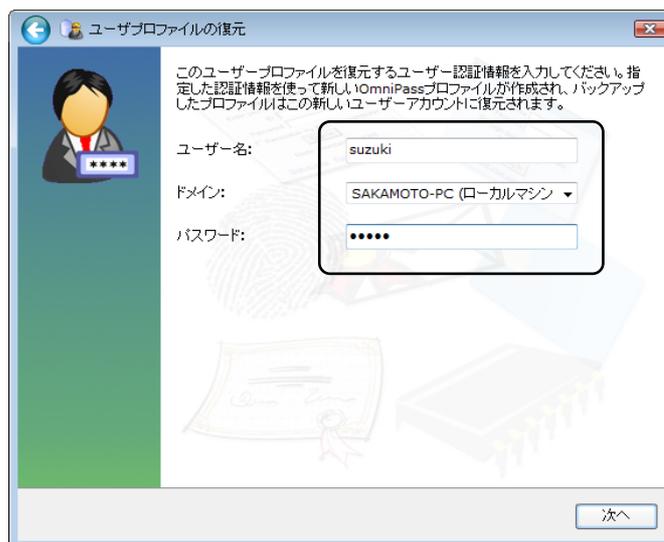
2 復元したいユーザプロファイルが保存されている場所とファイル名を指定し、「開く(O)」をクリックします。



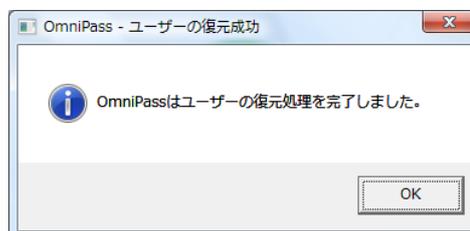
3 ユーザプロファイルのバックアップを行ったときに設定したパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

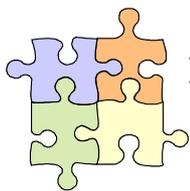


- 4 ユーザプロファイルのバックアップを行った時に使用していた「ユーザ名」・「ドメイン名」・「パスワード」を入力して「次へ」をクリックします。



- 5 「ユーザのインポート完了」メッセージが表示されます。「OK」をクリックします。





## 5-4. OmniPass コントロールセンタその他の設定

※ Windows2000(SREX-FSU1G のみ対応)でご利用のお客様は(8-4.OmniPass コントロールセンタその他の設定)をご参照ください。

OmniPass のその他の設定機能について説明します。

### ■ユーザのデバイス登録の変更

「認証デバイスの登録」は、既に登録されたユーザについて、別の指の指紋データも追加登録したい場合に使用します。将来、OmniPass で別の認証デバイスが追加サポートされた場合に、「認証デバイスの登録」よりそのデバイスを登録して、認証に使用することができます。

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「登録ウィザードの実行」を選択します。  
右画面より「ユーザのデバイス登録の変更」をクリックします。

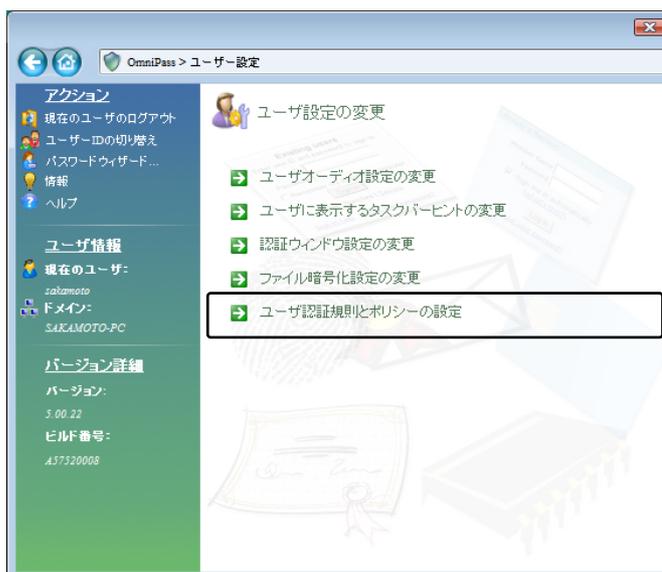


- 2 登録に使用するセンサを選択して、「次へ」をクリックします。  
以後の操作は、3-2.OmniPass ユーザ登録の3からの手順と同じです。



## ■ 認証デバイスの必須設定

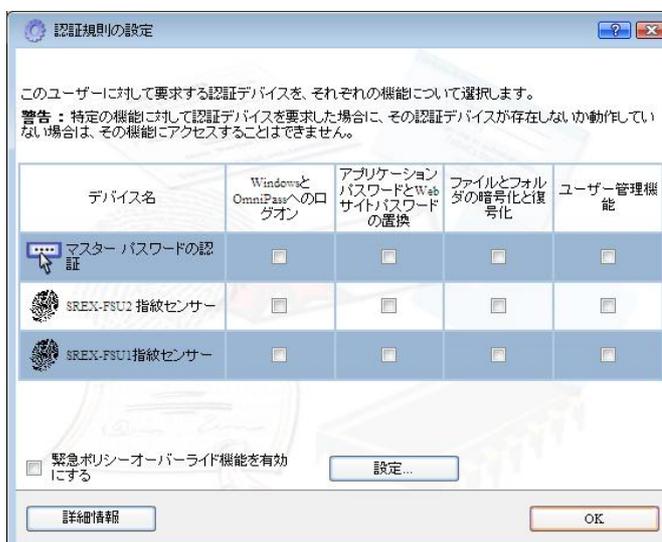
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定の変更」を選択します。右画面より「ユーザ認証規則とポリシーの設定」をクリックします。



- 2 認証規則の設定のための認証を行います。



- 3 認証デバイスの必須設定では、
  - ① Windows と OmniPass へのログオン
  - ② アプリケーションパスワードと Web サイトパスワードの置換
  - ③ ファイルとフォルダの暗号化と復号化
  - ④ ユーザ管理機能
 を行う際に、それぞれの認証方式(指紋認証/パスワード認証)を必須とするか否かの設定を行うことができます。



1. Windows XP 環境では、「Windows と OmniPass へのログオン」のオプションは「強力ログオンセキュリティを有効にする」を選択するまで使用できません。(次ページ参照)
2. 必須設定として登録されている操作で認証ができない場合、その操作を続行できませんので「緊急ポリシーオーバーライド機能を有効にする」を有効にすることをおすすめいたします。(次ページ参照)

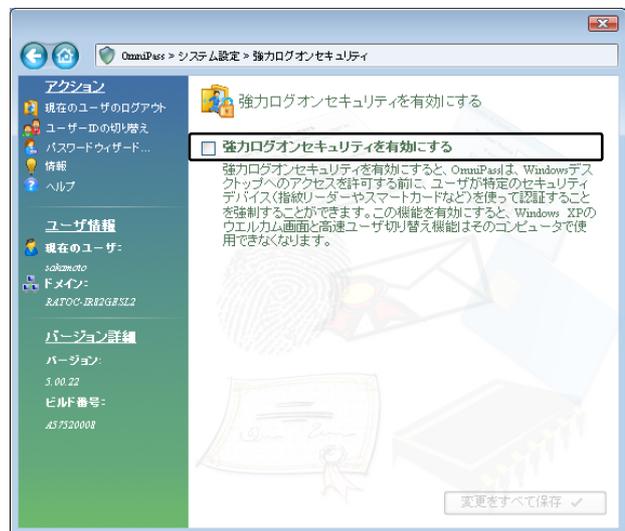
## ■強力ログオンセキュリティを有効にする (WindowsXP のみ)

OmniPass コントロールセンタを起動します。

「システム設定の変更」のページを開き、「強力ログオンセキュリティを有効にする」をクリックします。



「強力ログオンセキュリティを有効にする」にチェックを入れると、WindowsXP のログオン画面でアカウント登録された全てのユーザ表示は行われなくなり、ユーザ名とパスワード入力画面が表示されるようになります。

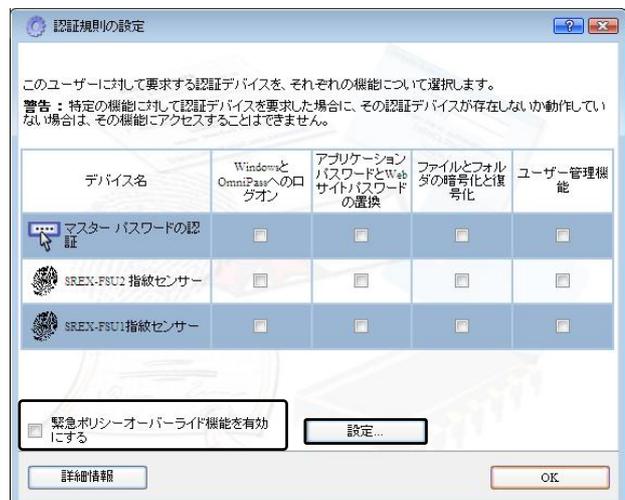


## ■緊急ポリシーオーバーライド機能を有効にする

「緊急ポリシーオーバーライド機能を有効にする」にチェックを入れると、認証が必要な操作で認証できない場合に、設定した回答を入力することで認証作業を回避することができます。

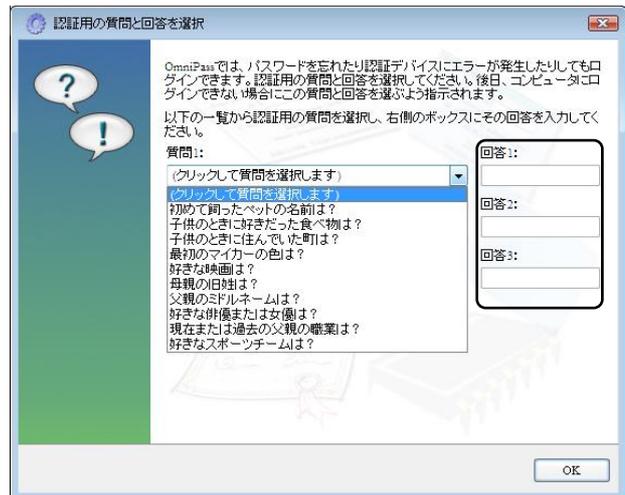
設定方法は以下の通りとなります。

「認証規則の設定」ダイアログで「設定」ボタンをクリックします。



「認証用の質問と回答を選択」ダイアログが出力されますので、質問 1~3 を選択し、回答 1~3 に回答を入力します。

「OK」 ボタンをクリックします。



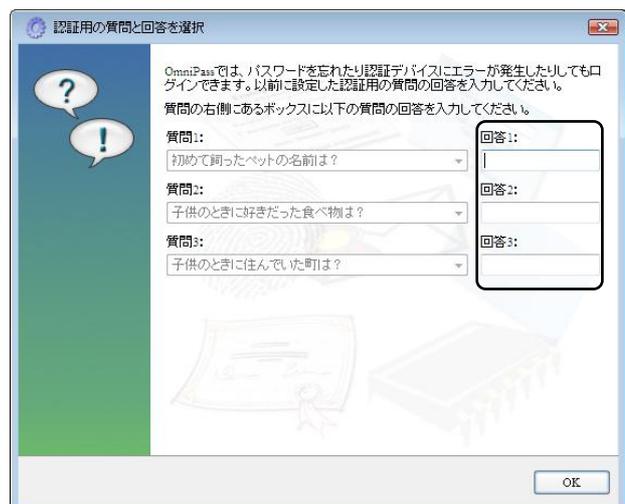
使用方法は以下の通りとなります。  
認証画面の「ログインできません」をクリックします。



「緊急ポリシーオーバーライド」ダイアログが出力されますので、ユーザ名とドメイン名を入力し「OK」 ボタンをクリックします。



設定した回答 1~3 を入力し「OK」 ボタンをクリックします。



## ■OmniPass へのログオン設定

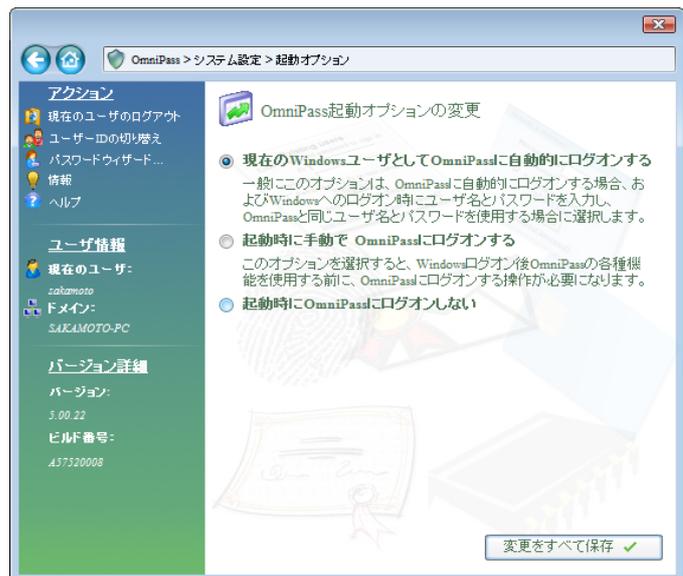
Windows ログオンユーザが OmniPass の機能を使用するためには、OmniPass へログオンする必要があります。

OmniPass コントロールセンタを起動します。  
右画面より、「システム設定の変更」メニュー  
を選択し「OmniPass 起動オプションの変更」  
をクリックします。



「起動オプション」より 3 種類の OmniPass  
へのログオン方法を選択することができます。

- (1)現在の Windows ユーザとして OmniPass  
に自動的にログオンする（デフォルト値）
- (2) 起動時に手動で OmniPass にログオンす  
る
- (3) 起動時に OmniPass にログオンしない



(1) の設定が選択されていると、Windows にログオンした後、Windows 起動後に OmniPass に自動的にログオンします。

(2) の設定が選択されていると、OmniPass は Windows 起動後にユーザに OmniPass にログオンするように要求します。

(3) の設定が選択されていると、OmniPass はユーザに OmniPass にログオンするように要求しません。

タスクバーに登録された鍵マークの OmniPass 上にカーソルを移動することにより、現在 OmniPass にログオンしているユーザ名を確認することができます。

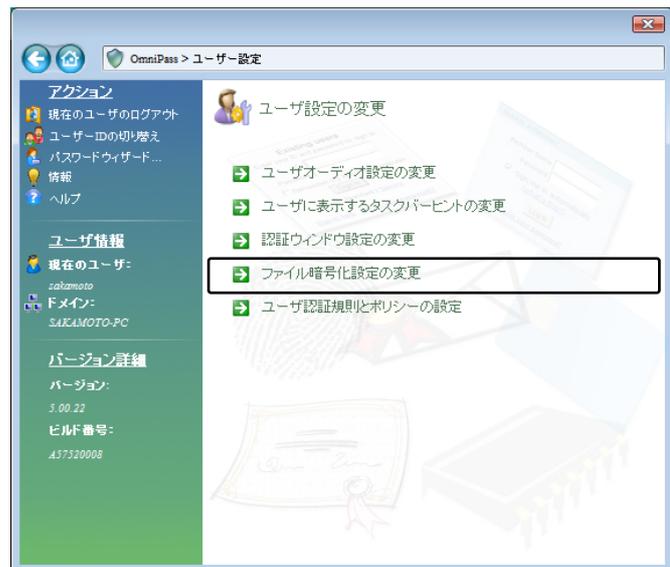
同様にマウス右クリックより、「ユーザのログオン(L)」もしくは「現在のユーザのログアウト(C)」を選択することにより、Windows を起動したまま OmniPass ログオンユーザを切り替えることができます。



## ■暗号化／復号化の設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定の変更」を選択します。

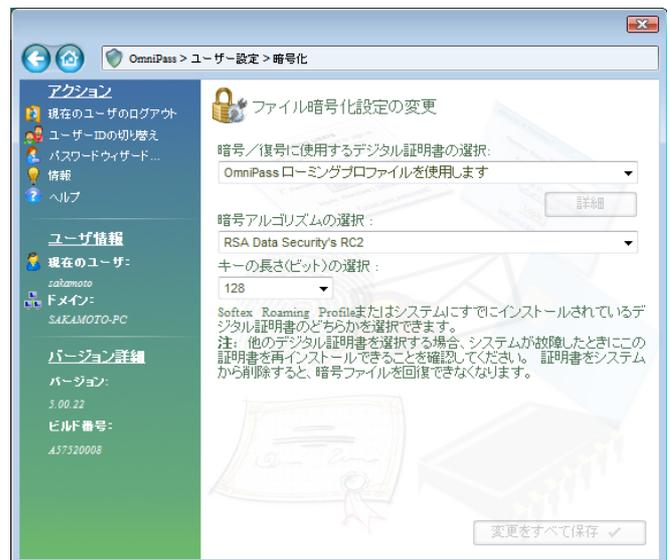
右画面より「ファイル暗号化設定の変更」をクリックします。



「アルゴリズムの選択」から、

- RSA Data Security's RC2
- RSA Data Security's RC4
- Data Encryption Standard (DES)
- Two Key Triple DES
- Three Key Triple DES

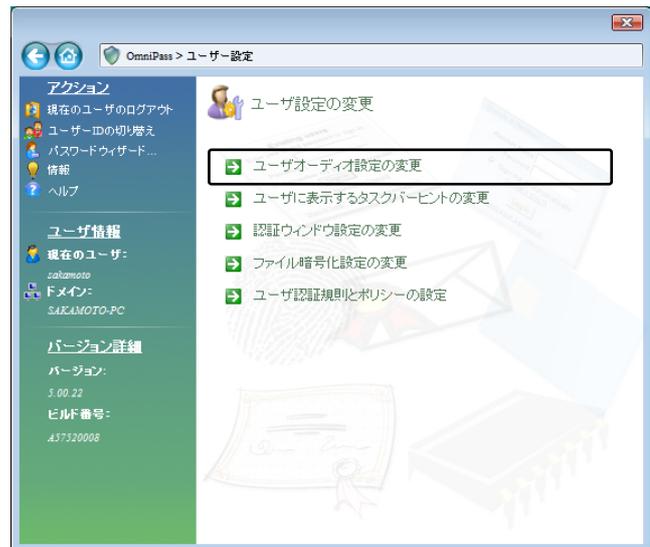
を選択することができます。上から下の順で暗号化セキュリティの信頼性は高くなりますが、暗号化・復号化に要する時間は長くなります。



## ■サウンドの設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定の変更」を選択します。

右画面より「ユーザオーディオ設定の変更」をクリックします。



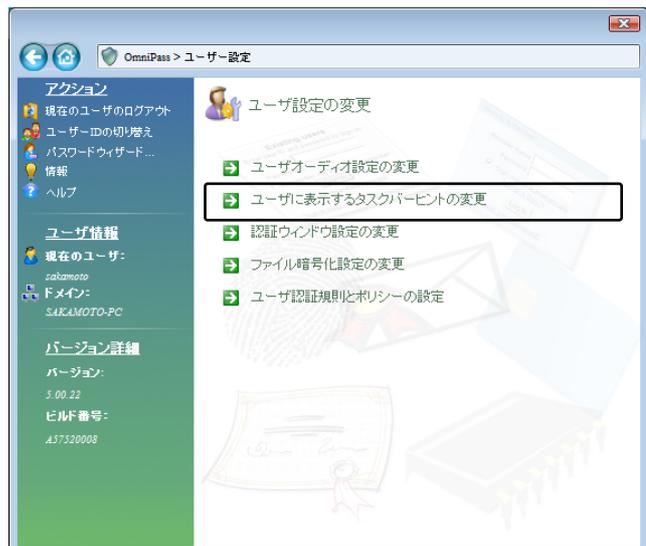
OmniPass のイベント（例えば、ログオン認証に成功した時、認証が拒否されたときなど）をサウンドでユーザに通知する方法を設定できます。



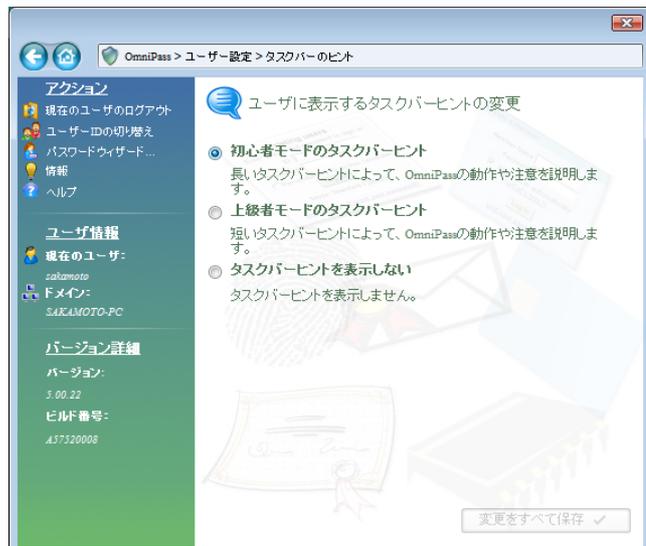
## ■タスクバーヒントの設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定の変更」を選択します。

右画面より「ユーザに表示するタスクバーヒントの変更」をクリックします。



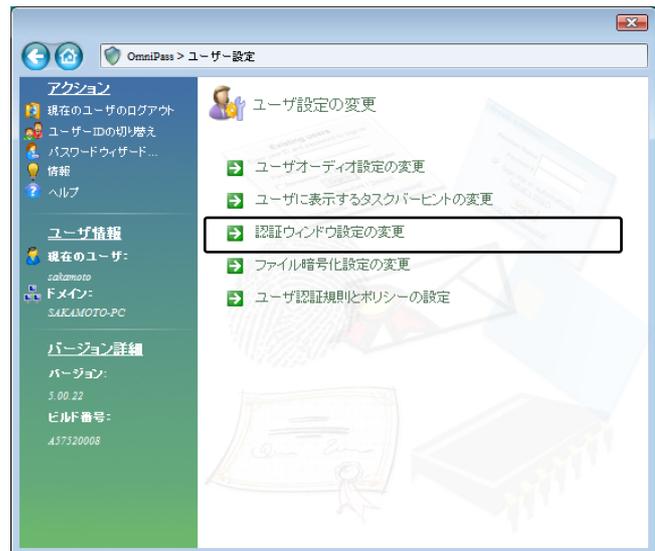
タスクバーのヒントを表示するという設定にしていれば、OmniPass は「パスワードを記憶」できるタイミングを常に通知しますので、ユーザにログオンを要求する任意の認証イベントを記憶することができます。



## ■ 認証ウィンドウの設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定の変更」を選択します。

右画面より「認証ウィンドウ設定の変更」をクリックします。



「透明な認証ウィンドウ」を選択すると、認証画面の透明度を設定することができます。





## 第6章 登録 (Windows 2000)

### 6-1. OmniPass インストール

※ Windows 7/Vista/XP/Server2008/Server2003 でご利用のお客様は(3-1.OmniPass インストール)をご参照ください。

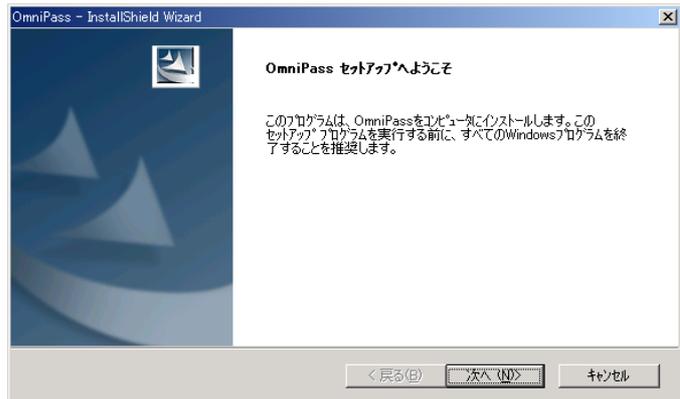
OmniPass のインストール・アンインストールについて説明します。

#### ■OmniPass のインストール

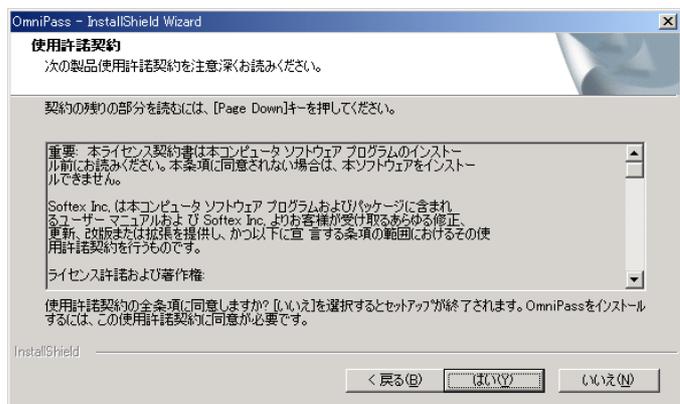
- 1 製品付属 CD-ROM の OmniPass¥ Win2k フォルダに格納された「SETUP.EXE」を起動します。「よろこそ」の画面が表示されたら、「次へ(N)」をクリックします。



OmniPass をインストールするユーザはシステムに対して管理者権限を持っている必要があります。



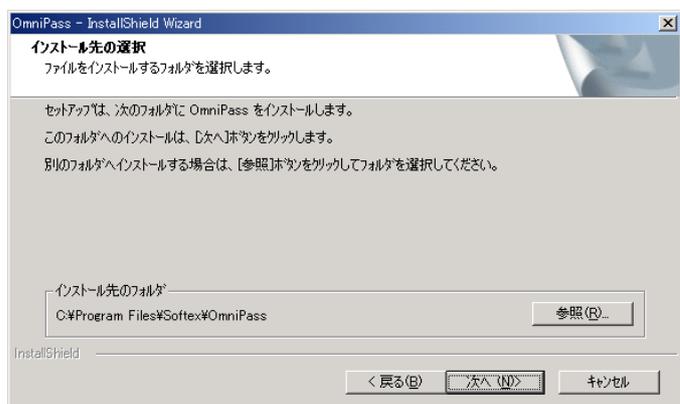
- 2 使用許諾書の内容をご確認頂き、問題がなければ「はい(Y)」をクリックします。



- 3 インストール先の選択を行います。「次へ(N)」をクリックします。



ルートディレクトリ（例えば、C:¥）にインストールしないでください。OmniPass をインストールしたディレクトリの下層でファイルやフォルダの暗号化はできません。

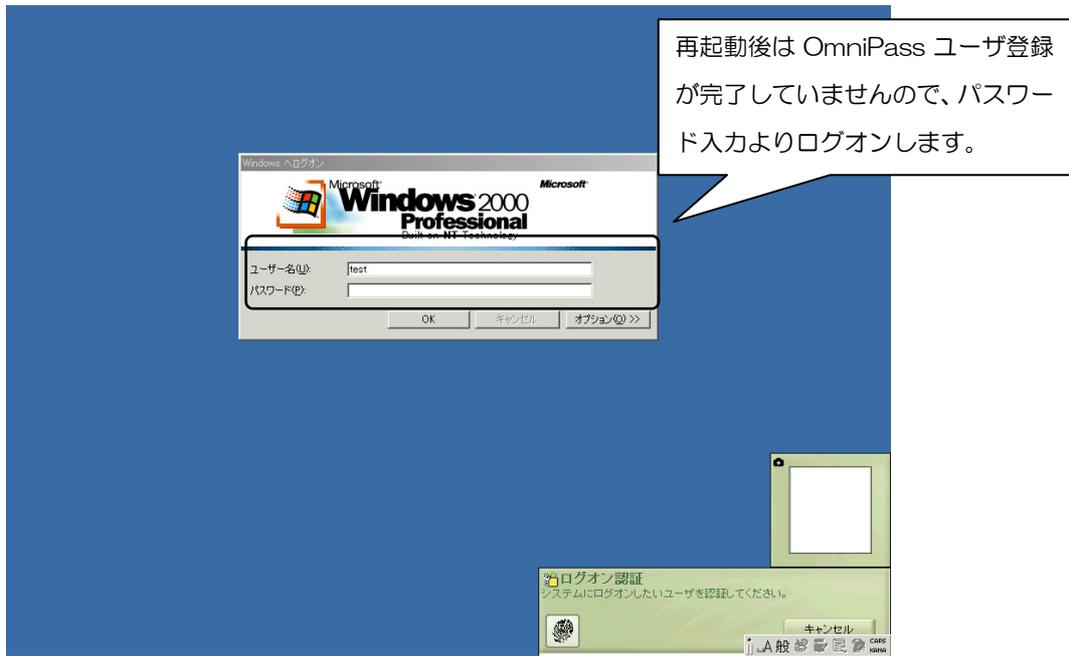


4

「コンピュータの再起動」を選択し、「完了」をクリックします。



指紋センサを接続した状態で再起動すると、Windows ログオン画面にOmniPassの指紋認証ダイアログが表示されます。この段階では、OmniPass ユーザ登録は完了していませんので、パスワードを使って Windows へログオンしてください。



5

再起動後、タスクバーに鍵マークの OmniPass コントロールセンタのアイコンが表示されます。



## ■OmniPass のアンインストール



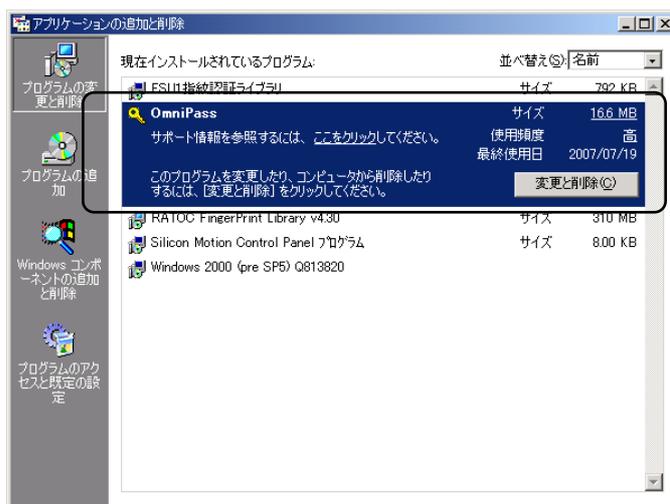
OmniPass のアンインストールを行うと、OmniPass で暗号化されたファイルは復号化することができなくなります。また、保存されたパスワードと情報は全て失われます。アンインストールを行う前に、以下の操作を行うことを推奨します。

- (1) 全ての OmniPass 暗号化ファイルを復号化する。
- (2) ユーザプロフィールをエクスポートする。

1

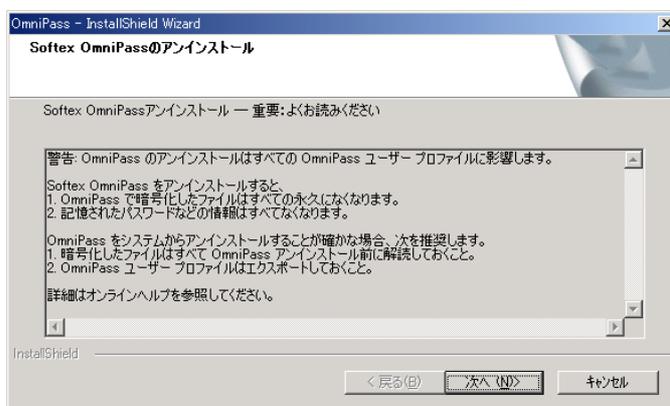
「スタートボタン」から「設定」-「コントロールパネル」を選択し、「アプリケーションの追加と削除」をクリックします。

「OmniPass」を選択し、「変更と削除(C)」ボタンをクリックします。



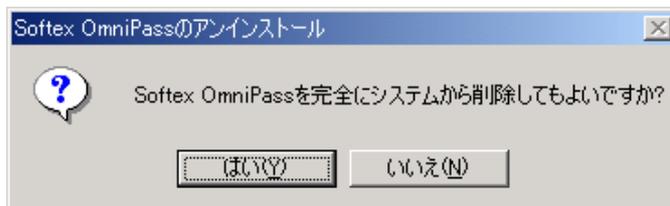
2

アンインストール時の警告内容をご確認頂き、アンインストールして問題がない場合は「次へ(N)」をクリックします。



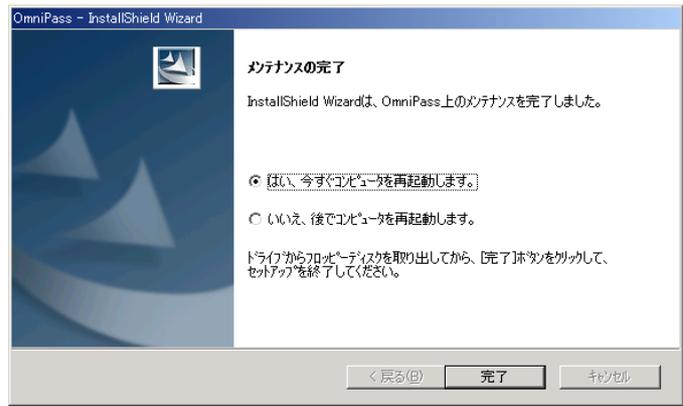
3

アンインストールの最後の確認です。実行する場合は「はい(Y)」をクリックします。



4

アンインストール完了です。「再起動」を選択して、「完了」をクリックします。



5

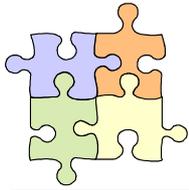
再起動後、インストールされたプログラムの一覧を表示し、RATOC FingerPrint Library v4.30を選択し、「変更と削除(C)」ボタンをクリックします。



6

削除確認画面が表示されたら「はい(Y)」ボタンをクリックします。以上の操作でアンインストール作業は完了です。





## 第6章 登録 (Windows 2000)

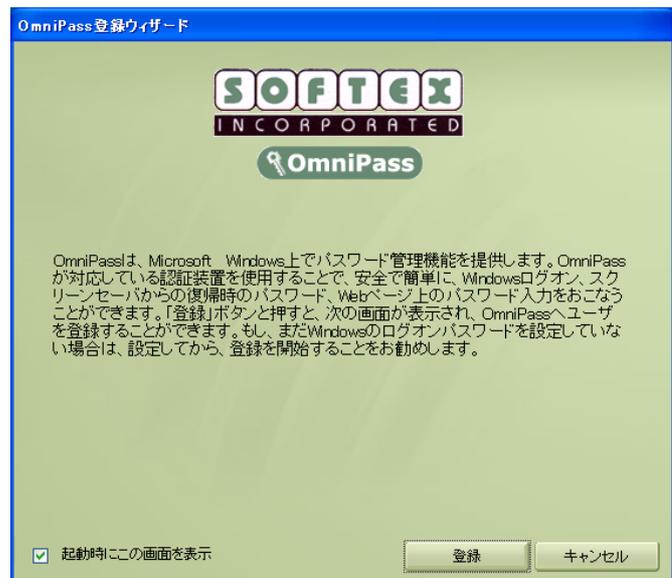
### 6-2. OmniPass ユーザ登録

※ Windows 7/Vista/XP/Server2008/Server2003 でご利用のお客様は(3-2.OmniPass ユーザ登録)をご参照ください。

OmniPass ユーザ登録では Windows ログオン時のユーザ名とパスワードが必要になります。登録を行う前に、必ず Windows のログオンパスワードを作成してください。

#### ■OmniPass ユーザ登録

- 1 OmniPass 登録ウィザードから、「登録」をクリックします。

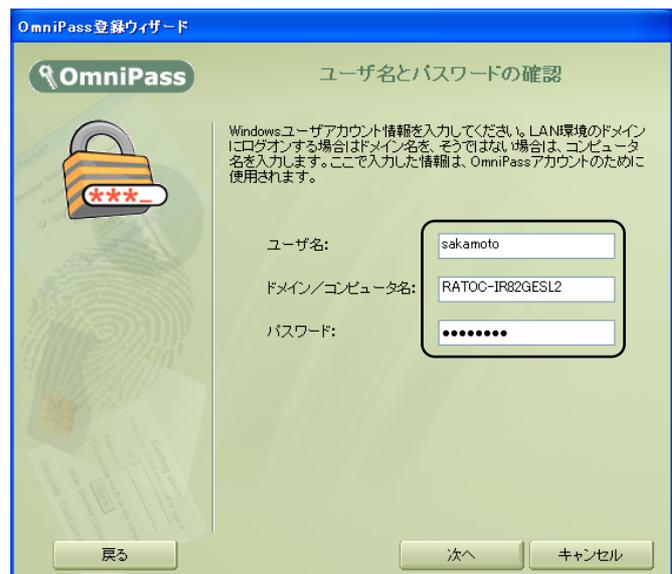


- 2 ユーザ名、ドメイン、パスワードを入力して、「次へ」をクリックします。



Windows にログオンするときと同じユーザ名とパスワードを入力します。ドメインは通常「コンピュータ名」になります。

企業環境、または企業リソースにアクセスする場合は、ドメイン名は、Windows のコンピュータ名ではありません。システム管理者にお問い合わせください。



3

「SREX-FSU1 指紋センサー」の指紋表示を選択して、「次へ」をクリックします。



4

認証で使用する指をイラスト上で選択し、「次へ」をクリックします。



指の選択画面には「練習」ボタンがあります。クリックすると、指紋のキャプチャを練習できます。



5

指紋の読み取りを開始します。画面の表示に従って指紋の読み取りを行います。指紋の読み取りは3回行う必要があります。読み取りが正常に行われた場合は、読み取った指紋画像が緑色で表示されます。読み取りに失敗した場合は、指紋画像が赤色で表示されます。



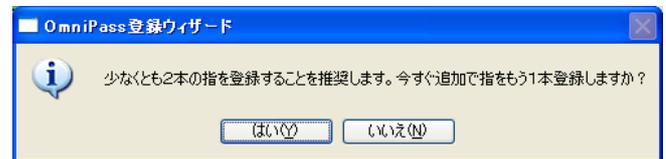
6

手順5で読み取った指紋との確認を行います。もう一度、同じ指の指紋の読み取りを行います。「認証に成功しました」と表示されたら、「次へ」をクリックします。「認証に失敗しました」と表示されたら、「戻る」をクリックし、手順5からやり直します。



7

「少なくとも2本の指を登録することを推奨します」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。手順4の操作に戻り、異なる指で登録操作を繰り返します。

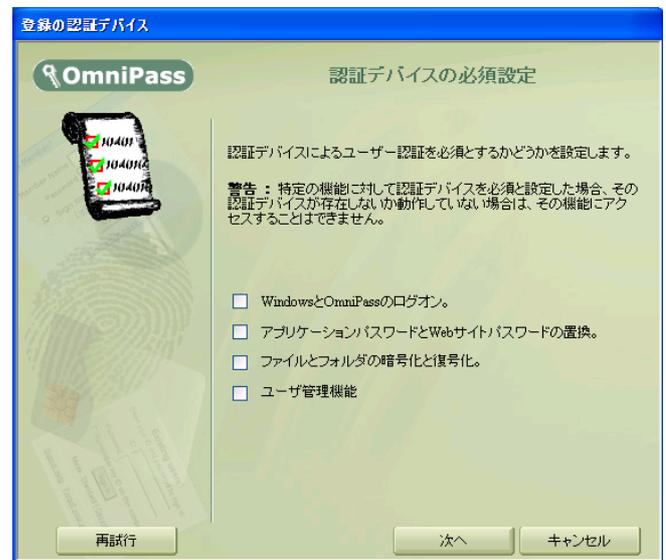


8

認証デバイスの必須設定をします。設定内容を確認して、「次へ」をクリックします。



これらの設定により、OmniPass 機能へのアクセスを制限できます。デフォルトでは、SREX-FSU1G 指紋センサが接続されていない場合、すべての OmniPass 機能は指紋入力の代わりにユーザ ID およびパスワードの入力を要求します。左の設定ボックスにチェックを入れて有効にすると、OmniPass 機能へアクセスするには、SREX-FSU1G 指紋センサによる認証が必須となるように設定されます。



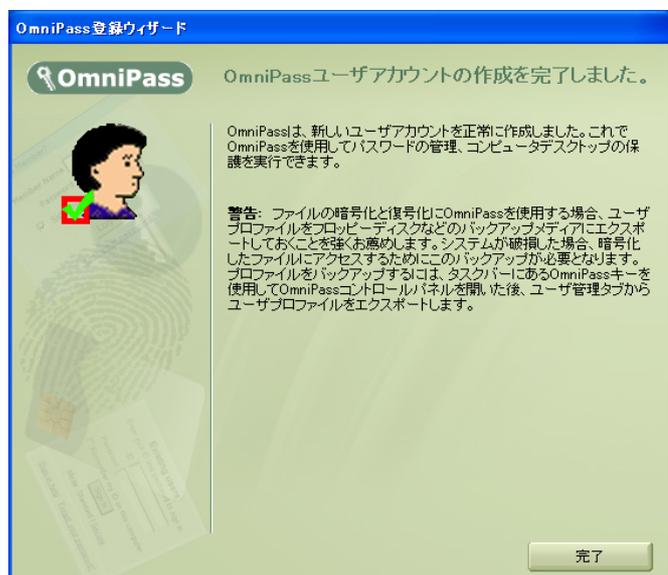
9 オーディオとタスクバーの設定をします。設定内容を確認して、「次へ」をクリックします。



OmniPassが各種のOmniPass イベントをユーザに通知する方法を選択できます。OmniPass の操作方法に慣れるまで、初心者モードタスクバーのヒントおよびサウンドプロンプトをオンにすることを勧めます。

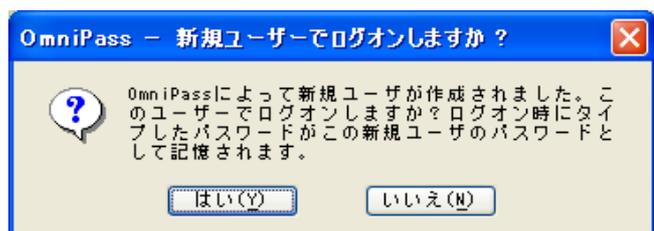


10 「完了」をクリックします。



11 「新規ユーザでログオンしますか？」のメッセージが表示されたら、「はい(Y)」をクリックします。

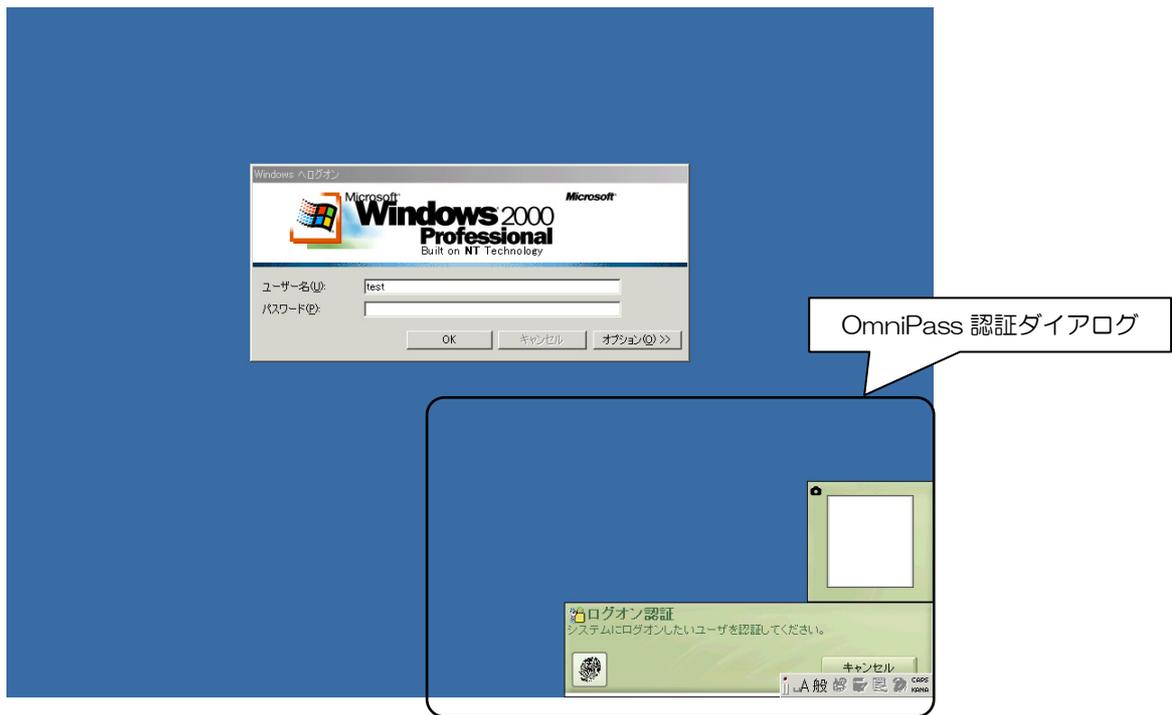
以上で指紋の登録は完了です。



## 12

OmniPass のインストールを完了し再起動すると、従来の Windows のログオンでは表示されなかった OmniPass 認証ダイアログが表示されます。これは、OmniPass 認証システムが呼び出されると常に表示されます。OmniPass 認証システムは、以下の場合に呼び出されます。

- (1) Windows のログオン時
- (2) OmniPass のログオン時
- (3) ワークステーションのロック解除時
- (4) スタンバイまたは休止状態からの復帰時（OmniPass とは別に設定が必要です）
- (5) パスワード対応のスクリーンセーバーのロック解除時
- (6) パスワード等を OmniPass に記憶したサイトを開いた時

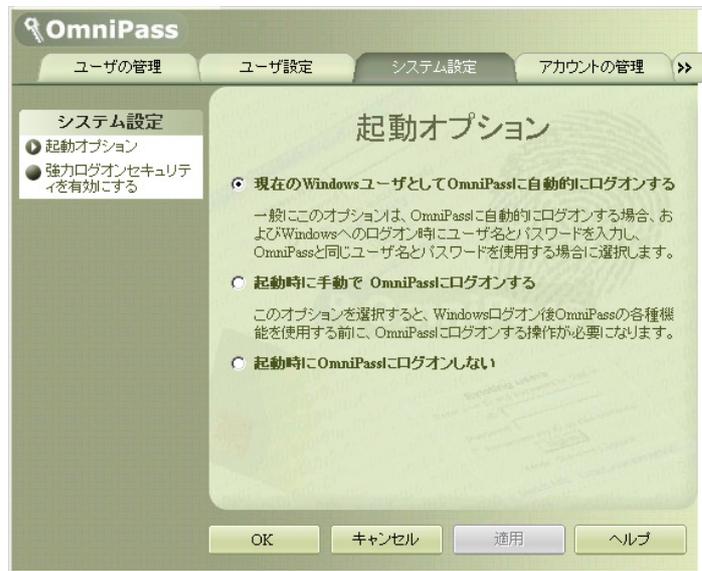


OmniPass ログオンダイアログが表示されない場合は、「9-2.トラブルシューティング」の「OmniPass ログオン画面が表示されない」の内容に従って問題を回避してください。

## ■OmniPass へのログオン

Windows ログオンユーザが OmniPass の機能を使用するためには、OmniPass へログオンする必要があります。

OmniPass コントロールセンタを起動し、「システム設定」のページの「起動オプション」で OmniPass へのログオン方法を選択することができます。



「起動オプション」では、下記の三種類の設定を選択することができます。

- (1) 現在の Windows ユーザとして OmniPass に自動的にログオンする（デフォルト値）
- (2) 起動時に手動で OmniPass にログオンする
- (3) 起動時に OmniPass にログオンしない

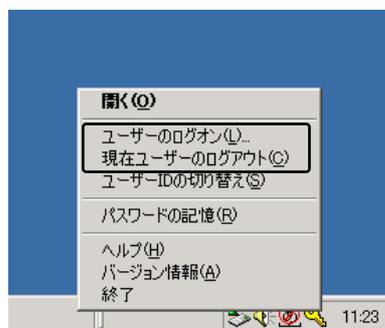
(1) の設定が選択されていると、Windows にログオンした後、Windows 起動後に OmniPass に自動的にログオンします。

(2) の設定が選択されていると、OmniPass は Windows 起動後にユーザに OmniPass にログオンするように要求します。

(3) の設定が選択されていると、OmniPass はユーザに OmniPass にログオンするように要求しません。

タスクバーに登録された鍵マークの OmniPass 上にカーソルを移動することにより、現在 OmniPass にログオンしているユーザ名を確認することができます。

同様にマウス右クリックより、「ユーザのログオン(L)」もしくは「現在のユーザのログアウト(C)」を選択することにより、Windows を起動したまま OmniPass ログオンユーザを切り替えることができます。





## 第7章 使用 (Windows 2000)

### 7-1. アカウント情報の記憶

※ Windows 7/Vista/XP/Server2008/Server2003 でご利用のお客様は(4-1.アカウント情報の記憶)をご参照ください。

OmniPass アカウント情報の記憶を行うことにより、アカウント入力（ユーザ ID、パスワード）が必要なウェブサイトに指紋認証により自動的にログオンすることができます。何種類ものパスワードを覚えておく必要はありません。

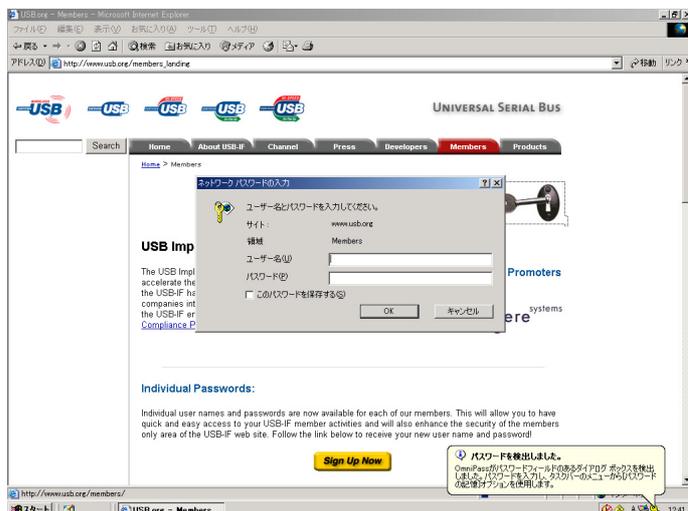


OmniPass3.0 が対応しているブラウザは Microsoft Internet Explorer 5.0/6.0 です。その他のブラウザでの動作は保証されていません。

#### ■Web ログオンパスワードの記憶

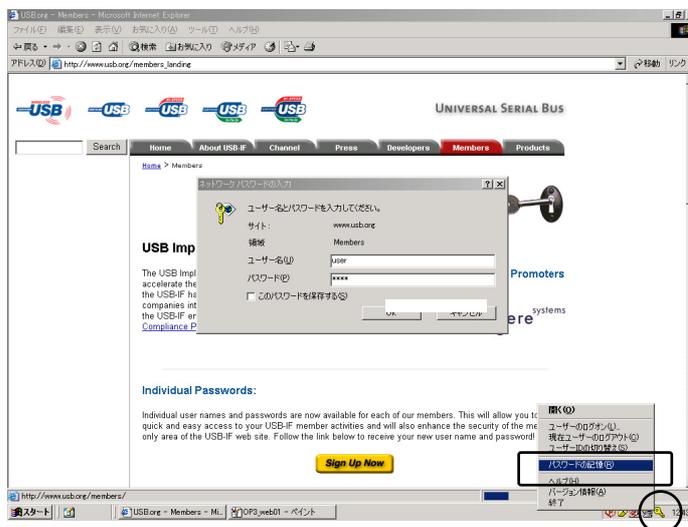
1

OmniPass はアカウント入力が必要されたことを自動検出し、「パスワードを検出しました」というメッセージを表示します。アカウント情報（右のウェブサイトでは、ユーザ名とパスワード）を入力した状態にします。



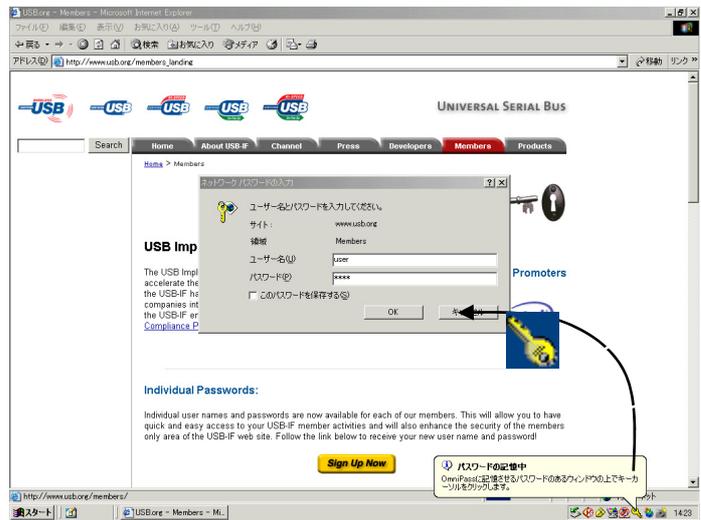
2

タスクバーの OmniPass コントロールセンタを右クリックし、メニューより「パスワードの記憶(R)」を選択します。



3

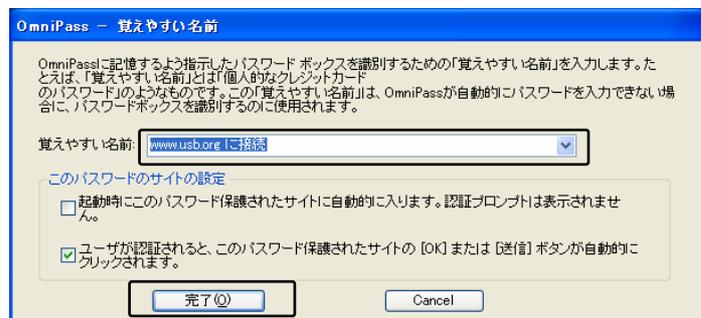
「パスワードの記憶中」が表示された状態で、OmniPass キー（右図の鍵マーク）をログオンプロンプト（アカウント入力ダイアログ）の近くに移動しクリックします。



4

OmniPass がアカウント情報を記憶すると、「覚えやすい名前」のダイアログが表示されます。「覚えやすい名前」を編集入力し、「完了(O)」ボタンをクリックします。

OmniPass に記憶させたアカウント情報は「パスワードの管理」に保管されています。



すでに OmniPass に記憶させたウェブサイトに対して「パスワードの記憶」を再実行すると、OmniPass は現在記憶しているウェブサイトのアカウント情報（ユーザ ID やパスワード）を上書き更新します。

例えば、ウェブサイト *www.usb.org* のメンバー専用ページのアカウント情報をユーザ ID:RATOC とパスワード:XXXXXX で、すでに OmniPass に記憶させていたとします。ところが、ある日 *usb.org* より新しいアカウント情報として、ユーザ ID:RATOC とパスワード:YYYYYY への更新案内が送られてきて、今後は新しいパスワード:YYYYYY でログオンしなければいけなくなったと仮定します。その場合、*usb.org* にアクセスして、OmniPass にログオンさせる代わりに新しいアカウント情報、ユーザ ID:RATOC とパスワード:YYYYYY を入力します。その後「ログオン OK」をクリックしないで、パスワードの記憶を使用してカーソルを OmniPass キーに変え、ログオンプロンプトの近傍をクリックします。OmniPass は確認を要求し、続いて *usb.org* 用のアカウント情報を上書きします。上記の操作により、OmniPass に記憶させたユーザ ID は同じですが、パスワードは XXXXXX から YYYYYY へ更新されます。

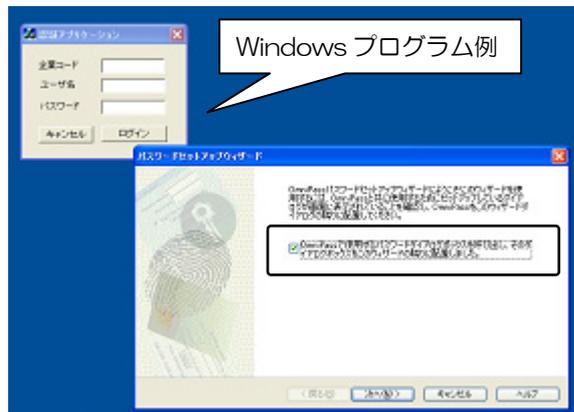
## ■アプリケーションログオンパスワードの記憶

OmniPass はアカウント入力を必要とするホームページ以外に、「パスワードウィザード」の機能を使って、アカウント入力を必要とする Windows プログラムのアカウント情報も記憶することができます。

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「アカウントの管理」を選択します。「アカウント設定」メニューより、「パスワードウィザード」を選択します。



- 2 Windows プログラムのアカウント情報入力画面を「パスワードウィザード」の近くに表示させます。  
作業が終了したら、「OmniPass で使用するパスワードダイアログボックスを呼び出し、そのダイアログボックスをこのウィザードの隣に配置しました」をチェックし、「次へ(N)」をクリックします。

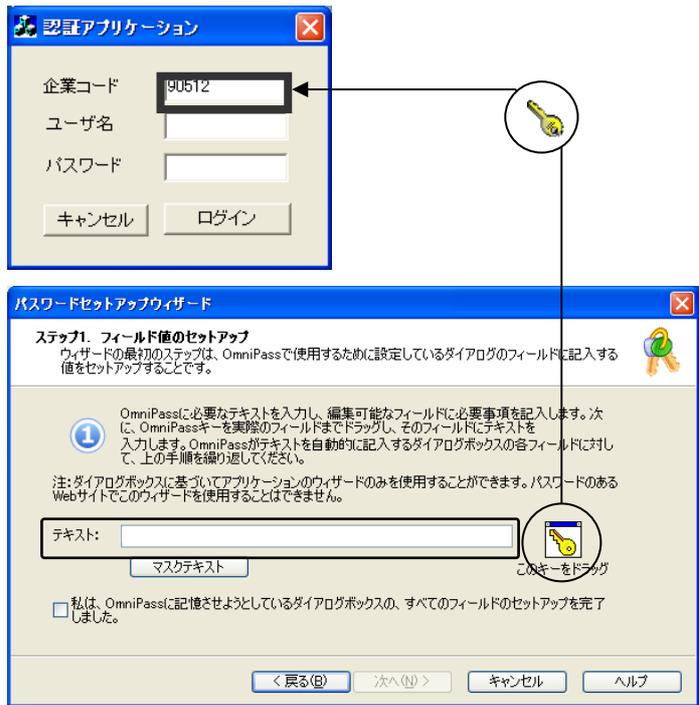


3

パスワードウィザードの「テキスト」欄に適切なアカウントデータを入力し、「このキーをドラッグ」をマウスでつかみ、Windows プログラムの該当入力欄の上で離します。右Windows プログラムの例では、企業コード・ユーザ名・パスワードについて、上記の操作を3回繰り返します。

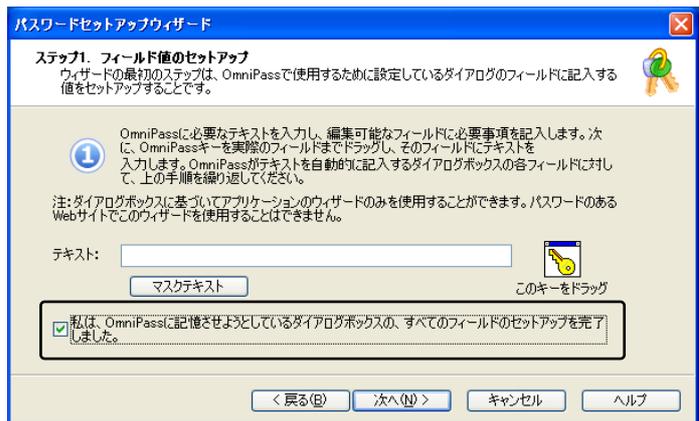


Windows プログラムの入力欄へ直接入力しないでください。



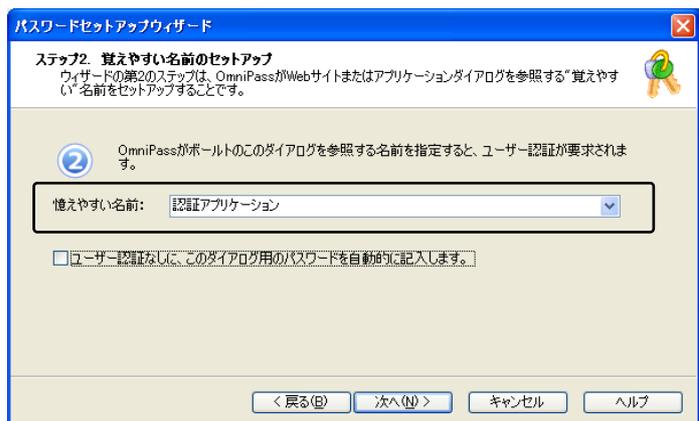
4

全ての入力が完了したら、「私は、OmniPass に記憶させようとしているダイアログボックスの、すべてのフィールドのセットアップを完了しました。」にチェックを入れて、「次へ(N)」をクリックします。



5

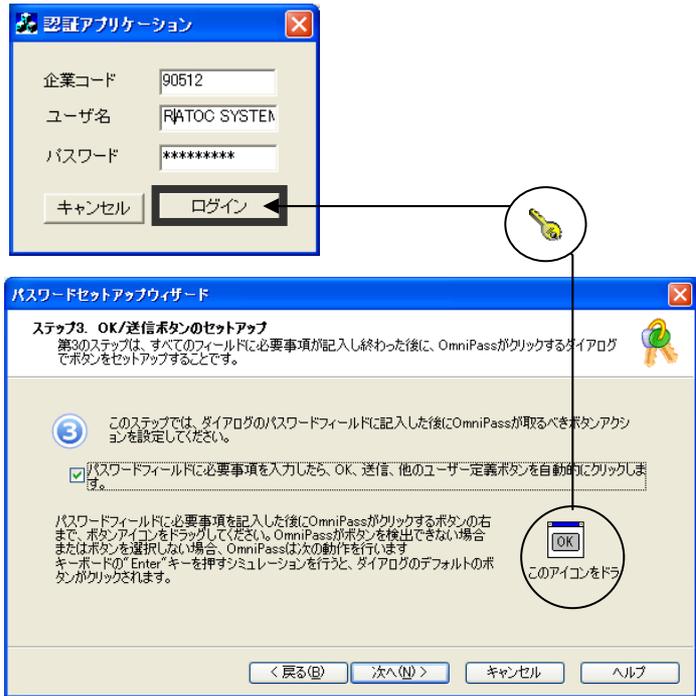
Windows プログラムの名前を「覚えやすい名前」に入力し、「次へ(N)」をクリックします。



6

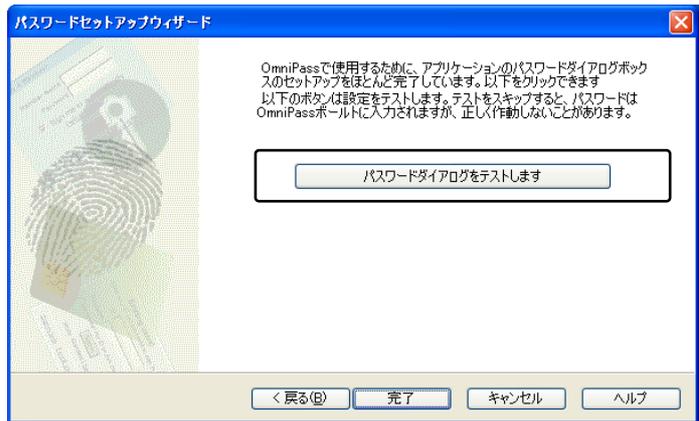
Windows プログラムで最後に操作するボタンを指定します。「このアイコンをドラッグ」をマウスでつかみ、操作するボタンの上で離します。

OmniPass への記憶操作は以上で終了です。「次へ(N)」をクリックします。



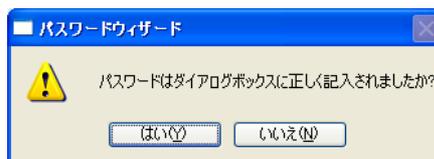
7

「パスワードダイアログをテストします」をクリックします。



8

テスト結果に問題がなければ、「はい(Y)」をクリックします。

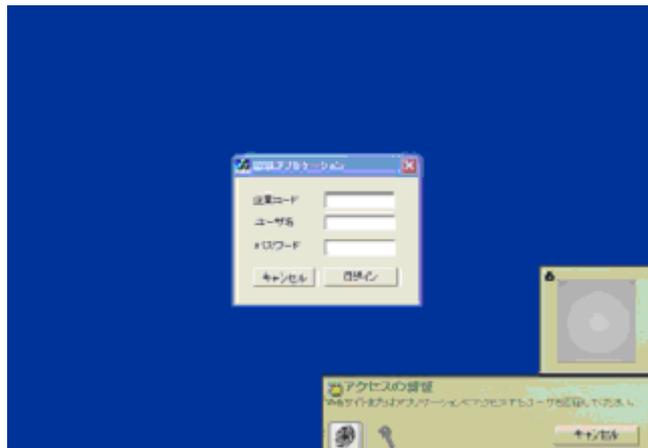


9

最後に「完了」をクリックします。



次回より、Windows プログラムのアカウント入力が表示されると、OmniPass 指紋認証ダイアログが表示されます。アカウント情報を入力する代わりに、OmniPass の指紋認証だけでログオンすることができます。



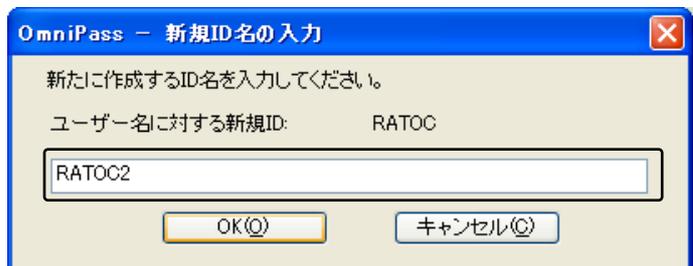
## ■IDの管理

一人の人が同一のウェブサイトで複数のアカウントを取得している場合についても、OmniPass にアカウント情報を記憶させて OmniPass 指紋認証機能を使用することができます。複数のアカウントを管理する場合は、一人のユーザに対して複数の ID を作成し、それぞれの ID に一つのアカウント情報を設定します。

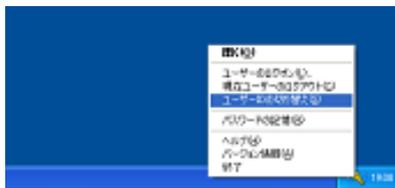
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「アカウントの管理」を選択します。  
新しい ID を追加する場合は、「新規 ID」をクリックします。



- 2 「ユーザ名に対する新規 ID」を入力し、「OK(O)」をクリックします。  
コントロールセンタの設定は以上です。

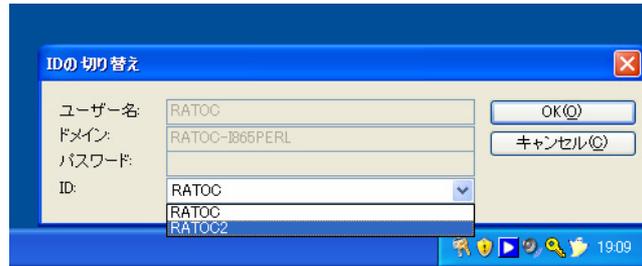


- 3 同一のウェブサイトで複数のアカウント情報を記憶させる場合は、「ログオンパスワードの記憶」を行う前に「ユーザ ID の切り替え(S)」を行い、ユーザ ID ごとに一つのアカウントを記憶させます。  
ユーザ ID の変更は、タスクバーの「OmniPass コントロールセンタ」を右クリックし、「ユーザ ID の切り替え(S)」を選択します。



4

「IDの切り替え」ダイアログより、変更したいIDを選択します。ID変更後、ログオンパスワードの記憶を実行します。



5

各ユーザ ID の「パスワード管理」は、OmniPass コントロールセンタの「アカウントの管理」のページの「パスワード管理」より行うことができます。右の「ID」を選択することにより、IDごとに記憶されたパスワード情報等が表示されます。





※ Windows 7/Vista/XP/Server2008/Server2003 でご利用のお客様は(4-2.暗号化と復号化)をご参照ください。

OmniPass はフォルダ単位・ファイル単位での暗号化と復号化を行うことができます。また、OmniPass 暗号化ファイルは複数の OmniPass 登録ユーザと共有することができます。

## ■暗号化

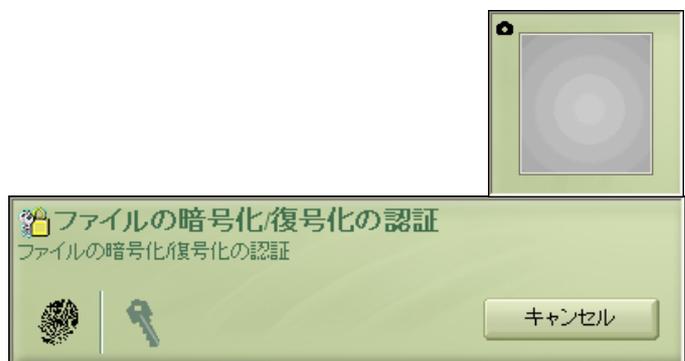
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「暗号化と復号化」のページを選択します。  
暗号化を行いたいフォルダもしくはファイルを選択し、「暗号化」をクリックします。



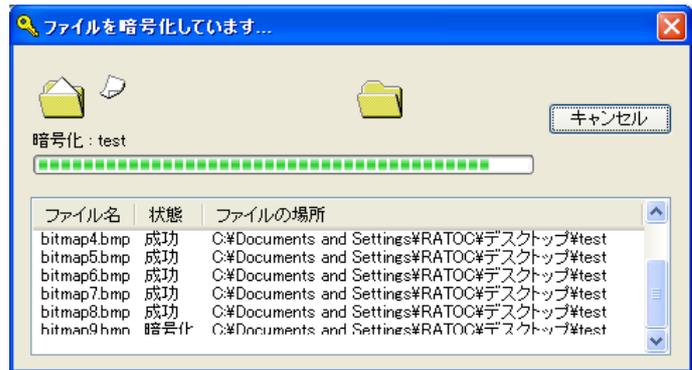
“C:¥Windows” に格納された Windows のシステムファイル、“C:¥Program Files” にインストールされたプログラム、OmniPass がインストールされているフォルダは、暗号化することができません。



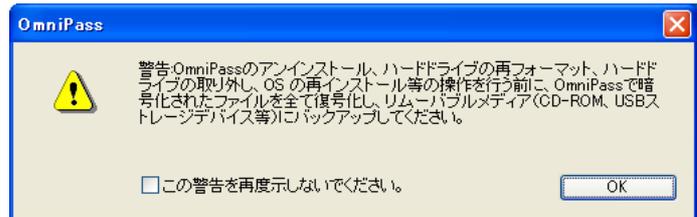
- 2 暗号化のための認証を行います。



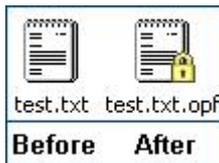
3 認証に成功すると自動的に暗号化が行われます。



4 暗号化が完了すると警告メッセージが表示されます。内容を確認して「OK」をクリックします。



暗号化を行ったファイルは下図の鍵の付いた新しいアイコンで表示されます。ファイルの拡張子は「.opf」、フォルダの拡張子は「.opof」に変換されます。



5 暗号化の操作は Windows Explorer から行うこともできます。マウスの右クリックでコンテキストメニューを表示し、「OmniPass ファイルの暗号化」を選択すると上記と同じ暗号化の操作を行うことができます。



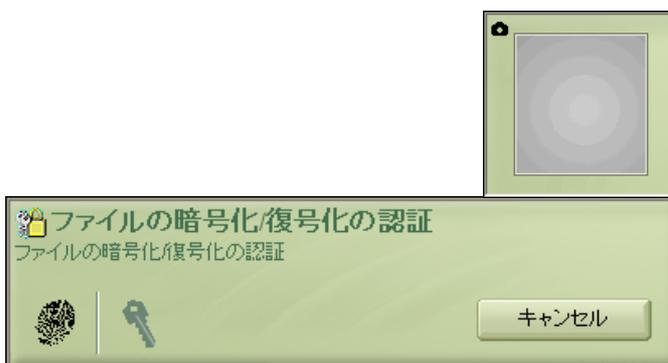
Explorer コンテキストメニュー

## ■復号化

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「暗号化と復号化」のページを選択します。  
復号化を行いたいフォルダもしくはファイルを選択し、「復号化」をクリックします。  
マウスの右クリックでコンテキストメニューを表示し、「OmniPass ファイルの復号化」を選択して、復号化の操作を行うこともできます。



- 2 復号化のための認証を行います。



- 3 認証に成功すると自動的に復号化が行われます。

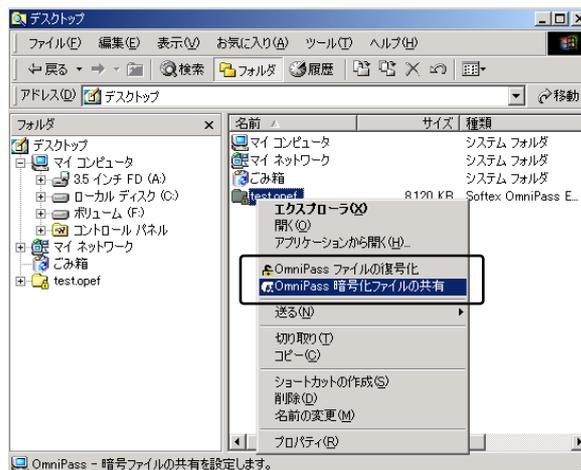


復号化を行う方法として、Explorer に表示された暗号化ファイル・暗号化フォルダをマウスから直接ダブルクリックする方法があります。ダブルクリックすると自動的に復号化され編集等行うことができますが、一度ファイルを閉じると暗号化された元の状態に戻ります。

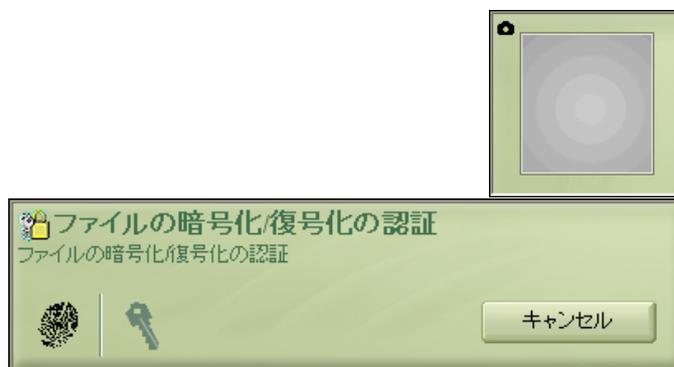


## ■暗号化ファイルの共有

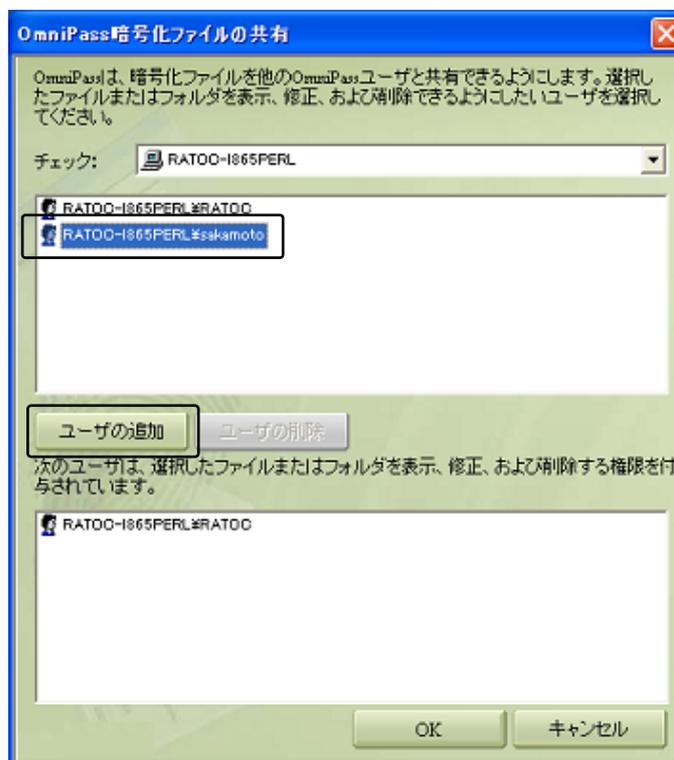
- 1 Windows Explorer からマウスの右クリックでメニューを表示し、「OmniPass 暗号化ファイルの共有」を選択します。



- 2 暗号化ファイル共有のための認証を行います。

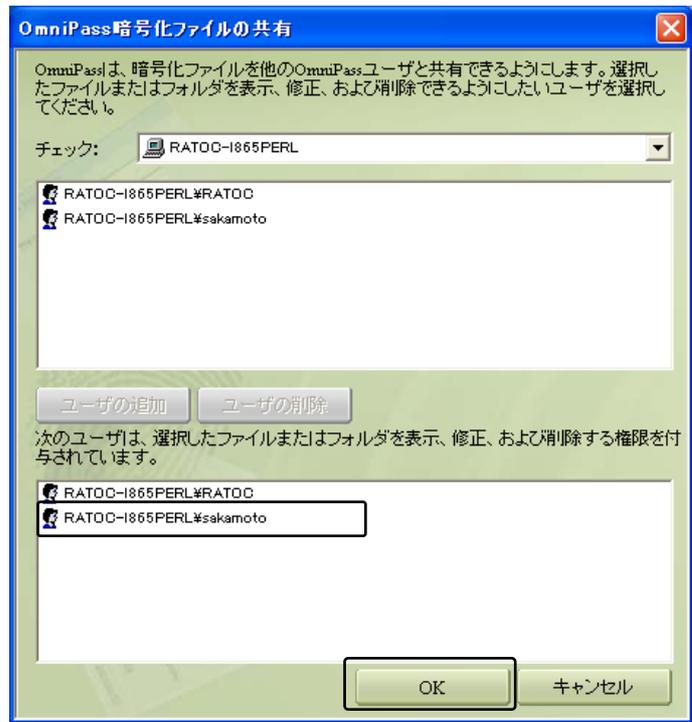


- 3 暗号化ファイルの共有を行うユーザを上部の一覧から選択し、「ユーザの追加」をクリックします。



# 4

下部の一覧に共有化を許可するユーザが追加されます。



OmniPass 暗号化ファイルやフォルダを共有すると、共有するユーザとの間で共有されたリソースを効果的に制御することができます。一旦共有の許可を行うと、許可されたユーザはすべてのファイルのコピー・編集および削除を行うことができ、更には OmniPass ユーザのリストから全てのユーザを排除することができます。許可を与えたユーザが暗号化されたリソースの制御をできないようにすることも可能となりますので、注意してください。



ファイルの共有を許可されたユーザが復号化の操作を行う場合は、ユーザは OmniPass にログオンする必要があります。OmniPass にログオンしていない状態で、ファイルの復号化を行うことはできません。



## 第8章 管理と設定 (Windows 2000)

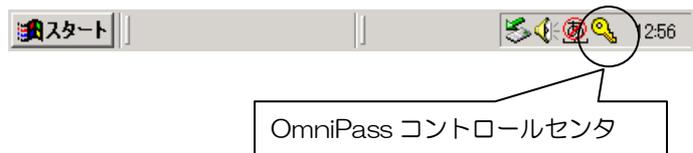
### 8-1. ユーザの追加と削除

※ Windows 7/Vista/XP/Server2008/Server2003 でご利用のお客様は(5-1.ユーザの追加と削除)をご参照ください。

OmniPass ユーザの追加ではユーザ名とパスワードが必要になります。ユーザの追加を行う場合は、先に追加するユーザ Windows のログオンパスワードを作成してください。

#### ■ユーザの追加

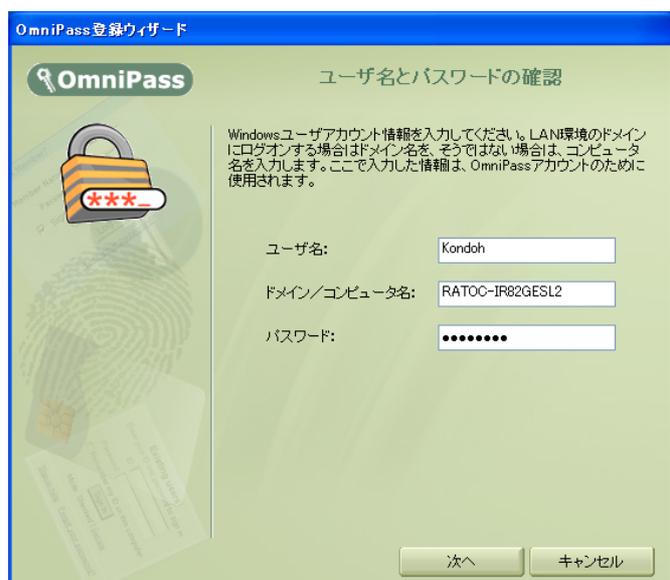
- 1 タスクバーに格納された鍵マーク (OmniPass コントロールセンタ) をダブルクリックします。



- 2 「新規ユーザを OmniPass に追加」をクリックします。



- 3 6-2.OmniPass ユーザ登録で説明されている手順2から手順9に従ってユーザ登録を行います。



## ■ユーザの削除



ユーザを削除すると、そのユーザに関連付けられた OmniPass データは自動的に破棄されます。また、そのユーザが暗号化したファイルは復号化できなくなります。

削除を行う前に、以下の操作を行うことを推奨します。

- (1) OmniPass ユーザプロファイルのバックアップを行う。
- (2) 全ての OmniPass 暗号化ファイル・フォルダを復号化する。
- (3) 記憶させた Web およびアプリのアカウント・パスワード情報のメモを取っておく。

1

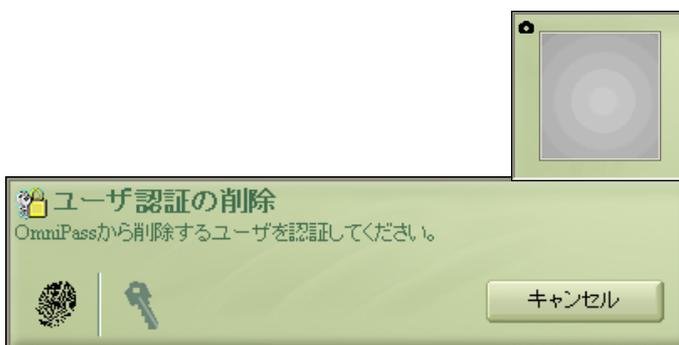
OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザの管理」のページを選択します。

「OmniPass からユーザを削除」をクリックします。



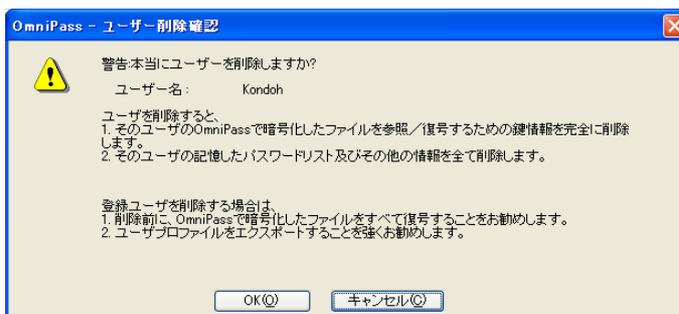
2

削除を行うユーザの指紋認証を行います。



3

削除されるユーザ名と警告の内容を確認して、事前に適切な処置を行った後、問題がなければ「OK(O)」をクリックします。





## 第8章 管理と設定 (Windows 2000)

### 8-2. アカウント情報の管理

※ Windows 7/Vista/XP/Server2008/Server2003 でご利用のお客様は(5-2.アカウント情報の管理)をご参照ください。

「ログオンパスワードの記憶」で OmniPass に記憶させたパスワード情報をパスワードの管理で参照することができます。万が一、パスワードを忘れた場合にも確認できます。

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「アカウントの管理」を選択します。「アカウントの管理」を開くためには、右の認証が必要です。



- 2 「アカウント設定」メニューより、「パスワードの管理」を選択します。「パスワード保護されたダイアログ」に OmniPass が記憶したウェブサイトおよび Windows プログラムの名前が表示されます。「ユーザ名とパスワード」にそれぞれのアカウント情報が表示されます。「ページの削除」をクリックして、記憶した情報を削除することができます。



OmniPass による記憶されたサイトの処理方法には、下記の3つの設定があります。

- (1) パスワード保護されたサイトを選択した場合に自動的にアクセスします。認証プロンプトは表示されません。
- (2) ユーザが認証されると、選択したパスワードダイアログの「OK」または「送信」ボタンが自動的にクリックされます。
- (3) 上記のいずれにもチェックを入れない設定。

デフォルト設定は(2)です。この設定では、OmniPass に記憶されたサイトを開くたびに、SREX-FSU1G 指紋センサによる指紋認証を要求します。

指紋の本人認証に成功すると、このサイトに自動的にログオンします。(1)の設定は、あまり安全ではありません。(1)の設定を有効にすると、このサイトに移動するたびに、OmniPassは認証を要求せずにサイトに自動ログオンします。(3)の設定にすると、OmniPassに記憶されたサイトを開くたびに、SREX-FSU1G 指紋センサによる指紋認証を要求します。本人の指紋認証を行うと、サイトの入力位置へアカウント情報(ユーザIDやパスワード)は自動的に記入されますが、サイトにログオンするためには、WebサイトのOK、送信、またはログオンボタンをクリックする必要があります。



## 第8章 管理と設定 (Windows 2000)

### 8-3. インポートとエクスポート

※ Windows 7/Vista/XP/Server2008/Server2003 でご利用のお客様は(5-3.プロファイルのバックアップと復元)をご参照ください。

ユーザのエクスポートにより、OmniPass に記憶させたサイトのアカウント情報、登録した指紋データをバックアップすることができます。OmniPass のアンインストールを行う前に、必ずユーザのエクスポートを行ってください。

職場のパソコンで暗号化したファイルを自宅のパソコンに持ち帰って復号化したいというような場合、暗号化を行ったパソコンでエクスポートしたユーザプロフィールを復号化したいパソコンにインポートする必要があります。但し、「異なるユーザとしてインポート」をチェックする必要があります。

#### ■ユーザのエクスポート

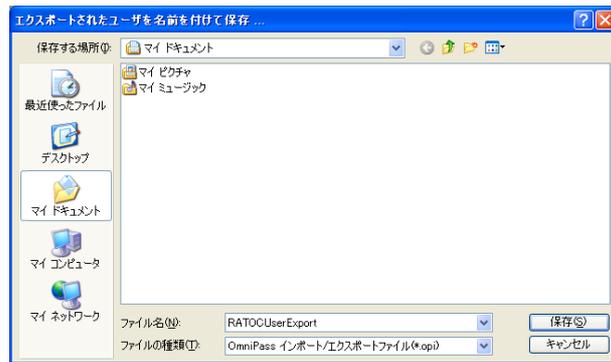
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザの管理」を選択します。「ユーザの管理」のメニューから「ユーザのインポートとエクスポート」を選択し、「OmniPass ユーザプロフィールのエクスポート」をクリックします。



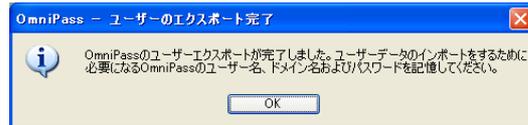
- 2 エクスポートのための認証を行います。



- 3 エクスポートファイルの保存先とファイル名を設定し、「保存(S)」をクリックします。



- 4 「ユーザのエクスポート完了」メッセージが表示されます。「OK」をクリックします。



## ■ユーザのインポート

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザの管理」を選択します。「ユーザの管理」のメニューから「ユーザのインポートとエクスポート」を選択し、「新しいユーザを OmniPass にインポートする」をクリックします。



OmniPass に同じ名前前で登録されたユーザがすでにいる場合、インポートすることはできません。



- 2 「OmniPass インポート/エクスポートファイル」を選択し、「次へ」をクリックします。



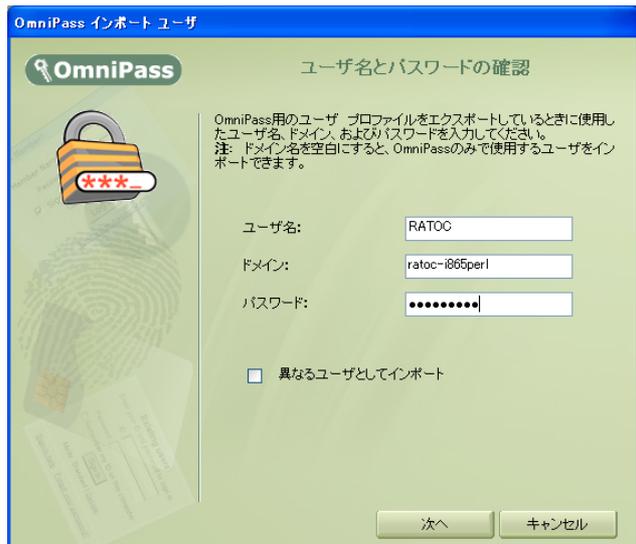
3 インポートするファイルを選択し、「開く(O)」をクリックします。



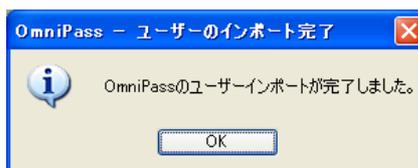
4 ユーザのエクスポートを行った時に使用していた「ユーザー名」・「ドメイン名」・「パスワード」を入力して「次へ」をクリックします。



エクスポートを行った時とインポートするユーザーの「ユーザー名」・「ドメイン名」・「パスワード」が異なる場合は「異なるユーザーとしてインポート」をチェックしてください。2 回目の入力の際にインポートするユーザーの「ユーザー名」・「ドメイン名」・「パスワード」を入力してください。



5 「ユーザーのインポート完了」メッセージが表示されます。「OK」をクリックします。





## 第8章 管理と設定 (Windows 2000)

### 8-4. OmniPass コントロールセンタその他の設定

※ Windows 7/Vista/XP/Server2008/Server2003 でご利用のお客様は(5-4.OmniPass コントロールセンタその他の設定)をご参照ください。

OmniPass のその他の設定機能について説明します。

#### ■ 認証デバイスの登録

「認証デバイスの登録」は、既に登録されたユーザについて、別の指の指紋データも追加登録したい場合に使用します。将来、OmniPass で別の認証デバイスが追加サポートされた場合に、「認証デバイスの登録」よりそのデバイスを登録して、認証に使用することができます。

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定」のページの「登録」を選択し、「認証デバイスの登録」をクリックします。



- 2 「SREX-FSU1 指紋センサー」の指紋表示を選択して、「次へ」をクリックします。

以後の操作は、6-2.OmniPass ユーザ登録の3からの手順と同じです。

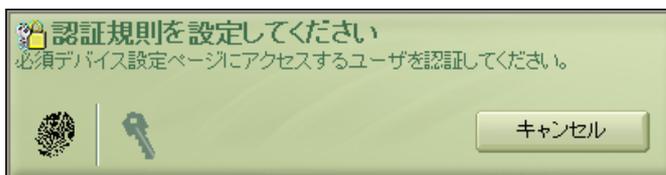


## ■ 認証デバイスの必須設定

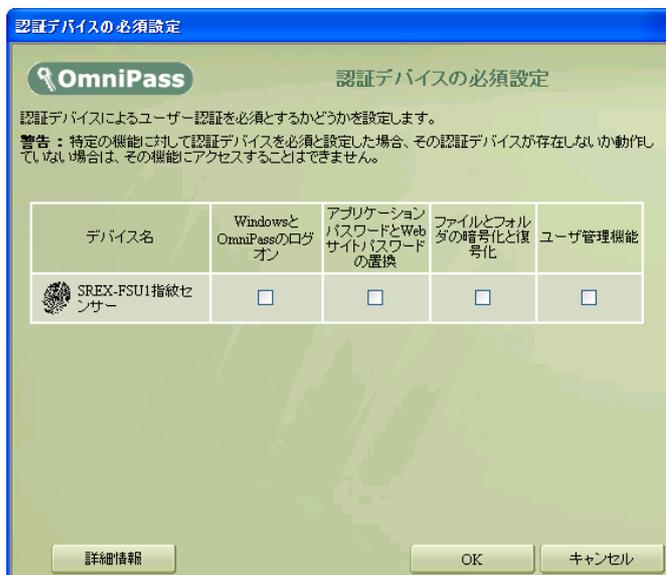
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定」のページの「登録」を選択し、「認証デバイスの必須設定」をクリックします。



- 2 指紋かパスワードで認証を行います。



- 3 認証デバイスの必須設定では、
  - ①Windows と OmniPass のログオン
  - ②アプリケーションパスワードと Web サイトパスワードの置換
  - ③ファイルとフォルダの暗号化と復号化
  - ④ユーザ管理機能
 を行う際に、指紋センサによる認証を必須とするか否かの設定を行うことができます。



1. 「Windows と OmniPass のログオン」の設定を有効にすると、指紋センサによる認証ができなくなった場合、システムにログオンすることができなくなります。

● 設定が無効の場合

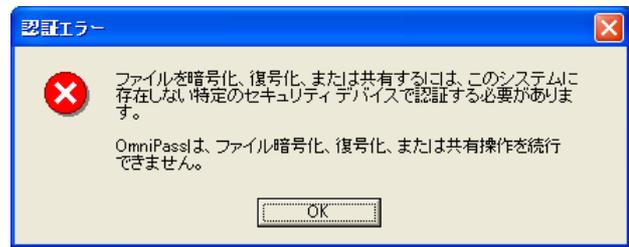
指紋センサが接続されていない場合でも、Windows ログオンパスワードを使ってアクセスすることができます。



A screenshot of the Windows login dialog box. It has a light green background and contains the following fields: 'ユーザー:' with 'RATOC' entered, 'ドメイン:' with 'RATOC-I865PERL' entered, 'パスワード:' which is empty, and 'ID:' with a dropdown menu showing 'RATOC'. An 'OK' button is located to the right of the 'ユーザー:' field.

● 設定が有効の場合

指紋センサが接続されていない場合は、下記のメッセージが表示され認証を行うことができなくなります。



## ■暗号化／復号化

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定」のページを選択し、「暗号化／復号化」メニューをクリックします。

「アルゴリズムの選択」から、

➤RSA Data Security's RC2

➤RSA Data Security's RC4

➤Data Encryption Standard (DES)

を選択することができます。上から下の順で暗号化セキュリティの信頼性は高くなりますが、暗号化・復号化に要する時間は長くなります。



## ■サウンド設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定」のページを選択し、「サウンド設定」メニューをクリックします。

OmniPass のイベント（例えば、ログオン認証に成功した時、認証が拒否されたときなど）をサウンドでユーザに通知する方法を設定できます。



## ■タスクバーヒントの設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザー設定」のページを選択し、「タスクバーヒントを表示」メニューをクリックします。

タスクバーのヒントを表示するという設定にしていれば、OmniPass は「パスワードを記憶」できるタイミングを常に通知しますので、ユーザーにログオンを要求する任意の認証イベントを記憶することができます。



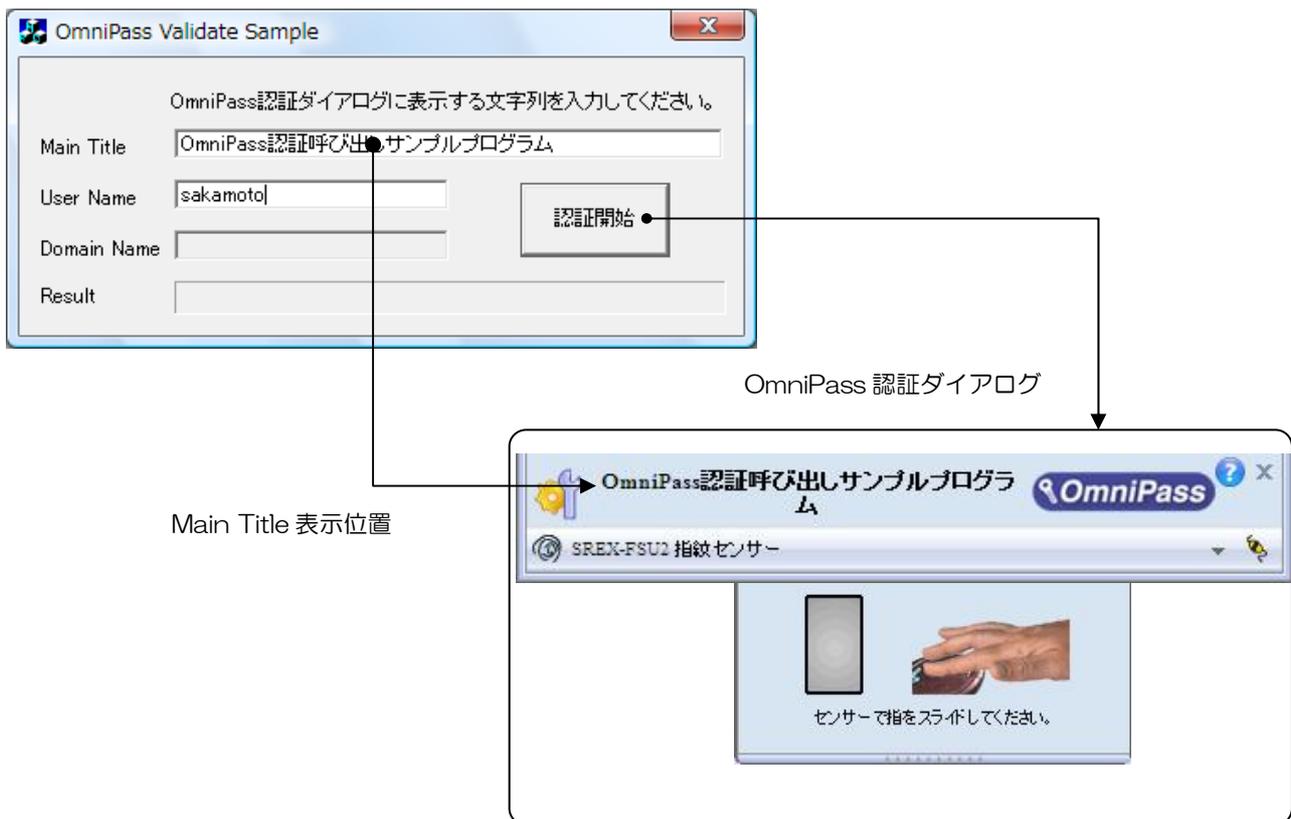


## 9-1. アプリケーション API

アプリケーションプログラムから OmniPass が提供している指紋認証ダイアログを呼び出し、指紋認証を行うプログラム作成方法について説明します。

### ■OmniPass 認証サンプルプログラム概要

製品付属 CD-ROM の「SDK¥OPValidate」フォルダに、アプリケーションプログラムから OmniPass が提供する指紋認証ダイアログを呼び出してユーザ認証を行うサンプルプログラムが格納されています。サンプルプログラム OPValidate.exe を呼び出すと下記のダイアログが表示されます。Main Title 欄に OmniPass 認証ダイアログに表示したい文字列を入力し、User Name 欄に認証を行うユーザ名をセットします。「認証開始」ボタンをクリックすると、OmniPass 認証ダイアログが表示されます。OmniPass 認証ダイアログで指紋認証を行うと、認証結果が Result 欄に表示されます。



## ■API 呼び出し方法

アプリケーションから OmniPass の指紋認証機能呼び出すための準備として、

(1) OmniPass をインストールします。

ダイナミックリンクライブラリ OP3INTC.DLL は、OmniPass をインストールすると自動的にコピーされます。

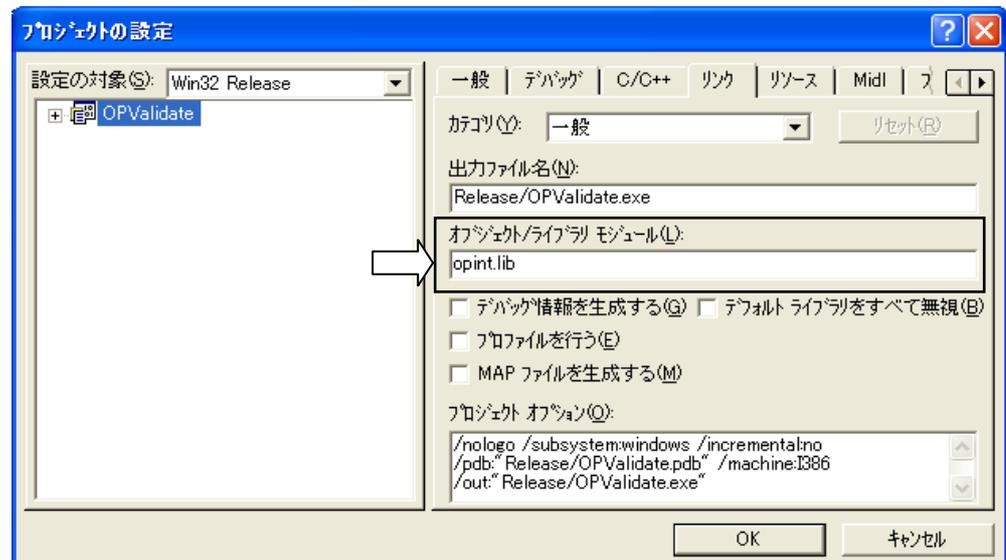
(2) OPINT.LIB ライブラリモジュールをアプリケーションのプロジェクトに追加

スタティックライブラリ OPINT.LIB は製品添付 CD-ROM の「SDK¥Lib」フォルダに格納されています。OPINT.LIB をアプリケーションのプロジェクトにコピーし、プロジェクトの設定より「リンク」ページを開いて、「オブジェクト/ライブラリモジュール(L)」に追加します。

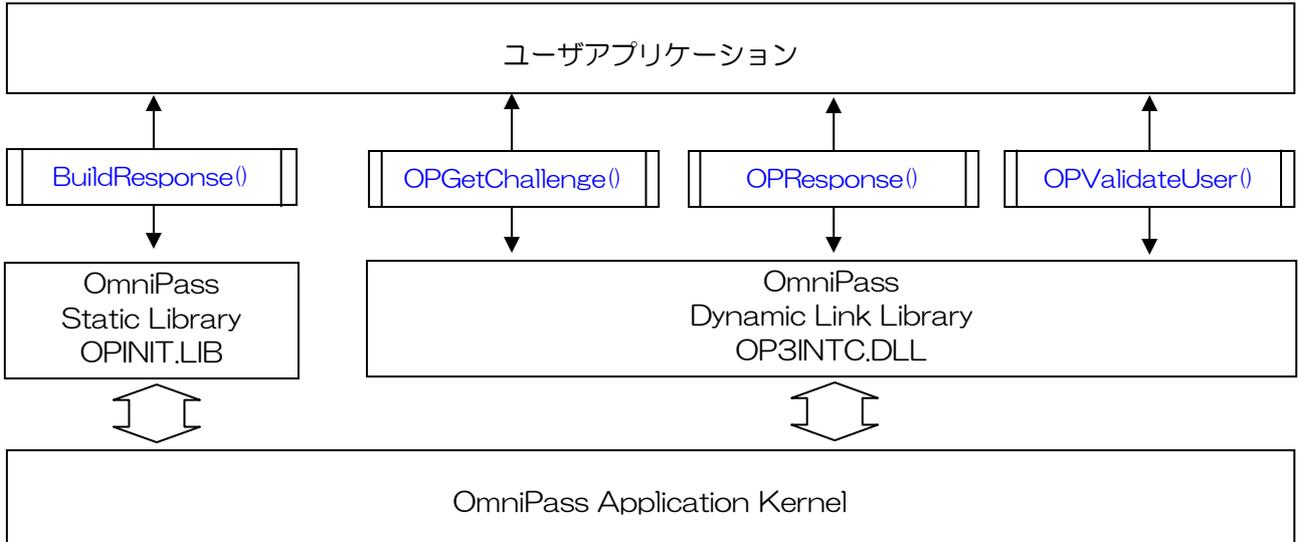
(3) 製品添付 CD-ROM の「SDK¥Include」フォルダに格納されている「OmniPass.h」をアプリケーションのプロジェクトにコピーし、アプリケーションにインクルードします。

(4) アプリケーションの初期化部分で OP3INTC.DLL が提供する OPGetChallenge()、OPResponse()と OPValidateUser()ファンクションのアドレスを取得します。

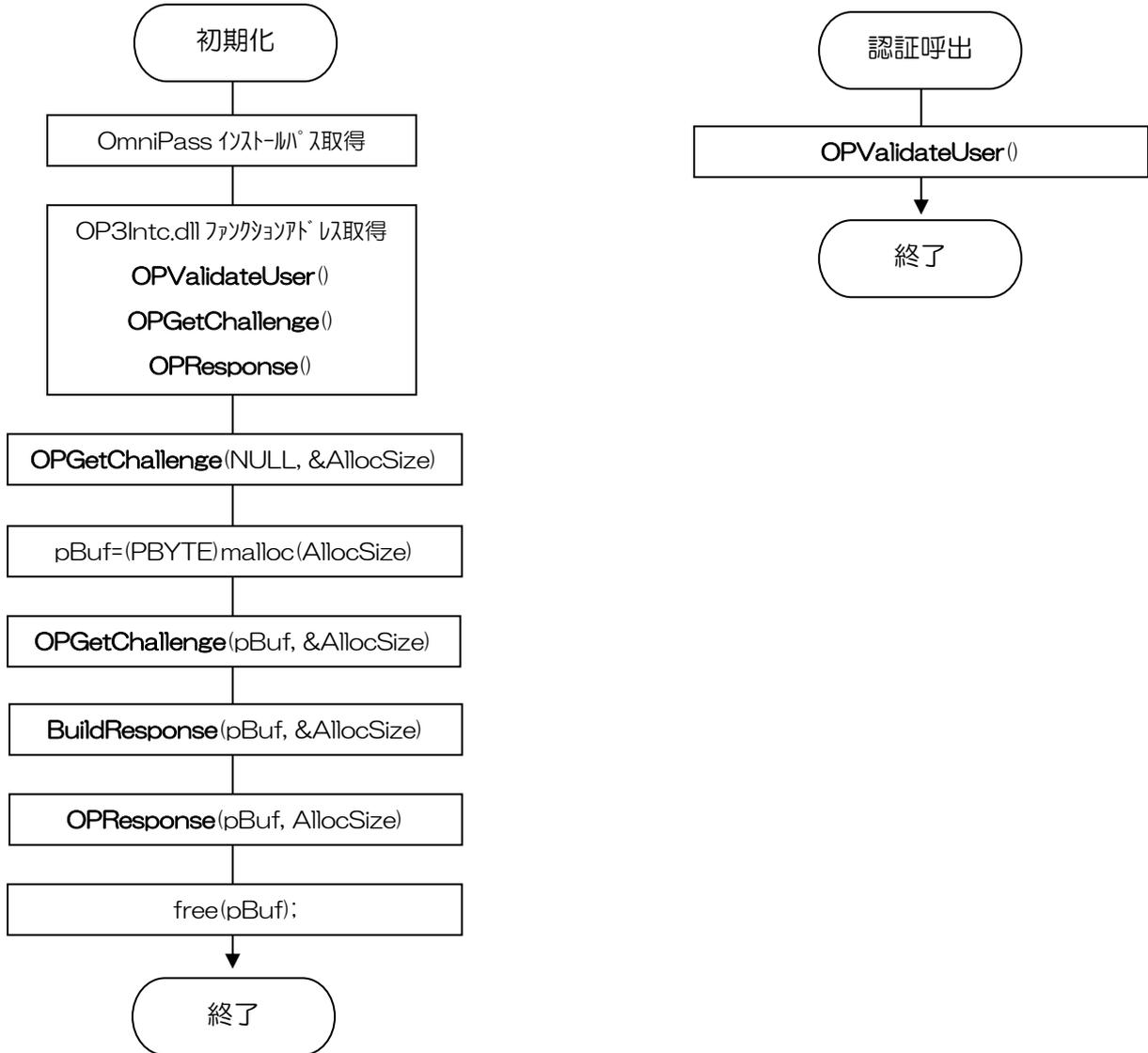
以上で、アプリケーションから各 API を呼び出すための準備は完了です。OPValidateUser()の呼び出しを行うまでのプログラミングフローを次ページに示します。エラー処理等の詳細に関しては、添付のサンプルソースコード「OPValidate」を参照してください。



■OmniPass インターフェイスアーキテクチャ



■プログラミングフロー



## ■API インターフェイス仕様

|                       |                           |
|-----------------------|---------------------------|
| <b>OPValidateUser</b> | <b>OmniPass 認証ダイアログ表示</b> |
|-----------------------|---------------------------|

DWORD OPValidateUser (

PCHAR UserName,                      認証ユーザ名  
PCHAR authTitle,                      認証ダイアログに表示するメインタイトル  
PCHAR authSubTitle                    —  
)

### 引数

UserName                      OmniPass 認証を行うユーザ名が格納されているバッファのアドレスを指定します。ASCII 文字列の終端は NULL ターミネートとしてください。

authTitle                      OmniPass 認証ダイアログのメインタイトルに表示する文字列が格納されているバッファのアドレスを指定します。

authSubTitle                      必ず、NULL を指定してください。

### 戻り値

この関数は下記の DWORD 値を返します。

|                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| OP_RET_USER_VALIDATION_SUCCESSFUL (0) | ユーザが正常に認証されました。  |
| OP_RET_VALIDATE_CALLINGAPP_FAILED (1) | 呼び出しアプリケーションが認証されていません。<br>OPGetChallenge()/OPResponse() でエラーがないか確認してください。 |
| OP_RET_NOT_INSTALLED (2)              | OmniPass がインストールされていません。   |
| OP_RET_INSTALLATION_CORRUPT (3)       | OmniPass が正しくインストールされていません。  |
| OP_RET_USER_NOT_ENROLLED (4)          | 指定されたユーザはOmniPassに登録されていません。   |
| OP_RET_USER_VALIDATION_FAILED (5)     | ユーザ認証に失敗しました。  |
| OP_RET_GENERIC_ERROR (6)              | その他のエラーが発生しました。  |

### 解説

OmniPass は指定されたユーザの認証を行います。ユーザ名格納バッファが NULL の場合は、現在 Windows にログオンしているユーザの認証を行います。

ユーザ名をセットする場合は、下記のフォーマットで認証を行うユーザの名前を指定してください。

ローカルユーザの場合：“. ¥ユーザ名”

ドメインユーザの場合：“ドメイン名¥ユーザ名”

```
ULONG OPGetChallenge (
    PBYTE pBuffer,
    PULONG pLength
)
```

**引数**

**pBuffer**            アプリケーションでアロケーションしたバッファへのポインタをセットします。NULL 以外の値がセットされた場合は、格納されるデータの場所を示します。

**pLength**            ULONG データへのポインタをセットします。pBuffer に NULL がセットされている場合は、このパラメータは無視されます。pBuffer に有効な値がセットされている場合は、pBuffer が示すバッファのサイズをセットしてください。関数が正常に終了した場合は、pBuffer に返されたデータのサイズがセットされます。

**戻り値**            この関数は下記の ULONG 値を返します。

|                                  |          |  |
|----------------------------------|----------|--|
| <code>ERROR_NONE</code>          | (0x0000) | 正常終了したことを示します。                           |
| <code>ERROR_INTERNAL</code>      | (0x00F1) | OmniPass で内部エラーが発生したことを示します。             |
| <code>ERROR_INVALID_PARAM</code> | (0x00F2) | 無効なパラメータがセットされたことを示します。                  |
| <code>ERROR_INVALID_SIZE</code>  | (0x00F3) | 指定のパラメータが無効であるか、必要となるサイズを満足していないことを示します。 |

**解説**

この関数は OmniPass の認証関数 OPValidateUser () を使用する前に、手順に従って 2 回呼び出す必要があります (API 呼び出しフロー図を参照してください)。初回の呼び出しでは、pBuffer に NULL をセットして呼び出しを行い、pLength に返される必要バッファのサイズを取得します。その後、pLength で指定された大きさのバッファを確保し、pBuffer に確保したバッファへのポインタ、pLength には確保したバッファサイズをセットし、再度この関数を呼び出します。関数が正常に終了した場合は、このバッファに BuildResponse () に引き渡すデータがセットされます。

```

ULONG OPResponse (
    PBYTE pBuffer,
    PULONG pLength
)

```

## 引数

pBuffer           アプリケーションでアロケーションしたバッファへのポインタをセットします。このバッファには BuildResponse() で返されたデータが格納されている必要があります。

pLength           pBuffer に格納された有効データのサイズをセットします。

## 戻り値

この関数は下記の ULONG 値を返します。

|                     |          |  |
|---------------------|----------|--|
| ERROR_NONE          | (0x0000) | 正常終了したことを示します。                           |
| ERROR_INTERNAL      | (0x00F1) | OmniPass で内部エラーが発生したことを示します。             |
| ERROR_INVALID_PARAM | (0x00F2) | 無効なパラメータがセットされたことを示します。                  |
| ERROR_INVALID_SIZE  | (0x00F3) | 指定のパラメータが無効であるか、必要となるサイズを満足していないことを示します。 |

## 解説

この関数は OmniPass 認証関数 OPValidateUser() の初期化処理として使用します。この関数の戻り値が ERROR\_NONE の場合は、OPValidateUser() の呼び出しの準備が整ったことを意味します。ERROR\_NONE 以外の場合は、OPValidateUser() を呼び出すことはできません。

```
ULONG BuildResponse (
    PBYTE pBuffer,
    PULONG pLength
)
```

## 引数

pBuffer           アプリケーションでアロケーションしたバッファへのポインタをセットします。このバッファには OPGetChallenge () で返されたデータが格納されている必要があります。

pLength           pBuffer に格納された有効データのサイズをセットします。OPGetChallenge () で返されたデータ長をセットしてください。

## 戻り値

この関数は下記の ULONG 値を返します。

|                     |          |  |
|---------------------|----------|--|
| ERROR_NONE          | (0x0000) | 正常終了したことを示します。                           |
| ERROR_INTERNAL      | (0x00F1) | OmniPass で内部エラーが発生したことを示します。             |
| ERROR_INVALID_PARAM | (0x00F2) | 無効なパラメータがセットされたことを示します。                  |
| ERROR_INVALID_SIZE  | (0x00F3) | 指定のパラメータが無効であるか、必要となるサイズを満足していないことを示します。 |

## 解説

この関数は OmniPass 認証関数 OPValidateUser () の初期化処理として使用します。この関数の戻り値が ERROR\_NONE の場合は、レスポンスバッファ pBuffer が正常にビルドされたことを意味します。このバッファは、OPResponse () に引き渡してください。



## 9-2. トラブルシューティング

指紋センサと OmniPass を使用される際に発生する既知の問題と回避方法について説明します。その他のご質問に関しては、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

### ■OmniPass ログオン画面が表示されない

#### 【現象】

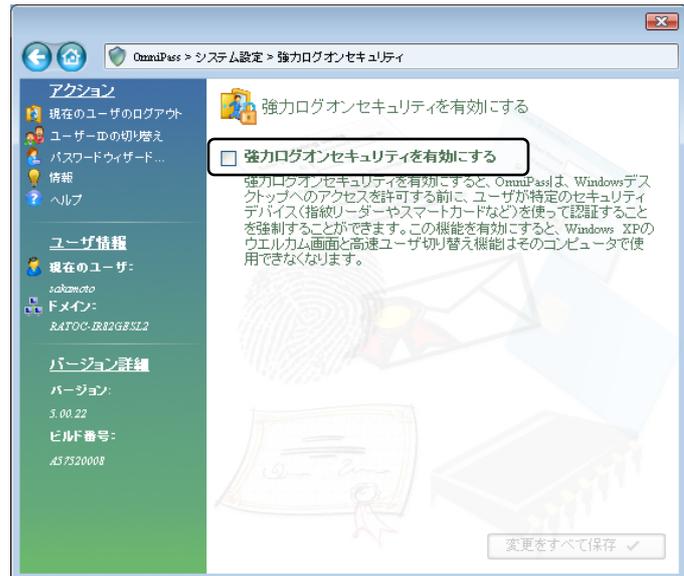
Windows ログオン時に OmniPass 指紋認証によるログオン画面が表示されない。

WindowsXp Home Edition をご利用されている場合に発生する問題です。

#### 【回避方法】

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定」のページを選択し、システム設定の「強力ログオンセキュリティを有効にする」をクリックします。

右の「強力ログオンセキュリティを有効にする」にチェックを入れ、パソコンを再起動します。



## ■OmniPass ユーザの追加ができない

### 【現象】

OmniPass に Windows ユーザを追加できない。

### 【回避方法】

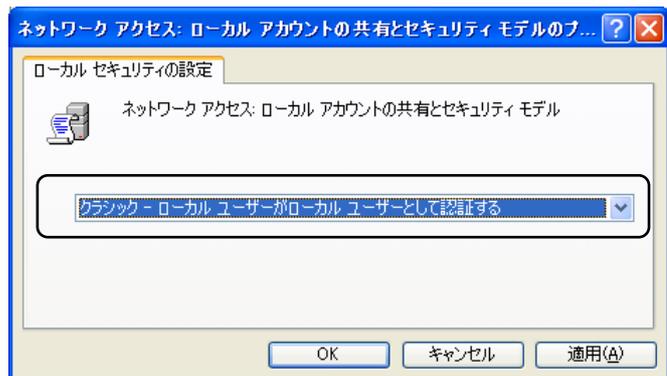
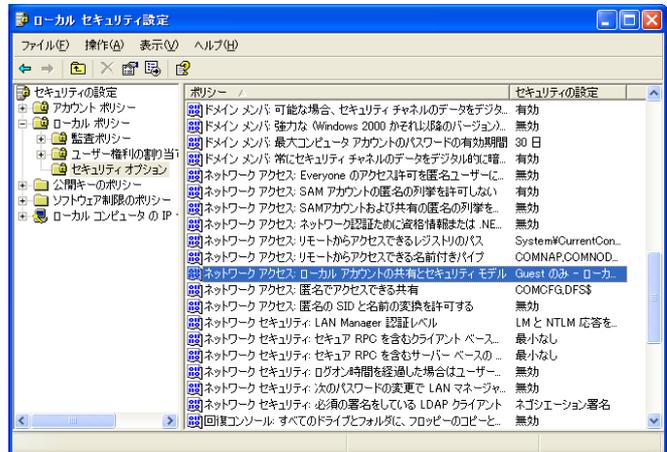
ローカルのセキュリティ設定を調整する必要があります。セキュリティ設定を調整するためには、「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネルの表示をクラシックに切り替えます。「管理ツール」を選択し、「ローカルセキュリティポリシー」をクリックします。

ローカルポリシーを展開し、セキュリティオプションを展開し、「ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル」をダブルクリックします。

右の「ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティモデルのプロパティ」ダイアログより、「クラシック - ローカルユーザがローカルユーザとして認証する」を選択し、「OK」をクリックします。



WindowsXP Home Edition ではローカルのセキュリティ設定を調整することはできません。



## ■ブランクパスワードのユーザを OmniPass に追加できない

### 【現象】

ブランクのパスワードを持つユーザを OmniPass に追加できない。

### 【回避方法】

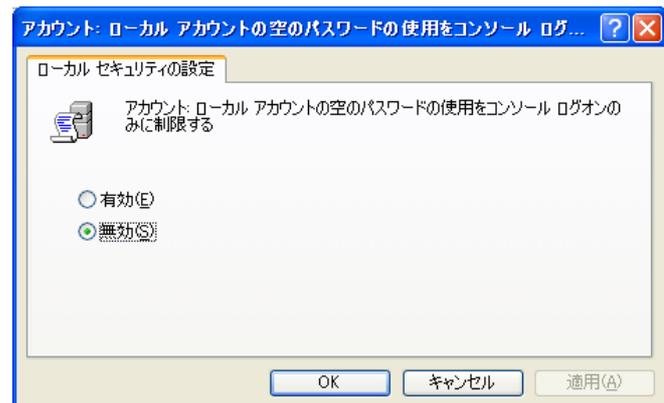
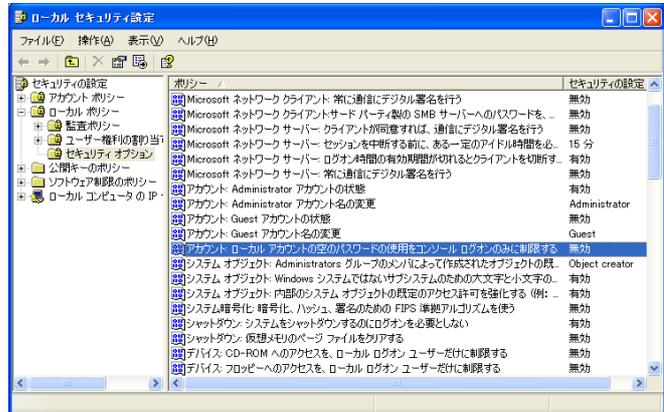
ローカルのセキュリティ設定を調整する必要があります。セキュリティ設定を調整するためには、「スタートボタン」から「コントロールパネル」を選択し、コントロールパネルの表示をクラシックに切り替えます。「管理ツール」を選択し、「ローカルセキュリティポリシー」をクリックします。

ローカルポリシーを展開し、セキュリティオプションを展開し、「アカウント：ローカルアカウントの空のパスワードの使用をコンソールログオンだけに制限する」をダブルクリックします。

「アカウント：ローカルアカウントの空のパスワードの使用をコンソールログオンだけに制限する」プロパティを開き、「無効」にチェックを入れて「OK」をクリックします。



WindowsXP Home Edition ではローカルのセキュリティ設定を調整することはできません。



## RATOC SREX-FSU1G/FSU2 質問用紙

●下記ユーザ情報をご記入願います。

|          |         |         |     |  |
|----------|---------|---------|-----|--|
| 法人登録の方のみ | 会社名・学校名 |         |     |  |
|          | 所属部署    |         |     |  |
| ご担当者名    |         |         |     |  |
| E-Mail   |         |         |     |  |
| 住所       | 〒       |         |     |  |
| TEL      |         | FAX     |     |  |
| 製品型番     |         | シリアルNo. |     |  |
| ご購入情報    | 販売店名    |         | 購入日 |  |

●下記運用環境情報とお問い合わせ内容をご記入願います。

|                         |
|-------------------------|
| 【パソコン/マザーボードのメーカー名と機種名】 |
| 【ご利用のOS】                |
| 【指紋センサと OmniPass バージョン】 |
| 【お問合せ内容】                |
| 【添付資料】                  |



個人情報取り扱いについて

ご連絡いただいた氏名、住所、電話番号、メールアドレス、その他の個人情報は、お客様への回答など本件に関わる業務のみに利用し、他の目的では利用致しません。

